

神性論正誤

測難クノ下其ヲ脱ス

五十八丁三行

神ハ乃チハ我ハ乃チノ誤

七十二丁八行

ヨモフハヨ一ブフ誤

七十二丁九行

甚クハ甚ク過レタル事ヲノ誤

七十三丁十一行

六ハ五ノ誤

八十二丁二行

聖ナゾズハ聖ナラズノ誤

九十三丁四行

及對説ハ反對説ノ誤

九十四丁十一行

騙ヲハ騙テノ誤

百七丁十一行

無ナリハ術

百八丁十行

必ノ下ヲ脱ス

百廿一丁十行

此夜語ハ此夜智ノ誤

百三十一丁一行

此夜語ハ此夜智ノ誤

百三十一丁一行

黥汚ナク凡テハ黥汚ナク皺ナク凡

テ此ノ如キ類ナク聖ニシテノ誤 百七十二丁 六行
救ハ救ノ誤 百七十五丁 七行

二 聖經ハ聖靈ニ神ノ性徳ヲ歸スノ下左ノ數行
ヲ脱ス

永遠不窮○希伯來九ノ十四ニハ聖靈ヲ指シテ永
遠ノ靈ト呼ベリ

無所不在○詩篇百三十九ノ七ニ曰我汝ノ靈ヲ避
ケテ何處ニ往ン乎豈テ汝ノ而前ヲ逃ルベケンヤ

○前哥林十二ノ十三參考
無所不知○前哥林二ノ十、十一ニ曰然レド神ハ其

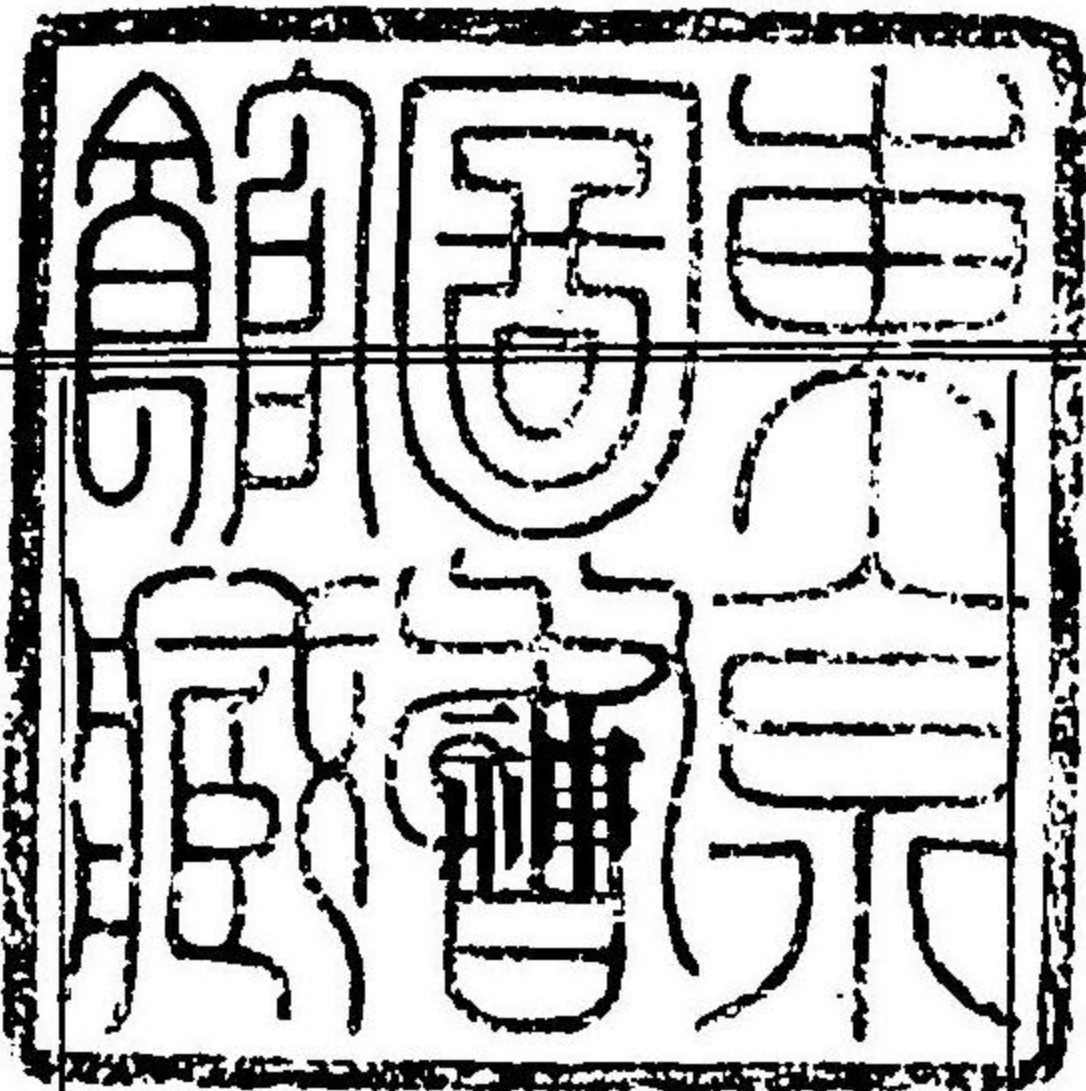
靈ヲ以テ我儕ニ之ヲ顯ハセリ靈ハ萬事ヲ究知リ
神ノ深事ヲ究知ル也夫レ人ノ事ハ其中ニアル靈

又ノ外ニ誰カ之ヲ知ラン乎此ノ如ク神ノ事ハ神
ノ靈ノ外ニ之ヲ知ル者ナレ

三 聖經ハ聖靈ニ神ノ行爲ヲ歸ス
八ヨリ十八八ヨリ十一ノ誤 百八十二丁 七行

評論ハ詳論ノ誤 百九十二丁 二行

No 9088



明治學院教授
明治學院教授

博士アメルマン著
井深梶之助譯



性

論

完

明治廿一年
三月

米國聖教書類會社藏版

神性論自叙

此書中神ノ性徳並ニ其存在ノ有様ヲ論ズル
ニ當テ基督教ノ聖經ハ即チ神ノ言ニシテ凡
テ基督教神學ノ基址タル者ト爲セリ此書ノ
主意ハ第一須要ナル時ニハ字意ヲ定解シ第
二教ノ由テ立ツ所ノ聖經ノ本文ヲ指明分類
シ第三人間ノ道理及ビ天地間人目ニ觸ル、
所ノ事物ヲ以テ此等ノ教理ヲ彰明安定スル
ニ在リ又我ガ定見ニ反對スル議論ノ緊要ナ
ル者ニハ夫々適當ノ處ニ於テ簡略ニ答辨ヲ

加ヘタリ願クハ此書ニシテ眞神ヲ知ラント
欲スル人々ノ一助タラン事是レ著者ノ切ニ
望ミ且祈ル所也

千八百八十五年二月於東京一致
神學校 著者識

神性論目次

總論

第一篇	神ノ存在ニ屬スル性徳ヲ論ズ	一丁
第一章	神ハ惟一ナリ	九丁
第二章	神ハ靈ナリ	一三丁
第三章	神ハ在ラザル所ナシ	二一丁
第四章	神ハ永遠無窮ナリ	三三丁
第五章	神ハ成全ナリ故ニ獨立ナリ	三六丁
第六章	神ハ變易スルコトナシ	四一丁
第二篇	神ノ行爲ニ屬スル性徳ヲ論ズ	
第一章	神ハ知ラザル所ナシ	五一丁

第二章 神ノ智慧 六四丁

第三章 神ハ能ハザル所ナシ 七二丁

第四章 神ノ主權 七八丁

第五章 神ノ聖 八七丁

第六章 神ノ公義 九九丁

第七章 神ノ善 一三丁

第八章 神ノ眞實 三三丁

第三篇上 神ノ存在ノ有様ヲ論ズ 一四五丁

第一章 聖經ハ惟神ニ「ベルソナ」以上 一丁

アル事ヲ教フル耳ナラズ即チ

「ベルソナ」アル事ヲ教フ 一四八丁

第二章 聖經ハ神ノ子イエスキリスト

ハ一個ノ殊別ナル「ベルソナ」ニ

シテ而モ眞ニ神タル事ヲ教フ 一五三丁

第三章 聖經ハ聖靈ハ一個ノ殊別ナル

「ベルソナ」ニシテ而モ眞ニ神タル

事ヲ教フ 一七四丁

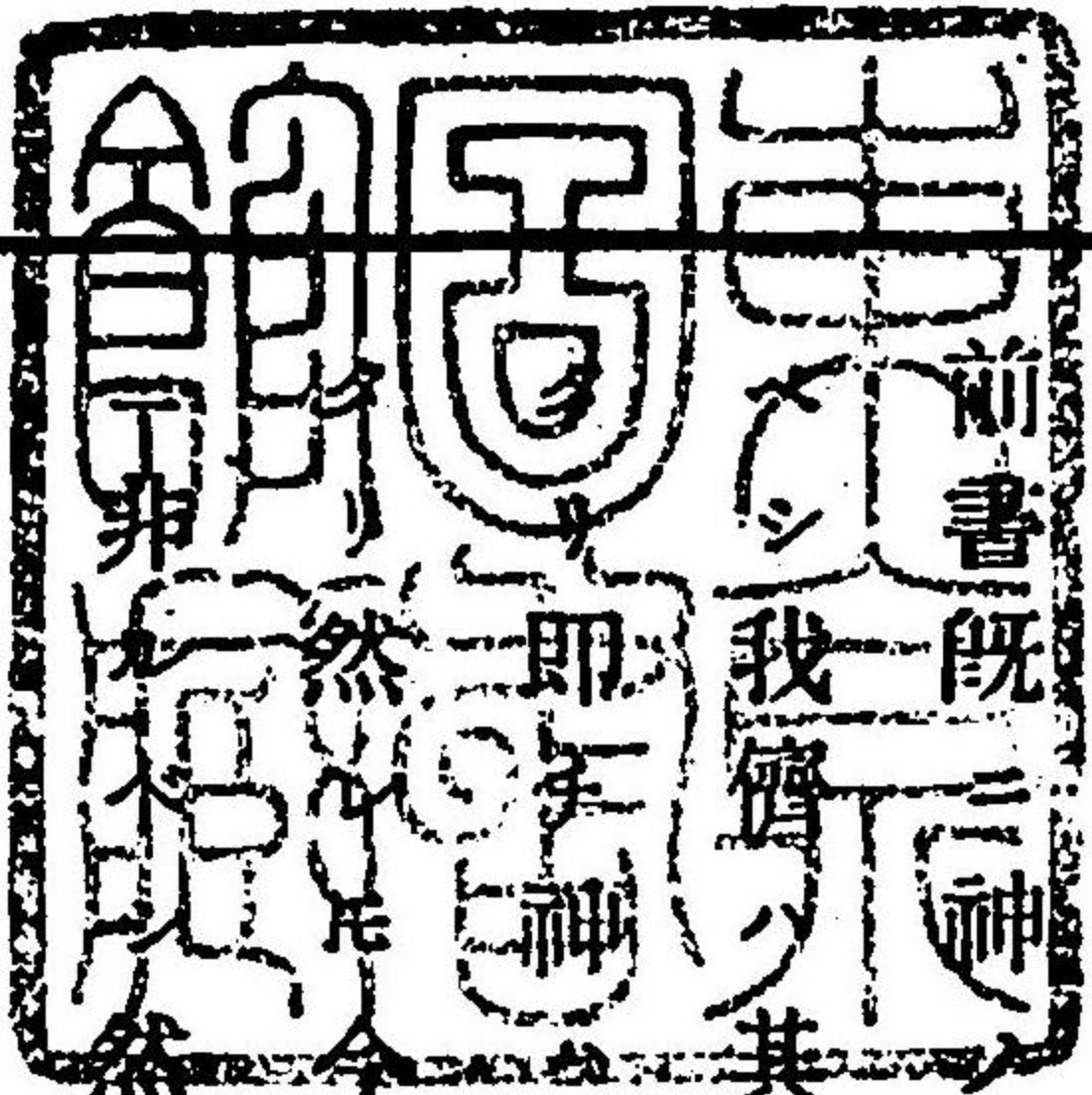
第四章 聖經ハ此「ベルソナ」ノ性質及

ビ相互ノ關係ヲ教フ 一八八丁

第三篇下 神ノ存在ノ有様ヲ論ズ 一九八丁

神性論

總論



フベキ事アリ

第一 我儕ハ全ク神ヲ識得ベシト思惟スベカラズ全ク神
 ヲ識ラシニハ萬事神ト同等カラザル可ラズ即チ神ノ如ク
 廣大叡智聖善ナラザル可ラザル也三尺ノ童子モ多少大學

者ノ事ヲ知ルコトヲ得ベシ然レモ全クハ之ヲ知ルコト能
ハズ生長シテ大人トナリ自ヲ廣大博識ノ大學者トナルニ
非ザレバ其廣大博識ヲ盡ク知ルコト能ハザル也此譬喩モ
尙未ダ盡サ、ル所アリ何トナレバ神ト人トノ差異ハ大學
者ト小童トノ差異ニ非ザレバ也然レモ之ニ由テ我儕ハ神
ヲ全ク識得ルコト能ハズトノ意味ヲ明示スルニ足ラン始
祖ヨ、一、ブ曰汝豈能ク神ノ深奥ヲ窺測ラン乎豈能ク全能者
ヲ知盡サン乎(約百紀十一ノ七)使徒パウロ曰嗚呼神ノ智ト
識ノ富ハ深イ哉其法度ハ測リ難ク其踪跡ハ尋子難シ(羅馬
十一ノ三十三)然レドモ我儕ハ幾分カ神ノ事ヲ知ルコトヲ
得ベシ縱令靈トハ何物ナル乎全ク理會スルコト能ハザル

モ神ハ全靈無質タル事ヲ知得ベシ又神ハ限ナク智ク且聖
ク且在ラザル所ナク能ハザル所ナキコトヲ知ル縱令我儕
ハ此等ノ性徳ノ何物タルヲ未ダ全ク理會スルコト能ハザ
ルモ尙能ク之ヲ知ルコトヲ得ル也夫レ神ノ性徳ハ成全ナ
ル者ナリ我儕ハ人トシテ不完全ナガラモ幾分カ神ニ類ス
ル所ノ性徳アリ何トナレバ我儕ハ靈性アル者即チ特ニ肉
體ノミナラズ靈魂ヲ具有スル者ナレバ也我儕ハ人ニ就テ
モ善智等ノ語ヲ用ユルコトアリ然ト雖神ニ就テ善ト云ヒ
又智ト云フ時ハ人間ノ善智ヲ謂フニ非ラズ乃チ成全ノ善
智ヲ指スナリ宜ク之ヲ記臆スベシ

第二 我儕ハ既ニ聖經ハ神ノ言タル事ヲ學ベリ故ニ今其

証據ヲ論ゼズ然レモ此講義ノ首ニ當テ我儕ハ第一聖經ニ
依テ神ノ性徳ヲ考察スルコトヲ明言スルハ甚ダ緊要ナリ
蓋萬有ノ考察ニ由テモ神ノ事ヲ發明スル所少シトセズト
雖神ノ言ニ由テ知ル所ハ遙ニ之ニ勝ル也理ニ於テ亦當ニ
然ルベキ也何トナレバ聖經ハ特別ニ神ヲ人ニ顯サン爲ニ
授ケラレタル啓示ナレバ也我儕神ノ聖經ヲ繙キ謹テ其言
ニ耳ヲ傾クレバ萬有ト凡テ真正ノ學術ニ於テモ亦其應響
ヲ聽クベシ蓋萬有ト學術トハ自ラ光ヲ發スルコト能ハザ
ル者ナリ然レモ神ノ言ヨリ光ヲ受ルモハ萬有學術モ能ク
其光ヲ反射ス然リ而シテ我儕ハ此二ノ者ニ於テモ聖經ニ於
テモ同一ノ榮光即チ眞神ノ榮光ヲ見ルナリ聖書ニ曰光ニ

命シテ暗ヨリ照出シメタル神我儕ヲシテイエスキリスト
ノ面ニアル神ノ榮光ヲ知ルノ光ヲ顯サシメン爲ニ我儕ノ
心ヲ照シ給ヘリ(後哥林四ノ六)是故ニ我儕ハ先ヅ聖經ニ啓
示セラレタル所ニ依リテ神ノ性徳ヲ明示シ而シテ後ニ萬有
ト人ノ道理ハ如何ニ聖經ノ教理ニ符合スルヤヲ考察ス可
シ
人或ハ曰ン神ノ性徳トハ何ノ意ゾヤト曰神ノ性徳トハ即
チ聖經ニ於テ神ニ歸スル所及ビ創造、攝理、贖罪ノ行爲ニ於
テ顯ハル、所ノ成全ノ徳ヲ云フ也
然リ而シテ此等ノ性徳ハ神自ラト分離ス可ラザル者也人ニ
就テ徳ト云ヒ智ト云ヒ能ト云フ時ハ其能ク増減スベク或

ハ盡ク失シ得ベキコトヲ知ル蓋人ハ縱令其德義智能等ニ
増減アリトモ或ハ全ク此等ノ者ヲ失フトモ尙能ク人タル
コトヲ得ベシ然レモ神ニ於テハ然ラズ神ニ於テハ此等ノ者
ハ成全ニノ秋毫モ増減ス可ラザル也若シ神ニシテ此等ノ
性德ナクシテ尙存在スルコトヲ得ハ最早神ニハ非ザル也
故ニ曰神ノ性德ハ神自ラト分離ス可ラザル者也ト聖書ニ
曰神ハ即チ愛ナリ凡ソ愛ニ居ル者ハ神ニ居リ神又彼ニ居
ル(第一約翰四ノ十六)又曰神ハ即チ光ナリ少シノ暗處ナシ
(同書一ノ五)又次ノ明文ヲ比較スベシ夫レ神ハアブラハム
ニ約束シ給ヒシ時已ヨリ大ナル者ヲ指テ誓フベキナキガ
故ニ已ヲ指シテ誓ヒ給ヘリ(希伯來六ノ十三)エホバハ己ノ

聖善ヲ指テ誓ヒ給ケルハ云々(亞摩四ノ二)

且夫レ神ノ性德ハ人之ヲ區別スト雖モ其本質ニ於テハ相
異ナル者ニ非ズ人間ニハ或ハ人ト交テ公義ヲ欠カザルモ
愛情ニ乏シキ者アラン或ハ愛情餘リアルモ智慧ナキ者ア
ラン然レモ神ニ於テハ然ラズ神ノ性德ハ神自ラト別ナラ
ザルガ故ニ愛スル所ノ神ハ即チ公義ノ神ニシテ公義叡智
ノ神ハ即チ慈愛ノ神也故ニ我儕ハ我が心思ニ於テ神ノ諸
ノ行爲或ハ關係ノ著明ナルト著明ナラザルトニ依テ其性
德ヲ區別スト雖モ神ノ性德ハ實ニ相異ナル者ニ非ザル也
神ノ性德ノ分類ヲ論ズ
我儕ガ神ノ性德ヲ悟ルニ便ナランガ爲ニ神學ヲ論ズル者

ハ大抵之ヲ分テ二類トナス然レモ前文既ニ辨シタルガ如クナルヲ以テ是ノ如キ分類ハ固ヨリ不完全ノ者ナリト知ルベシ然レモ聖經ニ於テモ或ハ神ヲ特ニ神自己ノ上ニ就テ顯ハシ或ハ其受造者トノ關係ノ上ニ就テ顯ハシタルバ我儕モ其存在ノ様ニ属スル性徳ト其行爲ノ様ニ属スル性徳トヲ區別スルコトヲ得ベシ但シ此等ノ區別ハ特ニ辨論ニ便ナランガ爲ニシテ實ニ神ノ性徳ニ於テ此區別アルニ非ザル事ヲ忘ル可ラズ

或學者ハ此區別ヲ指テ不可與的アウタカサレノ性徳及ビ可與的アウタカサノ性徳ト稱ス不可與的ノ性徳トハ凡テ受造者ノ有セザル所又有スルユト能ハザル所又之ニ類似ノ者ヲモ有スルコト能ハ

ザル所ノ性徳ヲ指ス譬ハ其永遠不易無所不在等ノ性徳ノ如シ可與的ノ性徳トハ受造者モ幾分カ有スルコトヲ得ル所ノ性徳ヲ指ス譬ハ其知識誠實能力等ノ如シ此區別ハ其名ハ異ナリト雖モ實ハ前ノ區別ト異ナルコトナシ然レモ實ハ神ノ性徳ハ一トシテ受造者ニ賦與スベキ者ニ非ラス故ニ我儕ハ神ノ存在ノ様ニ属スル所ノ性徳ト其行爲ノ様ニ属スル所ノ者ニ依テ區別スルヲ寧ロ便ナリトス

第一篇 神ノ存在ニ属スル性徳ヲ論ズ

第一章 神ハ惟一ナリ

神ハ惟一ナリトハ即チ其獨一無二ナルヲ云フ此眞理ハ舊新約共ニ明言スル所也○出埃及記二十ノ三ニ曰汝我面ノ

前ニ我ノ外何物モ神トナス可ラズ○復傳律例四ノ三十五
ニ曰エホバハ即チ神ニシテ其外ニ神ナキ事ヲ知ラシメン
爲ニ汝等ニ之ヲ啓示サレタリ○同六ノ四ニ曰イスラエル
ヨ聽ケ我等ノ神エホバハ即チ惟一ノエホバ也○列王記上
八ノ六十二曰是レ天下ノ萬民ヲシテエホバハ即チ神ニシ
テ別ニ神ナキヲ知ラシメンガ爲也○以賽亞四十四ノ六
ニ曰エホバイスラエルノ王即チ其贖者萬軍ノエホバ是ノ
如ク言テ曰我ハ乃チ原始ナリ我ハ乃チ末後ナリ我ノ外ニ
他神アルコトナシ○同四十五ノ二十二ニ曰地ノ諸極ヨ汝
宜ク我ヲ望テ救ヲ得ベシ蓋我ハ即チ神ニシテ他アルヲ無
ケレバ也○馬可十二ノ二十九ト三十二ニ曰イエス彼ニ答

十

テ曰ケルハ凡ノ誠ノ首ハイスラエルヨ聽ケ主ナル我儕ノ
神ハ即チ一ノ主也學者イエスニ曰ケルハ善カナ師ヨ汝神
ハ即チ一ニシテ他ニ神ナシト曰シハ眞ナリ○約翰十七ノ三
ニ曰永生トハ唯一ノ眞ノ神ナル汝ト其遣シ、イエスキリ
ストヲ知ル是也○前哥林八ノ四ヨリ六ニ曰又獨一ノ神ノ
外ニ神ナキヲ知ル神ト稱ル者或ハ天ニアリ或ハ地ニ在テ
多ノ神多ノ主アルガ如シト雖我儕ニ於テハ惟一ノ神即チ
父アルノミ萬物之ヨリ成リ我儕之ニ歸ス又獨一ノ主即チ
イエスキリストアリ萬物之ニ由リ我儕モ之ニ由レリ
蓋前ノ講義ニ示シタル所ノ神ノ存在ヲ信シ且其理ヲ悟ル
者ハ一ノ神ノ他ニ又神アリト信ズルヲ能ハザルベシ何ト

ナレバ聖經ノ教ハ即チ人ノ道理ニ符合スレバ也
我儕ハ今二ノ議論ヲ述テ以テ足レリト爲スベシ

第一 宇宙ハ全體トシテモ凡テ其部分ニ於テモ一個ノ和合シタル組織タル事明カ也(有神論第二章第三章ヲ参考セヨ)然レ苟モ結果アレバ必ズ其原因アリトハ正確ノ議論ニシテ且此ニ經營ノ徵アレバ必ズ之ガ經營者ナキヲ得ズトセバ我儕ハ此宇宙ノ和合シタル組織ニ由テ其原因及ビ經營ノ惟一ナル事即チ神ハ獨一無二ナル事ヲ證スルコトヲ得ベシ

第二 加之ナラズ理ニ於テ無限ナル存在者ニシテ二アルベキ様ナシ設シ之レアリトセバ其二ノ中孰レカ必ズ全能

即チ無限ノ能力ヲ有スル所ノ者アリテ其他ヲ制スル所ナカル可ラズ果シテ然ラバ其他ノ一ハ無限ノ能力アル者ニ非ズ特ニ能力ノミナラズ其他ノ性徳ニ於テモ亦然リ二ノ者齊シク在ラザル所ナキコト能ハズ必ズ一ノ爲ニ他ノ一ハ制限セラレザルヲ得ザル也

然ラバ則チ二ノ無限ナル存在者アル事ハ聖經及ビ道理ノ相共ニ許容セザル所ナリ且神ハ獨一無二ナリトノ真理ハ凡ノ人類ヲ合セテ創造ヲ惟一ノ造物者ニ受ケ且責任ヲ惟一ノ立法者ニ對シテ負フ者トナシ且模範ヲ惟一ノ成全ニ取ラシムル也

第二章 神ハ靈ナリ

約翰傳四ノ二十四ニ曰神ハ靈也ト夫レ靈トハ人ノ如ク形體ナキ活ケル存在者ニシテ物質ヨリ成立タズ且凡ソ物質ノ免ル可ラザル界限ニ由テ制セラレザル者也故ニ神ハ我儕ノ五官ニ由テ感覺スベキ者ニ非ズ即チ目以テ視ル可ラズ耳以テ聽ク可ラズ手以テ觸ル可ラザル者也哥羅西一ノ十五ニハ人ノ見ルコト能ハザル神トアリ

第一 神ハ無限ノ靈トシテ凡テ靈ナル者ニ屬スル所ノ才能ヲバ極テ多ク有セザル可ラザル也聖經ニモ神ハ此等ノ才能アリト明言セリ詩篇四十二ノ二、何西一ノ十、行傳十四ノ十五、前提三ノ十五、及ビ其他ノ所ニモ神ヲ活ケル神ト稱シ且約翰五ノ二十六ニハ夫レ父ハ自ラ生イダシラ有リ其如ク子

ニモ賜テ自ラ生ヲ有セタリトアリ

其一 神ハ悟性アリ○詩篇百三十九ノ二ニ曰汝ハ我が坐スルモ又我が起ツヲモ識リ我が諸ノ思ヲモ遠クヨリ悟リ給ヘリ○同百四十七ノ五ニ曰我儕ノ主ハ大ナリ其能モ亦大ナリ其悟ハ窮アルコトナシ

其二 神ハ志意アリ○詩篇百十五ノ三ニ曰我儕ノ神ハ天ニアリ凡テ己ノ意ニ適フ所ヲ行フ○以弗所一ノ九ニ曰我儕ニ其旨ノ奧義ヲ意ノマ、ニ示セリ

其三 神ハ己ノ志意ヲ行フノ能アリ○但以理四ノ三十五ニ曰彼ハ己ノ意ニ循テ天軍及ビ地ノ居民ノ間ニ行フ人能ク其手ヲ止メ而シテ汝何ヲ爲スマト曰フモノナシ○以弗

所一ノ十九ニ曰神ノ能ノ極テ大ナルコトヲ知ラシメ云々
 第二 我儕ハ敢テ靈ノ何物タルヲ全ク悟ルコトヲ得ルト
 言フニ非ズ然レモ縦令聖經ノ教ニ由ラズモ神ノ靈タル事
 ヲ確知スルヲ得ベシ何トナレバ若シ果シテ神アラバ或ハ
 質ニ屬スル乎或ハ靈ニ屬スル乎必ズヤ其一タラザル可ラ
 ズ然リ而シテ若シ其質ニ非ルノ証據アラバ其靈タル事推テ
 知ルベキ也

其一 神ハ有質者ニ非ズ何トナレバ神ハ永遠無始ナレバ
 也物質ノ無始ナルコト能ハザルハ既ニ辨明シタレバ此ニ
 贅言セズ(有神論第二及ビ第三章)是故ニ神ハ有質者タルコ
 ト能ハザル也夫レ物質ハ造ラレタル者ナリ故ニ物質ハ神

タルコト能ハズ神ハ宇宙萬物即チ物質ノ大原因ナリ故ニ
 神ハ物質タルコト能ハズ然リ而シテ凡ソ物ハ質ニ屬セザ
 レバ即チ靈ニ屬セザル可ラズ是故ニ神ハ即チ靈ナリト斷
 定スル也

其二 神ハ有質者ニ非ズ何トナレバ神ハ絶大無限ナレバ
 也夫レ有質者ハ二個同時同所ニ在ルコト能ハズ若シ神ハ
 有質者ニシテ而シテ無限者タラバ宇宙物質ノ單一分子モ容
 ル、所アラザルベシ何トナレバ神自ラ無限ノ物質ヲ以テ
 宇宙ヲ填滿シテ他ニ一物ヲ容ル、ノ餘地ナカラシム可ケ
 レバ也

其三 神ハ有質者ニ非ズ何トナレバ物質ハ變更止ム時ナ

シト雖モ神ハ絶テ變更ナケレバナリ此事ハ前ニモ少ク説
キタレモ尙後ニ詳論スベシ物質ノ變更止ム時ナキコトハ
萬物ヲ一目シテ明白ナリ生長枯槁ノ則分解配合ノ法常ニ
運行シテ停ムコトナシ然レモ神ニ於テハ是ノ如キ事アラ
ザル也若シ絶テ變更スルコトナクハ物質タルコト能ハズ
必ズヤ全靈タラザル可ラズ

其四 神ハ有質者ニ非ズ何トナレバ神ハ自主獨立ナレバ
ナリ夫レ物質ハ自主獨立ニ非ズ物質ハ管理セラレ神ハ自
ラ管理ス物質ハ動サレ神ハ自ラ動ク物質ハ無覺無知無意
ナリ蓋此等ハ物質ノ性ニ非ズ靈ノ特性ナレバ也故ニ神ハ
靈ナリ吾人ノ知アリ意アリ以テ物質ヲ使用スルノ能力ア

ル所以ノ者ハ乃チ其神ヨリ賜リタル靈性アルニ因ル也其
他此類ノ證據許多アリト雖モ既ニ陳タル所ヲ以テ神ノ有
質者ニアラサル事ヲ証スルニ足ラン

第三 且夫レ神ノ靈ナル事ハ吾人ノ靈性ヲ考察シテモ幾
分カ識ルコトヲ得ベシ蓋凡テ我儕ノ靈性ニ屬スル所ノ者
ハ其短處ヲ除去テ悉ク之ヲ神ニ歸スルコトヲ得ベシ但其
大小高下ニ於テ霄壤ノ差別アリト雖モ其類ハ乃チ一ナリ
ト謂フベシ何トナレバ人ノ靈性ハ神ノ形像ニ像リテ造ラ
レタル者ナレバ也(創世記一ノ二十六ト二十七)

我儕ハ前ニ神ハ人ノ如ク形體ナキ者ニシテ物質ヨリ成立
ツ者ニ非ズト云ヘリ之ニ由テ人或ハ曰ン聖經中ニ神ノ耳

目手臂等ノ語アルニ非ズヤ譬へバ詩篇三十四ノ十五ニ曰
 エホバノ目ハ義人ヲ顧ミ其耳ハ彼等ノ號呼ニ傾ク○行傳
 五ノ三十一ニ曰神ハ之ヲ君トシ救主トナシテ其右ノ方ニ
 舉ク(原文ハ右ノ手也)是レイスラエルニ悔改ト罪ノ赦ヲ予
 シガ爲也○詩篇八十九ノ十三ニ曰汝ハ能アル臂アリ汝ノ
 手ハ力アリ汝ノ右ノ手ハ高シト然モ少ク聖經ノ教理ニ通
 ズル者ハ凡テ是ノ如キ有形的ノ語ヲ神ニ就テ用非タルハ
 皆比喻ノ語ニシテ神ノ知識能力行爲ヲ一層明瞭ナラシメ
 シガ爲ナルヲ知ル夫レ耳目ハ以テ物ノ善惡ヲ辨別スル所
 以也目以テ我愛スル所ノ者ヲ守リ耳以テ其求ヲ聽ク也是
 ノ如ク神ノ耳目トハ即チ其能ク人ヲ知リ且之ヲ護リ且之

ガ祈禱ヲ聽クヲ表ハサン爲ノ比喻ナリ且夫レ手ハ以テ
 工ヲ爲ス所臂ハ以テ力ヲ出ス所也故ニ神ノ手臂トハ即チ
 其工能ヲ表ハサン爲ノ比喻也而モイスラエル國民及ビ其
 他ノ國ニ於テハ國王ノ右ヲ以テ至上尊榮ノ地位トナスガ
 故ニ神ノ右トハ即チ神ノ國ニ於テ至上ノ尊榮ト權威ヲ指
 ス也

神ハ靈ナリトノ真理ハ重要ノ真理ナリ何トナレバ之ニ由
 テ我儕ハ神ニ就テ純靈ノ思想ヲ求ムベキヲ識リ且之ニ
 由テ神ノ崇拜ハ儀式言語ヲ以テセズ宜ク心靈ヲ以テスベ
 キヲ識レバ也

第三章 神ハ在ラサル所ナシ

神ハ在ラザル所ナシトハ即チ宇宙ノ内外ヲ問ハズ其在ザ
ル所ナキヲ云フ也神ハ其本質(即チ存在)性徳トモニ界限ア
ラザル也是レ大氣ノ地ノ全面ヲ覆フガ如クナラズ蓋大氣
ハ之ヲ分別シテ其一分ハ此處ニ在リ其他ノ一分ハ彼處ニ
在リト云フコトヲ得ベシ然レモ神ハ大氣ノ如ク諸ノ部分
ヨリ成立ツ者ニ非ズ其本質(即チ存在)ハ分別ス可ラザル者
ナリ而シテ其無形ノ存在ハ時トシテ在ラザルハナク處ト
シテ在ラザルハナク凡ノ時凡ノ處ニ於テ神ハ其大智大能
仁愛ノ徳ヲ以テ存在シ給フ也
我儕ハ神ノ現在ヲ種々區別シテ考フルコトヲ得ヘシ第一
其本質上ニ就テ之ヲ云ヒ第二ニハ其知識上ニ就テ之ヲ云

ヒ第三ニハ特ニ有知ノ受造物ニ其現在ノ顯ハル、上ニ就
テ云ヒ第四ニハ其方法ニモ拘ハラズ何ノ受造物ヲ問ハズ
凡テ其權能ヲ用ヒ給フ上ニ就テ云フコトヲ得ベシ其本質
及ビ知識ノ上ニ就テ云フ時ハ其現在ハ孰レノ處孰レノ時
ニ於テモ差別アルトナシ然レモ神自ラヲ顯ハシ且其權能ヲ
用ヒ給フ上ニ就テハ事情ニ依テ其度ト法トニ不同アリ譬
ヘバ神ガ其教會ノ中ニ在ルノ様ハ其世間ニ在ルノ様亦大
ニ異ナレリ且其冥獄ニ在ルハ其義怒ヲ顯ハシ罪人ヲ罰セ
ンガ爲ナレモ之ニ反シテ其天ニ在ルハ其恩愛榮光ヲ顯ハ
シ且之ヲ施與センガ爲ナリ其現在ハ乃チ一ナリト雖モ其
様ニ至テハ大ニ徑庭スル所アル也

然レ此ニ首トシテ考察スベキハ其本質ノ上ニ就テ神ノ
在ラザル所ナキ事也○詩篇百三十九ノ七ヨリ十二日我汝
ノ靈ヲ逃レ何處ニ往ンヤ我汝ノ在ス處ヨリ何處ニ逃ンヤ
若シ我天ニ昇ルモ汝彼處ニ在ス若シ我塌ヲ陰府ニ敷クト
モ汝ハ彼處ニ在ス若シ我昧爽ノ翼ヲ借テ海ノ極ニ往ムト
モ汝ノ手ハ彼處ニモ我ヲ導キ亦汝ノ右ノ手ハ我ヲ保タシ
○以賽亞六十六ノ一ニ曰是ノ如クエホバ言テ曰天ハ即チ
我位也地ハ即チ我凳也○耶列米廿三ノ廿三廿四ニ曰エホ
バ曰給フ我ハ惟近クニ於テノミ神タランヤ遠キニ於テモ
神タルニ非ズヤ誰カ我ニ見ラレザルヤウニ密ナル處ニ身
ヲ匿シ得ルカ我ハ天地ニ充ルニ非ズヤ○行傳十七ノ廿七

廿八ニ曰是ハ人ヲシテ神ヲ求メシメ彼等ガ或ハ揣摩^{サマシ}ウル
事アラシ爲ナリ然レ此神ハ我儕各人ヲ離ル、ト遠カラザ
ル也夫レ我儕ハ彼ニ頼テ生キ又動キ又存ル、ト得ル也
聖經ニ由ラズシテ神ハ在ラザル所ナキヲ証ス
第一 神ハ宇宙ノ間在ラザル所ナシ何トナレバ宇宙ハ即
チ其工ナレバ也宇宙ハ如何ニ洪大ナリト雖モ神ハ其内ニ
在ラザル所アル能ハザル也何トナレバ凡テ神ノ働キ給フ
所ニハ在サマルヲ得ザレバ也故ニ神ハ其創造セル所ノ宇
宙各所ニ在リ且常ニ在テ之ヲ攝理シ給フ也神アルトチ信
セザル輩ハ萬物皆一定不易ノ法ニ由テ其變化開發ヲ管理
セラルト云フ宇宙ニ是ノ如キ法アル事ハ疑ナシ然レ或人

廿六
シ云ヘル如ク法ハ自ラ事ヲ施行スルノ能力ナキ者ナリ故
ニ此等シ法ハ其有生物ニ關スルト無生物ニ關スルトニ拘
ラズ必ズ有智有能ノ者アリテ之ヲ施行スルニ非ザレバ其
効アラザルベシ神ハ天地萬物ノ大原因ニシテ宇内ニ運動
スル所ノ萬法ノ始造者タル事ハ我儕既ニ之ヲ証シタリ而
シ我儕ハ亦凡テ其創造セル所ノ者ヲ保存主宰シ且其萬法
ヲ施行スル所ノ者ハ即チ同一ノ造物者ナリト論定スル也
第二ニ神ハ在ラザル所ナシ何トナレバ神ハ成全無限ナレ
バ也凡テ缺乏界限ハ元來他ニ依頼スルヨリ起ル者ナリ譬
ヘバ吾人ノ限アル存在者タル所以ノ者ハ我儕ハ原ト神ニ
頼テ存在シ且神ニ頼テ凡ノ才能ヲ有シ且其旨ニ服従スル

者ナレバ也然レモ神ハ毫モ他ニ倚頼スルコトナシ固ヨリ永
遠無窮ニシテ其能力及ビ其他ノ性徳モ一トシテ他ノ者ニ
頼テ有スルニ非ズ凡テノ他ノ者ハ惟神ヨリ賜ハレル所ナ
有スル耳蓋宇宙ノ大ハ思議スベカラズト雖モ遂ニ界限ナ
キ能ハズ何トナレバ是レ受造ノ物ナレバ也然レモ神ハ自
然ニシテ有且永遠無始ナルガ故ニ一ノ之ヲ界限スベキ者
チク全ク獨立ニシテ無限成全ノ存在者ナリ然レモ神ハ宇
宙ソ外ニ在ラズトセバ神モ亦宇宙ト同シク界限アル者ナ
リ而シテ若シ其現在ニ界限アラバ神ハ成全無限ナル能ハズ
是故ニ宇宙ノ内外ヲ論ゼズ神ノ在ラザル所ハ之ナキ也
第三ニ加之ナラズ我が思想ニ於テモ神ノ現在ニ界限立

ルコト能ハズロツク曰ク思フニ神ノ在ル所ノ外ニ思想ヲ及シ或ハ其在ラザル處ヲ想像シ得ルト自ラ信ズル者ハ已ガ悟性ノ才量ヲ自誇スル者也ト
 神ノ無所不在ナルノ證據是ノ如シ然レモ我儕之ヲ確信ス
 ト雖モ此性徳タルヤ絶大無量ニシテ人智ノ能ク測度スベキ所ニ非ズ近時學術ノ進歩ニ由テ我儕ハ受造宇宙ノ廣大ナル事ニ就テ大ニ思想ヲ廣ムルコトヲ得タリ然レモ此廣大ナル宇宙モ無限ノ空間ニ比スレバ論ズルニ足ラズ而シテ神ハ其無限空間ニ於テ在ザル所ナキ也實ニ宇宙ノ大サハ人智ノ能ク測度スル所ニ非ズ況ンヤ其境界外ノ無限ノ空間ヲヤ里以テ其大ヲ測ルニ足ラズ光ノ速力ニ由テ量テモ尙

十分ニ其廣大ヲ感ズルコト能ハズ夫レ光ハ一秒毎ニ大約七萬四千里ノ距離ヲ經過スル者ナリ他ノ天體ニ比スレバ太陽ハ地球ヲ離ルコト甚ダ遠カラズ然レモ一射光ノ太陽ヨリ地球ニ達スルニハ大約八分時間ヲ要スル也大陽系内ニ在テ既ニ知ラレタル最遠ノ遊星ハ太陽ヲ距ルコト無慮十一億里也故ニ射光ハ此距離ヲ經過スルニハ四時間以上ヲ要スル也我儕設シ汽車ニ乘リ一時間二十四里ノ速度ヲ以テ晝夜兼行瞬息時間モ停止セズシテ夫ノ遊星ニ旅行スルコトヲ得ルトセバ大約百七十五年ヲ經テ漸ク彼處ニ達スルコトヲ得ベシ是ノ如ク太陽系ノ大サト雖モ殆ト理會スルコト能ハザル也然リト雖モ尙其外ニアル所ノ星宿

ニ比スレバ太陽系ノ大サハ論ズルニ足ラザル也夫ノ彗星
（ネライオン）ノ星雲ノ如キハ或人ハ望遠鏡ヲ借ラズ
テ見ルコトヲ得ベシ然レモ彼處ヨリ此處ニ光ノ達スルニハ
六萬年ヲ要スル也若シ世界ニ於テ最モ洪大有力ナル望遠
鏡ヲ以テ天ヲ窺ヘバ天文學者ノ説ニ依レバ三千萬年ヲ經
テ始テ光ノ此處ニ達スル所ノ星雲ヲ見ルコトヲ得ベシト
云フ暫時心ヲ靜カニシテ之ヲ思フベシ光ハ一分時毎ニ四
百五十萬里ノ速度ヲ以テ往行スル者也然レモ宇宙ニハ三
千萬年ヲ經テ始テ其光ノ此處ニ達スル程隔リタル所アル
也此外ニ亦宇宙ハ如何ニ廣大ナルカ誰カ能ク之ヲ知ラン
此外ニ亦其光ハ如何ニ無量ノ空間ニ透徹スルヤ誰カ能ク

之ヲ悟ラシ然リト雖モ我儕ハ無量ノ空間ニ於テ何處ニ思
想ヲ及ストモ處トシテ神ノ在ザル所之ヲキ也惟一無限ノ
神ハ彼處ニモ在リ又此處ニモ在リ何處ニ於テモ常ニ在ラ
ザル所無キ也
大ナル哉神諸天ノ天モ尙彼ヲ容ル、能ハズトハ奧妙ノ意
味ヲ含メル語也列王上八ノ二十七詩篇ニ曰（八ノ三ト四）我
汝ガ指ノ工ナル天ヲ觀又其設クル所ノ月ト星トヲ觀ルニ
人ヲ誰トカシテ汝之ヲ念ニ懸ルヤ人ノ子ヲ誰トシテ之ヲ
觀給フ乎ト
未ダ罪ヲ悔改メザル人ニ取テハ此神ノ無限ナルコトハ最
モ懼シキ事ナリ何トナレバ彼其面前ヲ避カル、コト能ハ

ザレバ也然此神ニ從フ者ニ取テハ其無所不在ナルコトハ
 無限ニ安慰ナリ何ト大レバ彼縱令如何ニ在弱ナリトモ如
 何ナル艱難ニ在トモ如何ナル憂愁ニ逢フトモ其父タル無
 限ノ神常ニ彼ト偕ニ在スコトヲ知レバ也
 論者或ハ曰ハシ聖經中ニ或ハ神來ルト云ヒ或ハ往クトア
 ルニ非ズヤ譬ヘバ詩篇九ノ十一、五十ノ三百二十三ノ一、以
 賽亞十九ノ一、同三十五ノ四、創世記十八ノ三十三等ノ如シ
 豈是レ神ノ在ザル所アル證據ナラズヤト然此難問ニ答
 ルト甚ク易シ夫レ神ハ在ザル所ナシト雖モ然此各處ニ於
 テ齊ク其存在ヲ現ハザル也乃チ此等ノ本文ハ神ガ己ノ人
 民ヲ教誨祝福センガ爲ニ特別ニ現ハレ給ヘルコトヲ指セル

者也

第四章 神ハ永遠無窮ナリ

永遠ハ即チ常在無窮ナリ無始無終ノ存在ナリ神ノ永遠無
 窮ナル事ハ其無所不在ナル事ト同ク我儕其蘊奧ヲ究ハム
 ル能ハザル也無限無量ノ時ハ吾人ノ得テ測度ス可キ所ニ
 非ズ我儕ハ惟之ヲ遠ク過去未來ニ延長シテ窮ナキ時トシ
 テ思惟スルコトヲ得ル耳然ト雖モ神ハ我儕ノ如ク漸々歳
 月ヲ經過シテ生存スル者ニ非ズ神ハ老ルコトナシ神ニ於
 テハ過去未來現存ノ別アルコトナシ但永遠ノ現在アル耳
 以賽亞五十七ノ十五ニ神ハ永遠ニ住ムトアルハ即チ之ヲ
 謂フ也

神ノ永遠無窮ナル事ハ聖經ニ其明文少カラズ今其二三ヲ
 掲ゲン○復傳律例三十三ノ二十七ニ曰永遠ノ神ハ汝ノ庇
 蔭タリ永遠ノ眩汝ノ下ニアリ○詩篇九十ノ二ニ曰山未ダ
 生出サレズ汝未ダ地ト陸ヲ造リ給ハザルノ先ニ永遠ヨリ
 永遠ニ至ルマデ汝ハ神ナリ○以賽亞四十ノ廿八ニ曰汝知
 ラズヤ汝聞カズヤ無始無終ノ神エホバ即チ地ノ極ヲ造レ
 ル者ハ疲ル、コトナク倦ムコトナシ○羅馬書十六ノ二十六
 ニ曰窮ナキ神ノ命ニ遵ヒ云々○希伯來一ノ十ヨリ十二ニ
 曰主汝元始ニ地ノ基ヲ奠ク天モ汝ガ手ノ工也此等ハ七ビ
 シ然ト汝ハ存タン此等ハ凡テ衣ノ如ク舊ビシ汝此等ヲ袍
 シ如ク捲ム又彼等ハ變ラシ然ト汝ハ變ルコトナシ汝ノ壽ハ

終ラザル也○後彼得三ノ八ニ曰主ニ於テハ一日ハ千年ノ
 如ク千年ハ一日ノ如シ○前提摩六ノ十六ニ曰獨一死ザル
 者近クコトヲ得ザル光ニ在シテ人未ダ見シコトナク又見ルコ
 ト能ハザル者ナリ願クハ尊貴ト窮ナキ權力彼ニアレ
 蓋神ノ存在ヲ證スル所ノ議論ハ亦以テ其永遠無窮ナル事
 ヲ證スルニ足ル何トナレバ若シ神ノ存在ハ一時必要ナリ
 トモバ常ニ必要ナラザル時ナシ宇宙萬有ノ大原因ハ前篇
 ニ於テ論辨シタル如ク即チ神ニシテ自ラハ原因ナキ者也
 故ニ無始無終也又獨立シテ毫モ他ニ倚賴セズ故ニ無終也
 語ヲ更テ之ヲ言ヘバ一物トシテ能ク神ヲ原造スベキ者ナ
 ク又一物トシテ能ク之ヲ滅亡スベキ者ナキ也神ハ自身ヲ

造ルコ能ハズ何トナレバ若シ此事アリトセバ神ハ自ラ未
ダ有ラザル先ニ當テ物ヲ創造スルノ能力ヲ有セリト爲ザ
ルヲ得ズ若シ始アリトセバ必ズ他ニ之ヲ創造シタル所ノ
者ナキ能ハズ然レ萬有ノ大原因ハ萬物ノ先ニ存在シタル
也故ニ曰神ハ永遠ヨリ存在シテ始アラザル也ト而シテ亦自
ラ存在ヲ止息スルコト能ハザル也何トナレバ若シ此事ア
リトセバ或ハ神自身ニ於テ足ラザル所アルカ若クハ其他
ニ神ニ優レル所ノ權能ナカル可ラズ然レ此兩者ハ神ニ於
テ有ルベカラズ故ニ曰神ハ無始無終永遠常在也

第五章 神ハ成全ナリ故ニ獨立ナリ

神ノ成全トハ即チ神ノ性ニ於テハ一點ノ缺乏ナク萬善具

足シテ且盡期ナキヲ云フ也○復傳律例三十二ノ四ニ曰彼
ハ磐石ナリ其功全ク凡テ其行フ所ハ義シク眞實ノ神ニシ
テ毫モ罪愆ナシ彼ハ乃チ公義ナリ彼ハ乃チ端然タリ○詩
篇十八ノ三十二ニ曰神ノ途ハ全シ○馬太五ノ四十八ニ曰是
故ニ天ニ在ス汝等ノ父ノ完全ガ如ク汝等モ完全スベシ
夫レ缺乏ハ其存在ニ界限アリテ而シテ他ノ者ノ意ニ服従ス
ルヨリ起ル所ノ者ナリ神ニ於テハ缺乏アルコト能ハズ何
トナレバ其存在ニハ毫モ界限ナク又神ハ他ノ者ノ意ニ服
従セズ天地ノ創造者ニシテ何ゾ自ラ創造シタル所ノ者ノ
意ニ從ハンヤ

第一 神ハ成全ナリ何トナレバ神ハ自然ニシテ有リ且永

遠無窮ナレバ也自然ニシテ有者即チ永遠無窮無所不在天地ノ造物者タル獨一無二ノ神ハ理ニ於テ必然凡テ其造レル所ノ者ニ超越セザルヲ得ザル也其成全ハ凡テ其造レル所ノ者ガ思惟シ得ル所ノ至上ノ成全ニモ超越セザルヲ得ザル也且神ハ永遠無窮ヨリ有ル者ナルガ故ニ誰アリテ毫モ其成全ヲ界限スル者アラザリシ也○詩篇百十五ノ三ニ曰我儕ノ神ハ天ニ在リ已ノ意ニ適フ所ヲ行フト且永遠無窮ノ存在ヲ有スル智慧アル者ニシテ凡テ其他ノ成全モ永遠無窮ニ具有セズトハ思惟スベカラズ其性徳ノ一若シ成全ナラバ凡テ其他ノ性徳モ亦成全ナラザルヲ得ズ之ニ反シテ其一ニ於テ若シ界限アラバ其他モ咸みな界限ナキヲ得ザ

ルナリ譬ヘバ神ノ存在ニ界限アリトセバ神ハ常ニ無所不在タルコト能ハザルベシ果シテ然ラバ其知識能力ノ未ダ達セザル處ナキコト能ハザルベシ然ラバ其知識能力ハ界限アル者ナリ之ニ反シテ其知識若シ無限ナラバ其能力モ亦無限タラザルコト能ハズ是故ニ自然ニ有リ永遠無窮無所不在ナル獨一無二ノ神ハ即チ成全無限也○第二ノ神ハ成全ナルガ故ニ獨立ナリ宇内萬物皆神ニ倚テ立ツト雖モ神ハ更ニ倚賴スル所ナキ也○羅馬十一ノ三十六ニ曰ソハ萬物ハ彼ヨリ出デ彼ニ倚リ彼ニ歸レバ也願クハ世々榮神ニアレア、メン○但以理四ノ三十四、三十五ニ曰我亦永遠ニ生存スル者ヲ讚美尊榮セリ其國ハ乃チ永遠

ノ國其權ハ世々ニ至ル而シテ地上ノ居民ヲ視ル_レ無キガ
 如ク然リ彼且己ノ意ニ循テ天ノ軍勢及ビ地ノ居民ノ間ニ
 行フ而シテ人能ク其手ヲ止メテ之ニ謂テ汝何ヲ爲ス耶ト
 曰フ者ナシ
 神若シ成全無限ナラバ其宇宙ヲ創造セザル前ヨリ既ニ成
 全無限ナリシ也凡テ其性徳ヲ具足セシコトハ今ニ異ナル
 事ナシ而シテ曾テ天地ノ創造ナクトモ神ハ尙成全ニシテ
 自ラ無限ノ歡樂ヲ有セシナラン蓋神ハ受造物ニ倚テ其歡
 樂ヲ全フスル者ニ非ズ神ハ天地ヲ造リ其間ニ人ヲ置キ且
 人ニ歡樂幸福ヲ予ン爲ニ己ノ榮光アル成全ヲ顯ハスヲ善
 シトセリ夫レ人ハ神ニ倚ル者ナリ而シテ此等ノ洪大ナル

眞理ヲ會得ス_レバ神ノ性徳ヲ讚美シテ措カズ且神ニ於テ
 知識ト歡樂ノ無盡藏アリ又凡テ己ノ性情ノ要ムル所願フ
 所ハ永遠無窮ナル神ノ無限無量ノ豐富ニ於テ満足スル事
 ヲ悟ル也

第六章 神ハ變易スル事ナシ

神ハ其存在ニ於テモ成全ニ於テモ旨意ニ於テモ變易スル
 ヲトナシ又變易スルコト能ハザルナリ○馬拉基三ノ六ニ
 曰我ハ乃ナエホバ也我ハ變ズルコトナシ故ニ汝曹ヤコブ
 ノ嗣ハ滅亡セズ○民數記二十三ノ十九ニ曰神ハ謊アル人
 ニ非ズ悔アル人ノ子ニ非ズ其己ニ言シ事ニシテ行ハレザ
 ル事アラシヤ其己ニ語リシ事ニシテ應ゼザル事アラシヤ

○詩篇三十三ノ十一ニ曰エホバノ謀ハ窮ナク立チ其心ツ
 意ハ世々ニ立ツナリ○羅馬一ノ二十三ニ曰朽壞クハクザル神ノ
 榮光ヲ云々○後提摩二ノ十三ニ曰我儕信ゼズト雖モ彼ハ
 誠ナリ彼ハ己ニ違フコト能ハザル也○提多一ノ二ニ曰誰
 ナキ神ノ創世ノ前ニ約束シ給ヒシ永生ヲ望メリ○雅各一
 ノ十七ニ曰凡テ善賜ト全キ賜ハ皆上ヨリ諸ノ光明ノ父ヨ
 リ降ル也父ハ變ル_レナク又轉リテ顯ハル、影モナキ者也
 第一、受造萬物ノ變更無常ナル情態ト神ノ永遠不易ナル
 事ハ聖經中ニ明示セラレタリ○詩篇百三ノ二十五ヨリ二
 十七ニ曰往昔ヨリ汝地ノ基ヲ奠ク天モ汝ガ手ノ工ナリ彼
 等ハ滅ビシ然ド汝ハ恒ニ存タン此等ハ凡テ衣ノ如ク舊ビ

シ汝此等ヲ袍ノ如ク更シ彼等ハ必ズ變ラン然ド汝ハ變ル
 レナク汝ノ齡ハ終ラザル也ト凡ソ造ラレタル者ハ皆變ズ
 ル也神ノ外ハ一物トシテ變ゼザル者ナシ來ル者アレバ逝
 ク者アリ地球ノ面ニモ變化アリ山嶽漸ク爛碎シ洋海モ其
 處ヲ變ズ又處トシテ化學的ノ變化アラザルハ無シ人間ノ
 心ニモ變更アリ強弱苦樂明不明常ニ變更ナキ能ハズ天ノ
 星ニモ亦變化アリ大凡宇宙ニ於テ星ノ如ク定妥堅固ニ見
 ヲル者ナシ然レ彼等モ亦變更スル也今日ノ天圖ハ千年前
 ノ天圖ニ非ズ然レ此變更窮ナキ中ニ於テ惟一ノ毫モ變ゼ
 ザル者アリ即チ無始無終ノ神是ナリ神ハ變ズルコト能ハ
 ズ神ハ始ナシ且他ニ之ヲ有ラシメタル者ナキガ故ニ亦之

ナ變ラシムル者アラザル也神ニ於テハ自ラ己ノ性情又ハ
 旨意ヲ變シ給フベキ所以ナシ而シテ他ニ神ヲ變ゼシムル
 權能アル者ナシ
 第二 神ハ變易スルコトナシ如何トナレバ神ハ成全ナレ
 バ也神ノ成全ハ増減スルコト能ハズ何トナレバ其成全ハ
 無限ナレバ也設シ神ニ於テ變易アリトセバ原ヨリモ勝レ
 ル者ト爲ル乎若クハ原ヨリ劣レル者ト爲ラザルヲ得ズ若
 シ勝レル者ト爲ルトセバ神ハ原ト成全ノ者ニ非ズ若シ又
 劣レル者ト爲ルトセバ最早成全ノ者ニ非ズ若シ神ニ其
 存在ヲ息ルカ若クハ其成全ニ變易アラバ最早神ニハ非ザ
 ル也

反對説ニ答フ

其一 論者或ハ曰神ハ天地創造ノ時ニ於テ變易シタルニ
 非ズヤ何トナレバ創造ノ先ニ在リテハ單獨ナレバ創造以
 來ハ單獨ニ非ズト答テ曰然ラズ何トナレバ宇宙ハ其創造
 以來存在シタル如ク創造ノ前ヨリ既ニ神ノ心意ニ於テ現
 存シタルバ也故ニ其變ハ宇宙ニアリテ神ニアラズ蓋神ハ
 宇宙ヲ創造シタル爲ニ一物ヲ失ハズ又一物ヲ増ササル也
 其二 論者又曰神ノ子ガ人ト成レル時ニ神ハ變シタリト
 答テ曰神ノ子ノ人ト成タルモ猶宇宙ノ創造ノ如シ蓋贖世
 ノ旨意ハ永遠ヨリ神ノ心意ニ於テ存在シタル也神ノ子ノ
 人ト成タルハ惟其旨意ヲ實行セラレタル耳ナリ神ノ子ノ

本質ニ於テモ毫モ變易ナシ但其人性ニ於テ變易アリシ耳
 其三 論者又曰神ハ變易スルコトアリ何トナレバ聖經ニ
 モ神ハ悔又憂ルト云ヒ且必ズ嚴罰ヲ加ント威嚇シテ之ヲ
 實行セザリシ事アリ例ヘバ創世記六ノ五ヨリ八以弗所四
 ノ三十約拿三章ノ如シト答テ曰此等ハ皆比喻ノ語ニ屬ス
 ル事猶神ノ耳目ト云ヒ手摺ト云フガ如シ即チ我儕ナシテ
 神ガ罪惡ヲ惡ミ給フノ甚シキトヲ悟ラシメンガ爲ニ我儕
 人類ガ同様ノ地位ニ立テ罪ヲ犯サレタル時ニ起ス如キ情
 ヲ神ニ歸シタル也且夫レ威嚇スルハ之ヲ罰スルノ權理ヲ
 含ム也人間ニ於テモ罪人ヲシテ其罪ヲ悔悟セシメン爲ニ
 威嚇ヲ用ユルトアリ而シテ縱令其威嚇ノ中ニ若シ悔悟セバ

其罰ヲ加ヘズト明白ナル約束ナキモ自ラ其約束ハ其中ニ
 包含スル也

其四 論者又曰若シ神ハ毫モ變易スルコトナクハ祈禱ハ
 無益ナリト答テ曰神ノ變ゼザル所以ハ其無感覺ナル故ニ
 非ズ又懶惰ナルガ故ニモ非ズ活潑ニシテ而シテ變ゼザル
 也神ハ能ク人ノ祈禱ヲ聞ク○詩篇六十五ノ二ニ曰祈禱ヲ
 聽ク者ヨ云ヤ○第一約翰五ノ十四十五ニ曰ク凡テ我儕神
 ノ旨ニ合ヘル事ヲ求バ彼必ズ聽ン是我儕彼ニ向テ篤ク信
 スル所ナリ凡テ我ガ求ル所ヲ彼ノ聽クコトヲ知ラバ我求
 ル所ヲ彼ニ得ルコトヲ亦知ル也ト又神ハ我儕ニ祈ルベキ
 事ヲ命ジ且祈禱ヲ以テ凡テ我儕ノ正當ニ求ル所ノ物ヲ得

ルノ方法ト定メタリ○馬太七ノ七ニ曰求ヨ然ラハ與ラレ
 尋子ヨ然ラハ遇ヒ門ヲ叩ケヨ然ラハ開カル、トヲ得ント
 然ラハ則チ我儕ハ宜ク惟其旨ニ適フ所ヲ求ムベキ耳ナラ
 ス我儕ガ之ヲ求ムルハ即チ其旨ニ適フ所ナリ蓋神ノ永遠
 不易ノ定旨ニハ請求答應トモニ包含スル也
 我儕ハ是マデ神ノ存在ノ様ニ關スル性徳即チ其惟一ナル
 事、靈ナル事、無所不在ナル事、永遠無窮ナル事、成全ナル事、獨
 立ナル事、又變易ナキ事ヲ考察シタリ屢々此等ノ性徳ヲ考
 フルハ我儕自身ノ爲又我儕ノ講義ヲ聽ク者ノ爲ニ裨益ア
 リ前ニ言ヘル如ク我儕ハ十分ニ之ヲ理會スルト能ハズ然
 而之ヲ講究スルニ隨テ愈神ノ威嚴ヲ悟ル事ヲ得ベシ神ヲ

崇尊スルノ念アルニ非ザレバ眞ノ信仰ナシ然レ此等ノ性
 徳ヲ講究スレバ自ラ崇尊ノ念ヲ起スナリ且若シ神ヲ知ル
 コト不完全ナレバ罪ヲ觀ルトモ亦隨テ不完全ニシテ我儕
 ノ信仰モ亦隨テ皮想ニ屬スベシ之ニ反シテ神ノ無限ノ性
 徳ヲ知ルコト愈完全ナレバ罪惡ノ眞ニ恐ルベキコトヲ知
 リ而シテ眞實ニ之ヲ悔テ之ヲ免レンコトヲ願ヒ且愈キリス
 トノ贖罪ノ恩惠ト凡テ救ノ幸福トチ貴重スベシ蓋肉體ノ
 能力耳ナラズ靈魄ノ能力モ亦能ク成長スル者ナリ然レモ
 靈魂ハ悟性ト願望トヲ以テ我儕ノ靈魂ノ父ト稱セラル、
 所ノ者ニ向フニ非ザレバ正ク生長スルコト能ハサル也(希
 伯十二ノ九)

又屢々心ヲ潛メテ此等ノ性徳ヲ考ルハ我儕ガ人智ヲ貴重
シ過ルノ弊ヲ矯正スルノ益アリ嗚呼神ノ性タルヤ大且妙
ナル哉凡テ人智ノ能ク發明スベキ所ニ比スレバ聖經中ニ
顯ハサレタル神ノ啓示ハ如何ニ勝レル哉人智靈妙ナリト
雖モ其功績大ナリト雖モ神ニ比スレバ如何ニ小ナル哉宇
宙ノ大モ永遠無窮ノ神ニ比スレバ毫釐ノミ然レモ我儕ハ
尙神ニ就テ學フベキ所多シ是ヨリ我儕ハ神ノ行爲ノ様ニ
關スル性徳ヲ考察セン

第二篇 神ノ行爲ニ屬スル性徳ヲ論ズ

我儕ハ是ヨリ神ノ行爲ノ様ニ關スル性徳ヲ講究セン蓋我
儕ハ人ノ性徳ニ由テ神ノ性徳ノ一斑ヲ窺フコトヲ得ルト
雖モ神ノ性徳ハ即チ無限ニシテ人ノ性徳ハ狹キ範圍内ニ
在テ限アル者ナルコトヲ記憶スベシ譬ヘバ人間ニ在テハ
大智者ト稱スベキ者モ神ニ比スレバ論ズルニ足ラザルガ
如ク或ハ他人ニ比シテハ大能アル者ト雖モ其能力ノ及ブ
所ハ此世界ノ一小部分ニ過ギザルガ如シ然レモ神ノ能力
ハ無限無量也

第一章 神ハ知ラザル所ナシ

神能ク萬事萬物ヲ詳知シ給フ事ハ聖經ニ其明文アリ○約

百紀三十六ノ四ニ曰其識完全ナル者汝ノ前ニアリ○詩篇
 百四十七ノ五ニ曰我儕ノ主ハ大ナリ其能モ亦大ナリ其悟
 ハ窮アルコトナシ○約翰二十一ノ十七ニ曰主知ラサル所ナ
 シ○第一約翰三ノ二十ニ曰神ハ我儕ノ心ヨリモ大ナルニ
 ヲリテ凡ノ事ヲ知リ給ハザルナシ
 今一層詳カニ之ヲ説ケバ聖經ハ左ノ事項ヲ教示スル也
 第一 神ハ自己ト已ノ行爲ヲ知ル○耶利米二十九ノ十一
 ニ曰エホバ曰我ハ我ガ汝ニ向テ懷ク所ノ念ヲ知ル即チ災
 チ與ヘントスルニ非ズ平安ヲ與ント思フ也○約翰十ノ十
 五ニ曰父我ヲ知ル如ク我モ父ヲ知ル○行傳十五ノ十八ニ
 曰神ハ世ノ始ヨリ其凡ノ行爲ヲ知リ給ヘリ

第二 神ハ凡テ已ノ創造シタル所ノ物ト其行爲思想ヲ知
 ル○約百紀三十四ノ二十一ニ曰其目各人ノ途ニ注キ人ノ
 諸ノ步履ヲ鑒ム○詩篇百三十九ノ一ヨリ六ニ曰エホバヨ
 汝ハ我ヲ探リ我ヲ識リ給ヘリ我ガ座スルモ亦我ガ起ツヲ
 モ識リ我ガ諸ノ思念ヲ遠クヨリ悟リ給ヘリ汝ハ我ガ行ク
 モ我ガ臥スルモ探リ我ガ凡ノ途ヲモ悉ク知リ給ヘリソハ
 エホバヨ我舌ニ一言アルモ視ヨ汝悉ク知リ給ヘリ汝ハ前
 ニモ後ニモ我ヲ圍ミ又汝ノ手ハ我ガ上ニ按キ給ヘリ斯ル
 知識ハ我ガ爲ニ最モ奇シク又高シ我之ニ及ブコト能ハズ
 ○馬太十ノ三十二曰汝曹ノ頭ノ髮マダ皆數ヘラル○後提
 摩三ノ十九ニ曰然レモ神ノ置キ給ヒシ堅キ基立テリ其上

ニ印アリ誌シテ曰主己ニ屬ル者ヲ知ルト
 第三 神ノ知識ハ其實ニ有ルト有ラザルトヲ問ハズ凡テ
 能ク有ルベキ所ノ萬事ニ及ブ○前撒母耳二十三ノ十二ニ
 曰ダビテ曰ケイヲノ人々我ト我ガ從者ヲサウロノ手ニ付
 スナランエホバ曰彼等付スベシト當時ダビデハケイヲノ
 人ヲポリステン人ヨリ救ヒシガサウロ主ハダビデヲ窘迫
 セントシタル也故ニエホバハダビデ若シ其救ヒタル所ノ
 人ト憐ニアラバ彼等ノ爲ニサウロノ手ニ付サレンコトヲ
 告ゲ給ヘル也○馬太十一ノ二十一ニ曰嗚呼禍ナル哉コラ
 シンヨ嗚呼禍ナル哉ベツサイダヨ汝等ノ中ニ行シ、異ナ
 ル能ク若シツロトシドンニ行シ、ナラバ彼等ハ早ク麻ヲ

被灰ヲ蒙リテ悔改メシナルベシ
 或ハ此等ノ本文ヲ引キ而シテ神ハ未來ノ事ヲ詳知スル者
 ニ非ズ惟若シ此事アラバ彼事アルヲ知ルノミ也ト唱フル
 者アリ然レモ此ハ前ニ掲ゲタル本文及ビ其他ノ本文ニ全
 ク反對セル者ナリ果シテ彼等ノ言フ如クナラバ宇宙ノ内
 ニ神ニ倚ラズシテ起ル所ノ事物ナキ能ハズ然ラバ則チ神
 ハ神タラザルベシ何トナレバ神ハ此等ノ事ニ就テハ自主
 タルコト能ハズ而シテ若シ自主タルコト能ハズバ成全無限
 タルコト能ハザレバ也
 神ノ智慧アルコトハ神ノ存在ヲ論ズル時既ニ之ヲ辨明シ
 タリ夫レ宇宙萬物ハ皆神ノ工也物質物理及ビ一切因果ノ

聯結禽獸草木及ヒ其天性ニ就テ既ニ論シタル所ノ奇妙ノ
 眞理並ニ人ノ心意、靈魂、才能、情緒ニ就テ論シタル所ノ尙更
 ニ奇妙ナル眞理及其他千萬ノ事物一トシテ智慧アル造物
 主ノ工ニ非ルハナシ然ラバ奈何ゾ此ノ如キ知識ニ界限ア
 リト想像スルコトヲ得ベケン乎然レモ我儕ハ徒ニ之ガ界限
 ヲ想像スルコト能ハザルノ故ヲ以テ神ノ知識無限ナリト云
 フニ非ズ神若シ誠ニ成全ナラバ必然萬事ヲ詳知セザル可
 ラズ何トナレバ若シ神ニ於テ知ラザル所アレバ神ハ無限
 成全ナルコト能ハザレバ也加之ナラズ神ハ自己ヲ知ラズ
 ト言フハ愚ノ至ナリ然レモ無限無所不在ノ神ニシテ自己
 ヲ知ラバ其知識ハ無限ニシテ其神ハ無所不知タラザルヲ

得ザル也既ニ自然ニシテ有リ且自主ニシテ他ニ依頼スル
 所ナク且萬有ノ本源ナレバ理ニ於テ神ハ萬事萬物ヲ詳悉
 セザルヲ得ザル也

然レモ神ノ知識ハ我儕ノ知識ト同種類ノ者ニ非ズ神ノ物
 ヲ知ルハ我儕ガ物ヲ知ルガ如キニ非ズ

第一 神ハ聽聞又ハ推理ニ由テ物ヲ知ル者ニ非ズ若シ一
 言ヲ以テ神ノ知識ノ性質ヲ言ハ、神ハ直ニ萬物ヲ知ルト
 云フベキ耳即チ神ハ己ノ心意ニ於テ直ニ萬物ノ性質ヲ見
 ルナリ神ハ己ノ旨ニ於テ萬事ヲ知ル也○以賽亞四十ノ十
 三ト十四ニ曰誰カ曾テエホバノ靈ヲ度リシ乎或ハ其議士
 トナリテ之ニ教ヘシ乎彼誰ト相議セシヤ誰カ曾テ之ヲ誨

ヘシ乎或ハ之ニ教ルニ義鞠ノ徑ヲ以テシ或ハ之ニ示スニ
 明哲ノ道ヲ以テセシ乎○羅馬十一ノ三十三、三十四ニ日鳴
 呼神ノ智ト識ノ富ハ深イカナ其法度ハ測リ難ク踪跡ハ索
 子難シ誰カ主ノ心ヲ知リシ孰カ彼ト共ニ議スルトヲ爲セ
 シヤ○希伯四ノ十三ニ日又物トシテ神ノ前ニ顯ハレザル
 ハナシ我儕ガ係ハレル者ノ眼ノ前ニ凡ノ物裸ニテ露ハル
 第二 神ノ知識ハ永遠無窮ナリ夫レ神ハ永遠無窮ノ神ニ
 シテ而シテ無所不知ナリ蓋此ノ二ノ眞理ハ分離ス可ラザ
 ル者ナリ神若シ無所不知ナラバ永遠無窮ニ無所不在ナラ
 ザルヲ得ズ神ハ昨日ヨリモ今日智カラズ神ニ於テハ過去
 未來現在ノ別ナク萬事萬物現在ナルガ故ニ一目シテ能ク

萬事萬物ノ種々ノ關係ト次序ヲ見給フナリ故ニ神ハ推理
 ニ由テ其知識ヲ全フスルノ要ナキ也

第三 神ノ無所不知ハ預知ヲ含ム即チ神ハ事ノ未ダ起ラ
 ザル前ニ當リテ其起ル事ヲ知り且其何タルヲ知ル○以賽
 亞四十五ノ二十一ニ日誰カ曾テ古ヨリ之ヲ示セシヤ或ハ
 彼ノ時ヨリシテ之ヲ告シ者ハ我レエホバニ非ズ乎我ノ外
 神ナシ○同四十六ノ十二日我ハ始ヨリシテ終ヲ示シ亦古
 ノ時ヨリシテ未然ノ事ヲ示シ且云ク我が謀ル所ノ者ハ必
 ズ立ン我が凡テ悦フ所ノ者ハ我必ズ之ヲ成サン○行傳十
 五ノ十八ニ日神ハ世ノ始ヨリ其凡ノ所作ヲ知り給ヘリ神
 若シ萬事ヲ預知スルニ非ザレバ或ハ神ニ頼ラズシテ起リ

六十
來ル事アルベシ果シテ然ラバ神ガ宇宙ヲ管理スルニ常ニ
不定ナル所アリテ神ハ永遠不易ノ法ニ由テ之ヲ管理スル
コト能ハザルベシ而シテ竟ニハ己ガ創造シタル者ニ依頼
スル者トナルベシ故ニ神ノ預知ヲ拒ムハ即チ其神タル事
ヲ拒ム也

縱令他ニ證據ナクトモ神ハ現ニ未來ノ事ヲ預言シタル事
ヲ知ラバ以テ足レリト爲スベシ今其數例ヲ擧ンキリスト
ハ使徒ベテロニ三次拒絕セラルベキトテ預言セリ(馬可十
四ノ三十)此預言ノ如何ニ精密ニ應シタルカハ馬可十四ノ
六十六ヨリ七十二ニ詳カ也又キリストハ己ノ復生センコ
トヲ預言セリ(馬太十六ノ二十一、同十七ノ二十三、二十ノ十

九)此預言モ果シテ應ジタリ神ハイIsraエル人ガ世界諸國
ニ離散セントテ預言セリ(復傳廿八ノ廿五ト卅七耶利米二
十四ノ九)此預言ノ應驗ハ今日我儕ノ目前ニアリIsraエ
ル人ハ自己ノ國ナクシテ天下萬國ニ離散スト雖モ尙各處
ニ於テ一種特別ノ人民トシテ知ラル、也
或ハ神ノ預知ヲ信ズルニ困難ヲ覺ユル者アリ其人ノ説ニ
曰夫レ人ハ己ノ意ニ適スル事ト適セザル事トヲ選ムノ能
カアリ自由アリ故ニ神ト雖モ未ダ其心ヲ決セザル先ニ在
テハ人ノ所爲ヲ知ルコト能ハザル也ト此困難ハ左ノ如ク
叙述スルコトヲ得ベシ人ノ所爲ニ就テ神ノ預知スル所ハ
必ズ生ズベシ然レ其事若シ必ズ生ズトセバ其意ニ任セ

テ事ヲ行フノ自由ハ何處ニアリ乎此困難ニ就テハ神學者
 ノ解說區々ナリ或ハ曰人ハ己ノ欲スル所ヲ選ムノ能力自
 由ナキ者也ト然レモ此說ハ眞說タルベカラズ何トナレバ
 我儕ハ各自此能力ト自由アルコトヲ知レバ也或ハ曰惟設
 シ彼ノ事アレバ則チ此事アルヲ知ル而已ト此說ノ立チ難
 キコトハ既ニ前ニ辨シタルガ如シ或ハ曰神ハ其受造物ノ所
 爲ヲ知ル事ヲ自ラ禁ズルノ能力アリト然レモ知ルト知ラ
 ザルノ境ニ於テ中間ノ地位アル可ラズ故ニ若シ神ノ知ザ
 ル事アリトセバ其知識ハ受造物ノ所爲ヲ觀ルニ隨テ常ニ
 増進スル者也ト爲ザル可ラズ果シテ然ラバ神ハ成全ナラ
 ザル者ニシテ神ハ己ノ受造物ノ所爲ニ賴テ事物ヲ知ル者

也ト云ハザル可カラズ

神ガ萬事ヲ預知シ給フ事ト人ガ自己ノ意ニ循テ事ヲ行フ
 ノ能力自由アル事ハ二ツノ確乎タル事實也此二事ハ孰レ
 モ其証據確實ニシテ動カスベカラズ故ニ我儕ハ之ヲ兩チ
 ガラ信セザル可ラズ然ラバ此二事ハ如何ニシテ能ク兩チ
 ガラ眞實ナルコトヲ得ルヤト尋ルニ蓋神ノ永遠無窮ナル
 事ニ由テ其解說ヲ得ベシ夫レ無所不能無所不知ナル宇宙
 ノ主宰ニ於テハ萬事永遠ニ現在ナリ即チ我儕人類ニ於ル
 如ク事物ニ過去未來現在ノ區別ナク一切同時ニ在ル也實
 ニウエスレー氏ガ人心ノ才能ヲ論シタル書中ニ言ヘル如
 シ其語ニ曰我儕若シ正當ニ言ヘバ神ニ於テハ預知モ後知

モアルコトナシ神ニ於テハ凡ノ時(寧口凡ノ永遠ト言フベシ)皆同時ニ現在ナルガ故ニ神ハ此事ノ前ニ彼ノ事ヲ知り或ハ彼ノ事ノ後ニ此事ヲ知り給フ如キコトナシ但永遠ヨリ永遠ニ至ルマデ萬事萬物ヲ一目ニ見給フ也ト

第二章 神ノ智慧

夫レ智慧ハ知識ト異ナリ知識ハ事物ノ有無性情及ヒ關係ヲ悟ル所以ナリ智慧ハ吾ガ知識ヲ活用セシムル所以ナリ神ノ智慧トハ即チ萬全ノ法ニ由テ正當ノ目的ヲ達セン爲ニ其無限ノ知識ヲ使用スル所以也
此事ニ就テ聖經ノ教左ノ如シ

第一 神ハ智シ○約百紀十二ノ十三ニ曰智慧權能神ト共

ニアリ謀畧明哲亦然リ○羅馬十一ノ三十三ニ曰嗚呼神ノ智ト識ノ富ハ深カナ其法度ハ測リ難ク其踪跡ハ索子難シ○同十六ノ二十七ニ曰即チ獨リノ智キ神ニ榮光窮ナクイエスキリストニ由テ在ランコトヲ願フアーメン○哥羅二ノ三ニ曰智慧ト知識ノ蓄積ハ一切キリストニ藏レアル也
第二 神ハ人智ノ源ナリ○列王上四ノ二十九ニ曰神ハソロモンニ智慧ト聰明ヲ賜フコト甚シ○行傳七ノ九ト十二ト曰始祖等ヨセフヲ妬ミ之ヲエジプトニ賣レリ然ド神ハ彼ト憐ニ在テ諸ノ患難ノ中ヨリ之ヲ救出シエジプト王パロノ前ニ於テ恩寵ト智慧トヲ賜ヘテエジプト及ヒパロノ全家ヲ宰ラセ給フ○雅各一ノ五ニ曰汝曹ノ中若シ智慧足ラ

ザル者アラバ夫ノ咎ルコトナク惜ムコトナクシテ各人ニ
予ル神ニ求ヨ(但以理二ノ二十ヨリ二十三参考)

第三 神ノ智慧ハ創造ノ工ニ由テ顯ハル○創世記第一章
参考○詩篇百四ノ二十四ニ曰エホバヨ汝ノ工ハ如何ニ多
キヤ皆汝ノ智慧ヲ以テ造ル所ナリ○箴言三ノ十九ニ曰エ
ホバハ智慧ヲ以テ地ヲ定ム○耶利米十ノ十二ニ曰エホバ
ハ其能ヲ以テ地ヲ造リ其智慧ヲ以テ世界ヲ建テ其明哲ヲ
以テ天ヲ舒ベ給ヘリ

第四 神ノ智慧ハ宇宙ノ攝理ニ由テ顯ハル

其一神ハ己ノ意ニ任セテ宇宙ヲ攝理ス而シテ其意ハ即チ
至上最善ノ目的也○以賽亞四十三ノ二十一ニ曰我已ノ爲

ニ斯民ヲ造レリ其レ將ニ我ノ頌美ヲ顯ハサントス○同五
十五ノ八ヨリ十一ニ曰エホバ曰我が思念ハ汝ノ思念ニ非
ズ我が道ハ汝ノ道ニ非ズ蓋天ノ地ヨリ高キガ如ク我が道
ハ汝ノ道ヨリ高ク我が思念ハ汝ノ思念ヨリ高シ蓋雨ノ降
ルガ如ク雪ノ天ヨリ降テ之ニ返ラズ却テ地ヲ潤ホシテ芽
ヲ萌シ實ヲ結バシメ又播ク者ニ種ヲ給ヘ食フ者ニパンヲ
與ルガ如ク我口ヨリ出ル所ノ言モ亦將ニ是ノ如クナラン
必ズ果サズシテ我ニ歸ルコトナク必ズヤ我が悦フ所ノ者
ヲ成シ必ズ我が遣ス所ノ事ヲ利達セン

其二 神ノ攝理ノ智慧ハ其禍ヲ轉シテ福トナス事ニ由テ
顯ハルヨセフノ履歷ニ於テ之ヲ見ルベシ○創世記四十五

ノ五ニ曰汝等我ヲ此ニ驚シヲ以テ憂フル莫レ自ラヲ恨ムル莫レ神生命ヲ救ハシメントテ汝等ノ前ニ我ヲ遣シ給ヘリ○バビロン王子ブカド子ゾル嘗テ一大像ヲ造リ衆民ニ命シテ之ヲ崇拜セシム且命シテ曰凡テ此命ニ從ハザル者ハ火爐ノ中ニ投セラレベキ者也ト然ルニ此ノ神ヲ蔑如シ其民ヲ惱シタル事ハ却テエホバノ獨一無二ノ眞神タル事ヲ天下ニ宣告スルノ原トナレリ(但以理第三章參考)此等ノ事例多々アリト雖モ今尙惟其一ヲ擧シ是レ其最モ洪大ナル者也即チユダヤ人ガキリストヲ十字架ニ釘タル言バカラザルノ大罪是レナリ然レモ是又世界ノ福ト凡テ信ズル者ノ救ノ爲ニ預定セラレタル方法ナリキ故ニ默示録ニハ

キリストヲ指テ世界ノ初ヨリ殺サレタル羔ト呼ベリ
 第五 神ノ智慧ハ贖世ノ行爲ニ由テ顯ハル即チ公義慈愛ノ調和福音ノ傳播及ビ救拯ノ賜ニ由テ顯ハル○羅馬三ノ二十五ト二十六ニ曰神ハ已往ノ罪ヲ寛容ニ爲シ給ヒシカド其義ヲ彰ハサントテイエスヲ立テ挽回ノ祭物トナセリ即チ其血ヲ信ズル者ノ挽回ノ祭物タルナリ神ハイエスヲ信ズル者ヲ義トスルトモ尙自ラ義タラン爲ニ其義ヲ彰サントス○前哥林一ノ二十三、二十四ニ曰我儕ハ十字架ニ釘ラレシキリストヲ宣傳フ即チ此ハユダヤ人ニハ礙ク者ギリシヤ人ニハ愚ナル者ナリ然ド召レタル者ニハユダヤ人ニモギリシヤ人ニモキリストハ神ノ大能又神ノ智慧ナリ

○以弗一ノ七八ニ曰其恩ノ豊ナルニ由テ彼ニアル我儕其血ニヨリ贖即チ罪ノ赦ヲ得ル也神様々ノ智慧ト聰明ヲ予ヘテ此恩ヲ我儕ニ充シム(以弗三ノ八ヨリ十参考)又神ハ成全ナル者ナルガ故ニ其無限ノ知識ト共ニ凡ノ成全ヲ具有セザル能ハズ故ニ神ハ限ナク智慧アリト論ズル事ヲ得ベシ蓋此道理ノ歸着ト聖經ノ教訓トハ宇宙各處ニ著明ナル無數ノ證據ニ由テ愈確立スル也凡テ有神論ニ於テ宇宙ノ順序和合及ビ經營ノ證據ニ就テ辨シタル所ハ惟神ハ萬事萬物ヲ詳知スルコトヲ証スル耳ナラズ亦其智慧アルコトヲ證スル也宇宙何處ニ眼ヲ轉ズルモ物トシテ神ノ智慧ヲ彰ハサマルハナシ小ハ草葉花瓣ノ意匠構造ヨリ大ハ日月星

晨ノ運動ヲ管理スル所ノ法ニ至ルマデ皆然リトス又神ヨリ此等ノ道理ヲ悟ルノ才能ヲ賦セラレタル人ノ心ニ於テモ亦然リ凡テ學術ノ進歩ニ由テ發明セラレタル法ハ皆悉ク神ノ智慧アル證據ナリ何トナレバ其法ハ即チ神ガ萬物ヲ創造シタル目的ヲ成就セン爲ニ其無限ノ智慧ヲ以テ設ケ給ヘル所ノ者ナレバ也我儕ハ亦天地萬物人類ノ才能命數及ビ神ガ人ヲシテ惡ヲ制セシメン爲又其靈魂ノ渴望ヲ満足セシメン爲ニ設ケ給ヘル所ノ事ニ由テ神ノ靈妙不思議ナル智慧ヲ見ル也夫レ人ハ先ヅ神ヲ知ルニ非レバ已ラ眞ニ識ルコト能ハズ然リ而シテ遂ニ神ノ至大至善ナル事ヲ識ルニ及ンデ始テ能ク神ノ榮光ハ即チ人生至上ノ目的

ニシテ又實ニ萬物ノ目的タルコトヲ覺知スベキ也

第三章 神ハ能ハザル所ナシ

神ハ能ハザル所ナシトハ即チ凡テ其欲スル所ヲ爲シ且其欲セザル所ヲモ若シ之ヲ爲サント欲セバ爲スノ能力アルコトヲ云フ也

第一 聖經ハ常ニ神ノ無所不能ヲ以テ我儕ノ最モ崇尊スベキ事トナシ且之ヲ以テ我儕ノ神ヲ信ズベキ所以トナス

○エホバ始祖アブラハムニ謂テ曰神ハ乃チ全能ノ神ナリ汝我が前ニ善行ヲ全フスベシ(創世十七ノ一)○ヨセフ神ヲ崇尊シテ曰我知ル汝能ク萬事ヲ成ス(約百四十二ノ二)○詩篇ニ曰我儕ノ神ハ天ニアリ己ノ意ニ適フ所ヲ行フ(詩篇百

十五ノ三)○又曰凡テエホバノ聖旨ナル事ハ天ニ於テモ地ニ於テモ海ニモ淵ニモ悉ク之ヲ行ヒ給フ也(詩篇百三十五ノ六)○預言者エレミヤハ神ニ祈リテ曰嗚呼主エホバヨ汝ハ大ナル能ト伸タル腕ヲ以テ天ト地トヲ造リ給ヘリ汝ニハ爲ス能ハザル所ナシ(耶利三十二ノ十七)○人類ノ大師且救主タル者曰神ニハ能ハザル所ナシ(馬太十九ノ二十六)○使徒パウロハエペソノ教會ノ爲ニ祈テ曰又信ズル汝等ニ對シテ行ヒ給フ神ノ能ノ極メテ大ナルコトヲ知ラシメ給ハンコトヲ願フ(以弗一ノ十九)○又神ニ榮ヲ歸シテ曰願クハ我儕ノ中ニ行フ能力ニ循ヒテ我儕ノ求ル所思フ所ヨリモ甚ダ行ヒ得ル者ニ世々窮ナク榮ヲ歸セン(以弗三ノ二十)

○又黙示録ニハ天ニアル大衆ガ「ハレルヤ」夫レ主タル全能ノ神ハ王ナリト言フコトヲ記載セリ(黙示十九ノ六)

第二 神ハ其欲セザル所ノ事ヲモ若シ爲ント欲セバ之ヲ爲スノ能力アル事ハ馬太二十六ノ五十三、五十四ニ言フ處ニ由テ明カナリ曰我今十二軍餘ノ天使ヲ我父ニ請テ受ルコト能ハズト汝曹思フ乎若シ然カセバ斯クアルベキ事ヲ録シ、聖書ニ如何テ應ハン乎

第三 聖經ハ又神ノ能力ノ抵抗ス可ラザルコトヲ教ユ○復傳三十二ノ三十九ニ曰汝今之ヲ觀ヨ我ハ即チ彼ナリ我ノ外神アルコトナシ我之ヲ殺シ我之ヲ生ス我之ヲ傷ケ我之ヲ愈ス而シテ人能ク之ヲ我手ヨリ救出スコトナシ○歷代

下二十ノ六ニ曰汝ノ手ニカト能アリテ人能ク汝ニ抵抗スルコト能ハザルニ非ズヤ

第四 又神ノ能力ハ必ズシモ方法ノ補助ヲ要セザルコトヲ教ユ○創世記一ノ三ニ曰神光アレト言給ヒケレバ光アリキ○詩篇三十三ノ六ト九ニ曰天ハエホバノ言ニ由テ造ラレ天ノ萬軍ハ其口ノ氣ニ由テ造ラレタリ又彼有レト言ヒ給ヘバ則チアリ彼立テト命シ給ヘバ則チ立テリ宇宙各處ニ於テ其物質ニ屬スルト人ノ心意ニ屬スルトチ間ハズ能力ノ證據勝テ算フベカラズ然レモ宇宙ハ神ノ創造シタル所ナレバ凡テ其能力ノ證據ハ則チ造物主タル神ノ能力ヲ彰ハスナリ我儕ハ宇内ニ二種ノ能力アルコトヲ

見ル一ハ即チ運動ノ能力ナリ即チ天體及ビ分子ノ運動是也此能力ハ星學化學及ビ重力ノ法等ヲ考究スル時顯ハル其他ノ一ハ即チ凡テ生物就中人類ニ屬スル所ノ能力ナリ即チ我儕ガ意ニ任セテ發スル所ノ能力是ナリ我儕ハ我ガ心ニ之ヲ爲ント欲セバ則チ能ク我手ヲ舉ゲ或ハ此處彼處ニ行クヲ得ル也人ノ心意ハ自然ニシテ能ク物ヲ考察シ且自己ノ思想ヲ反顧スルノ能力ヲ有スル也是レ即チ前者トハ全ク別種ノ能力ナリ彼ハ即チ法則ニ制セラル、所ノ一定不變ノ能力此ハ即チ活物ナル人類ノ心意ニ由テ變動スル所ノ能力ナリ然レ兩者共ニ其本源ハ神ニアル也何トナレバ神ハ宇宙ヲ合成スル所ノ物質ノ造主タル耳ナラ

ズ亦人ノ心意ノ造主ナレバ也而シテ此兩者ニ各其存在ヲ與ヘタル所ノ者ハ亦此兩者ニ其各々有スル所ノ能力ヲ與ヘタル者也

果シテ神ハ一切能力ノ本源ナラバ神ハ至尊無上自主獨立ナルガ故ニ(其外ニ在テ)能ク其能力ヲ檢束或ハ界限スル者アルベカラズ且神ノ存在ハ無始無終自然無因ナルガ故ニ(其内ニ在テ)其能力ニ界限或ハ不足アルベキ所以ナシ故ニ神ノ能力ハ其他ノ性徳ト同ク無限無量タラザルヲ得ザル也

然リ而シテ神ノ能力ハ其他ノ成全ナル性徳ト相調和シテ使用セラル、者ナリ之ヲ記憶スルハ必要ナリ何トナレバ

人或ハ愚ニモ神ハ無所不能ナラズ何トナレバ神ハ惡ヲ行フコト能ハズ又死スルコト能ハズト云フコトアレバ也神ハ無限公義ナル者ニシテ固ヨリ惡ヲ行フコト能ハズ是レ他ナシ神ハ惡ヲ行フコトヲ欲セザレバ也神ハ無限無窮ノ者ナリ故ニ自滅スルコト能ハズ凡テ神ノ爲ス所ハ全ク自由ナリ然レモ神ハ何事モ固有無限ノ成全ナル性徳ニ相背テ行フコト能ハザル也

第四章 神ノ主權

一旦神ノ無所不能ナルコトヲ思ヘバ其主權ノ念モ亦自ラ心中ニ起リ來ル也無所不在無限睿智無所不能ノ神ハ已ノ意ニ循テ一切萬物ヲ管理スル也神ノ主權ハ自然ニシテ界

限アルコトナシ然レモ我儕ハ其主權ノ念ト其他ノ性徳ノ念トチ分離ス可ラズ神若シ無限ニ智且聖且善ナラズバ其宇宙ノ政治如何ナラント推究スルハ全ク無益ナリ神ノ主權ハ凡テ其他ノ成全ノ性徳ト和合スル也夫レ神ハ特ニ己ノ意ニ任セテ萬物ヲ管理スル耳ナラズ神ハ大智至聖至公至善至真ナルガ故ニ凡テ此等ノ性徳ニ循テ萬物ヲ管理スルナリ神ハ即チ此ノ如クニシテ己ノ好ム所ヲ行ヒ且惟己ノ好ム所耳ヲ行フ也神ノ主權ハ一物トシテ之ヲ界限スル者ナシ此至上ノ神ニ今舉タル他ノ性徳アルコトハ後ニ詳論スベシ其主權アルコトハ聖經之ヲ明言ス○詩篇百十五ノ三ニ曰我儕ノ神ハ天ニアリ己ノ意ニ適フ所ヲ行フ○但以

理四ノ二十五ト三十五ニ曰汝至上者ハ人ノ國ニ主タリ而
ノ已ノ意ニ循テ之ヲ人ニ賜フコトヲ知ルニ迫ラン彼且已
ノ意ニ循テ天ノ軍勢及ビ地上ノ居民ノ間ニ行フ人能ク其
手ヲ止メ而シ之ニ謂テ汝何ヲ爲スヤト曰フ者ナシ○羅馬
十一ノ三十六ニ曰ソハ萬物ハ彼ヨリ出テ彼ニ倚リ彼ニ歸
レバナリ○以弗一ノ十一ニ曰萬事ヲ其意ノマ、ニ行フ者
已ノ旨ニ循ヒテ預メ我儕ヲ定メキリストニ在テ嗣子ト爲
ルコトヲ得セシム○前提摩六ノ十五ト十六ニ曰神ハ即チ
福アル所ノ獨一ノ權威アル者諸王ノ王諸主ノ主獨一ノ死
セザル者近クトヲ得ザル光ニ在シテ人未ダ見シコトナク
又見ルコト能ハザル者也願クハ貴尊ト窮ナキ權力彼ニア

レア、メン(羅馬九ノ十五ヨリ二十三參考)

神ノ主權ノ由テ立ツ所ノ基礎ハ博士ホツシ氏之ヲ言得タ
リ曰第一神ハ其存在及ビ凡ノ性德ニ於テ一切萬事ニ勝レ
ルコト無限ナル者ナリ第二一切萬物ハ受造物トシテ無一
物ヨリ創造セラレ而シテ其榮光ノ爲又其旨意ニ循ヒテ今ニ
至ル迄生存スル者ナリ(羅馬十一ノ三十六第三我儕ハ神ヨ
リ無限ノ恩澤ヲ蒙リ且神ニ依賴シ且神ニ在テ無上ノ福ヲ
受ル者ナリ然ラバ即チ特ニ此貴キ眞理ヲ眞理ト認ル耳ナ
ラズ宜ク之ヲ喜ブベキナリ詩ニ曰エホバハ治メ給フ地ハ
樂ムト(詩篇九十七ノ一)

神ノ意

我儕ハ是迄神ノ意ト云フ事ニ就テ屢々語りタルガ神ノ主
權善聖眞實公義ノ六ハ神ノ意ノ性徳ト名ル者ナレバ此ニ
其意義ヲ解明スベシ

夫レ意トハ智慧アル者ガ事ヲ決定シ或ハ選擇スルノ才力
ヲ云フ也

神ハ即チ此才力アリ而シテ此才力ハ其定旨定命ノ根源ナリ
我儕ハ此ノ如ク智慧アル人類ノ意ニ比較シテ神ノ意ヲ解
明スト雖モ神ノ意ハ成全ナル者ニシテ人ノ意ハ不成全ナ
ル者ナルコトヲ忘却スベカラズ蓋人ハ事ヲ察スルニ幾分
ノ時ヲ費シ而シテ後ニ之ヲ決シ而シテ後ニ漸ク之ヲ實踐スル
ナリ然レモ神ニ於テハ此等ノ事皆一齊ニシテ分離セズ何

トナレバ神ニ於テハ時ニ相續前後ナク凡ノ時皆常ニ現在
ナレバナリ是レ他ナシ神ハ永遠無窮ナレバ也

大智大能且公義ナル神ハ常ニ智慧ト大能ト公義ヲ以テ其
意ヲ定ル也且宇宙ニ一トシテ神ノ度外視スル所ノ者ナシ
何トナレバ萬事ヲ最モ智ク選ムハ即チ智慧ノ成全ニシテ
而シテ萬事ヲ最モ義シク定ルハ公義ノ成全ナレバ也
又神ノ意ハ永遠ヨリ凡テ其創造セル所ノ者ト其所爲ニ全
ク依頼スルコトナシ

神ノ意ヲ論ズル時ニ神ガ自ラ有ラシメント企圖シ給フ所
ノ事ニ關スル神ノ決意ト凡テ其智慧アル受造物ノ遵奉ス
ベキ法律即チ人ノ良心及ビ聖經ニ顯ハサレタル法律ニ關

スル神ノ決意トヲ區別スルヲ常トナス此區別ニ循テ之ヲ命令的ノ意及ビ教訓的ノ意ト稱スル者アリ或ハ亦其前者ヲ秘密ノ意後ノ者ヲ啓示ノ意ト名クル者アリ蓋此區別ハ復傳律例二十九ノ二十九ニ明カニ顯ハサレタリ其文ニ曰凡テ隱微ナル者ハ我儕ノ神エホバニ屬シ凡テ明示セラレタル者ハ永ク我儕及ビ我儕ノ子孫ニ屬ス是レ我儕ヲシテ凡テ此法度ノ言ヲ實行セシメンガ爲ナリト

第一 神ノ命令的ノ意ハ左ノ如キ本文中ニ顯ハル○行傳四ノ二十七、二十八ニ曰誠ニヘロデトポンテナピラト異邦人及ビイスラエルノ民相共ニ此城ニ集リ汝ガ膏ヲ沃キタル聖僕イエスニ逆ヘリ是レ汝ノ手汝ノ旨ニテ預メ定メ給

シ事ヲ彼等ハ成セル也○以弗一ノ五ニ曰其意ノマ、ニイエスキリストニ由テ我儕ヲ己ノ子トナサンコトヲ愛ヲ以テ預メ定メタリ○同一ノ九ヨリ十一ニ曰我儕ニ其旨ノ奧義ヲ意ノマ、示セリ是レ自ラ定メ給ヒシ所ナリ即チ期ノ滿ル時ニ至リテ或ハ天ニアリ或ハ地ニアル萬物ヲキリストトイテスニ歸セシメンガ爲ニ定メ給ヒシ所ナリ萬事ヲ其意ノマ、ニ行フ者己ノ旨ニ循テ預メ我儕ヲ定メキリストニ在テ嗣子ト爲テ得セシム○前彼得二ノ八ニ曰又蹟ノ石礙サシマグル岩トナル也彼等ハ言ヲ信ゼザルニ因テ之ニ蹟ク此ハ彼等斯ク定メラレタル也

第二 神ノ教訓的ノ意ハ左ノ如キ本文中ニ顯ハル○馬太

七ノ二十一ニ曰我ヲ呼テ主ヨト主ヨト言フ者盡ク天國ニ入ルニ非ズ唯之ニ入ル者ハ我天ニ在ス父ノ旨ニ遵フ者ノミナリ○路加十ノ二十七、二十八ニ曰答テ曰ケルハ汝心ヲ盡シ精神ヲ盡シカヲ盡シ意ヲ盡シテ主ナル汝ノ神ヲ愛ス可シ亦己ノ如ク隣ヲ愛スベシイエス曰ケルハ汝ノ答ヘ然リ之ヲ行ハ、生クベシ○羅馬十二ノ二ニ曰又此世ニ效フ勿レ汝等神ノ全ク且善ニ悦フベキ旨ヲ知ランガ爲ニ心ヲ更ヘテ新ニセヨ○前帖撒四ノ三ニ曰神ノ旨ハ汝曹ノ潔キ事云々ヲ要メ給フ

神ノ命令的ノ意即チ秘密ノ意ハ其既ニ成就セル所ノ外ハ我儕之ヲ知ルコト能ハズ但其教訓的ノ意即チ啓示セラレ

タル意ハ我儕之ヲ知ルコトヲ得ベシ而シテ我儕ハ之ヲ我が百行ノ規矩準繩トシテ遵奉スベキ也

第五章 神ノ聖

神ノ聖トハ其ノ限ナク凡ノ惡ヲ惡ミ且凡ノ善ト義トヲ限ナク愛ム所ノ性徳ヲ云フ也然レモ此ハ他ノ性徳ト殊別ナル性徳ニ非ズ却テ凡テ其他ノ性徳ノ總合ト曰フベシ譬ヘバ神ノ聖ノ凡テ其有リ且有シ且爲ス所ニ普キコトハ猶光明ノ宇内ニ普キガ如シ神ノ公義トハ乃チ智慧アル受造物ニ對シテ其聖徳ノ顯ル、所以ナリ

第一 聖經ハ神ノ聖ナル事ヲ明言ス○出埃及記十五ノ十一ニ曰エホバヨ諸神ノ中ニ誰カ汝ニ如ク者アラン汝ノ如

ク聖クシテ榮アリ讚ムベク且威アリテ奇蹟ヲ行フ者アラ
 シヤ○利未記十一ノ四十四ニ曰我ハ乃チエホバ汝ノ神ナ
 リ故ニ汝自ラ聖別スベシ且聖カルベシソハ我聖ケレバ也
 ○以賽亞六ノ三ニ曰聖ナル哉聖ナル哉聖ナル哉萬軍ノエ
 ホバ全ク其榮光ヲ以テ充滿ス○前彼得一ノ十六ニ曰我聖
 ケレバ汝曹モ聖クスベシ○默示十五ノ四ニ曰主ヨ誰カ汝
 ヲ畏レザラン乎誰カ汝ノ名ヲ崇メザラン乎唯汝ハ聖シ○
 詩篇五ノ四ニ曰汝ハ惡キ事ヲ悦ビ給フ神ニ非ラズ惡キ者
 ハ汝ト偕ニ居ルコトヲ得ザレバ也○詩篇十一ノ五ニ曰エ
 ホバハ義者ヲ試ミ又其心ニ惡キ者ト強暴ヲ好ム者ヲ惡ミ
 給フ也○哈巴谷一ノ十三ニ曰汝ノ目ハ乃チ潔シ而シテ肯

テ妄ヲ觀ズ

第二 神ハ自ラ聖ナレバ他ノ者ノ聖ヲ愛ス○詩篇十一ノ
 七ニ曰義キエホバハ義ヲ愛ム

第三 凡テ神ニ特別ノ關係アル者ハ聖シ

其一 其名ハ聖シ○詩篇百十一ノ九ニ曰其名ハ聖クシテ
 畏ル可キ也○以賽亞五十七ノ十五ニ曰至高至上永遠ヲ以
 テ居所ト爲ス者至聖ヲ以テ其名トナス者斯ク曰フ云々
 其二 其契約及ビ約束ハ聖シ○詩篇百五ノ四十二ニ曰神
 ハ其聖キ言ト其僕アブラハムヲ記憶シタレバ也○路加一
 ノ七十二ニ曰此ハ仁惠ヲ我儕先祖ニ施シ又其聖約ヲ忘レ
 シト也

其三 神ノ在ル所ハ聖シ又其家ハ聖シ是レ即チ神其處ニ在セバ也○出埃及記三ノ五ニ曰此ニ近ル勿レ汝ノ足ヨリ履ヲ脱グベシ汝ガ立ツ所ハ聖キ地ナレバ也○詩篇五ノ七ニ曰然レド我ハ多ノ恩ヲ蒙リ汝ノ室ニ入り汝ヲ畏レテ汝ノ聖殿ニ向ヒテ拜マン

其四 神ノ安息日ハ聖シ○出埃及記二十ノ八ニ曰安息日ヲ憶エテ之ヲ聖クスベシ○以賽亞五十八ノ十三、十四ニ曰汝若シ安息日ヨリ汝ノ足ヲ轉シテ已ノ悦ブ所ヲ作サズ且安息日ヲ稱シテ悦フベキ者トナシエホバノ聖日ト稱シ尊ムベキ者ト爲シ且之ヲ尊テ已ノ途ヲ行マズ己ノ悦ブ所ヲ獲ズ浮言ヲ言ズンバ即チ汝將ニエホバヲ悦バン

其五 其言ハ聖シ○後提摩三ノ十五ニ曰且幼少キ時ヨリ聖書ヲ知リタレバナリ聖書ハ汝ヲシテキリストイエスヲ信ズルニ因テ救ヲ得セシメン爲ニ救ヲ予フル者也(後彼得一ノ廿一參考)

其六 其民ハ聖シ○前彼得二ノ九ニ曰汝曹ハ選レタル族、王ナル祭司、聖キ民、神ニ屬スル者也

神ノ聖キコトハ其人類ノタメニ爲シ給ヘル所ニ由テ顯ハル蓋神ハ人ヲ正直ナル者ニ作り而シテ之ニ予ルニ聖善ノ法ヲ以テセリ且無限ノ犠牲ヲ以テ其罪ヲ贖ヒ洪大貴重ナル約束ヲ以テ之ニ聖潔ヲ勸勉メ且恐ロシキ威嚇ヲ以テ其不潔ヲ致スヲ警戒メ給ヒバ也

又此事ハ人ガ神ニ對シテ懷ク所ノ思想ニ由テ一層明カニ
 顯ハル、也蓋不義者ハ神ノ前ニ在ルヲ恐ル出埃及記二
 十ノ十八十九ニ曰民皆雷電角聲山煙ヲ見ル民之ヲ見テ懼
 レ戰慄シテ遠ク立チモ―セニ謂テ曰汝我儕ニ語レ我儕之
 ヲ聞カン惟神ヲシテ我儕ト語ラシムル母レ恐クハ我儕死
 亡セント嘗テボル子イト云ヘル有名ノ不信者アリ彼或時
 船中ニアリテ暴風ニ逢フ未ダ暴風ノ起ラザルヤ曰ヲ極メ
 テキリスト教ヲ嘲弄罵詈シ居タルガ暴風起ルヤ忽地周章
 狼狽シテ船中ヲ上下シ嗚呼我ガ神ヨ我ガ神ヨ我如何ニセ
 ント號哭セリト云フ之ニ反シテ善者ハ自ラ神ニ近キ且神
 ト偕ナルヲ以テ無上ノ喜トナス也第一約翰一ノ三ト四ニ

曰我見シ所聞シ所ヲ汝等ニ傳フルハ汝曹ヲ我儕ト偕ナラ
 シメン爲ナリ我儕ハ父及ビ其子イエスキリストト偕ナリ
 我儕此書ヲ書キ贈テ汝等ノ喜ヲ充シメントス
 加之ナラズ若シ神ハ至聖ナシズトセバ神ハ則チ成全ナル
 者ニ非ルベシ我儕ハ既ニ神ノ知識ト智慧ト能力ノ無限ナ
 ルユトヲ辨明セリ其公義善良眞實ノ無限ナル事ハ後ニ辨
 明セン然レモ若シ神ハ此等ノ性徳ニ於テ無限ナラバ其聖
 ニ於テモ亦無限タラザルヲ得ズ夫レ神ハ能ク事物ノ眞性
 ヲ察ス神ハ事物ノ眞偽善惡ヲ誤ルコト能ハズ然レモ既ニ
 其是ナルヲ知テ而シテ尙其非ナルヲ選バ、是レ其ノ成全ナ
 ラザル證據ナリ且神ハ無限ノ知識ト智慧ヲ具ヘナガラ非

ナル者ヲ嘉スルコト能ハザル也神若シ無限ニ聖ナラズン
 バ亦無限ニ公義或ハ善良或ハ眞實ナルコト能ハザルベシ若
 シ神ニシテ聖ナラズンバ其種々ノ性徳ニ於テ和合アル能
 ハズ然レモ若シ其性徳ニ不和アレバ是レ亦成全ナラザル
 ノ證據也故ニ神若シ聖ナラズンバ則チ成全ナル者タルコ
 能ハズ且夫レ神ハ獨立全能ナルガ故ニ或ハ神ヲシテ非ヲ
 行ハシメ或ハ非ヲ嘉サシメ得ル者ナシ又神ハ知識智慧共
 ニ無限ナルガ故ニ或ハ他者ニ欺カレ或ハ自ラ誤ルコト能ハ
 ズ又神ハ至公至善至眞ナルガ故ニ凡テ其行爲ハ此等ノ性
 徳ト和合セザルヲ得ズ故ニ神ハ聖ナラザルヲ得ザル也
 及對說ニ答フ

第一 論者或ハ曰ン神ハ聖ニ非ズ何トナレバ神ハ萬世ノ
 始ヨリ萬事ヲ詳知シナガラ人ヲ創造スルニ必ズ罪ヲ犯ス
 ベキ者ニ創造シタレバ也ト答テ曰人皆神ハ元始ヨリ罪惡
 ヲ禁シタルコトヲ知ルコトヲ得ベシ聖經ノ啓示ニ由ルモ
 萬物ノ啓示ニ由ルモ神ガ罪惡ヲ惡ミ給フコトハ明白ナリ
 神ハ人ヲ創造スル時ニ當テ之ニ賦與スルニ己ノ意ニ任セ
 テ或ハ誠命ニ從ヒ或ハ之ニ背クノ能ヲ以テセリ夫レ人ノ
 至上ノ歡樂ハ甘心シテ神ヲ愛敬崇尊シ之ニ服従スルヨリ
 起ルモノナリ然ルニ若シ強テ之ニ善事ヲ行ハシメタラン
 ニハ其自由ハ全ク失セ事物ヲ選ブノ權ハ全ク滅ビシナラ
 ン加之ナラズ神ハ人ヲ善ナル者ニ造リ且之ニ賦スルニ是

ナル者ヲ選ブノ權ヲ以テシタル耳ナラズ亦之ニ與フルニ之ヲ選ブベキ緣故ヲ以テシ且之ニ聖善ノ律法ヲ授ケテ宜ク之ニ遵フベシト命シタリ譬ヘバ人ノ智慧ハ何カ之ヲ適用スル所ノモノアルニ非レバ無用ナルガ如シ縱令我ニ眼アルモ光明アルニ非レバ全ク無用ニ屬ス此ノ如ク若シ公義ナル律法アルモ能ク之ニ遵ヒ或ハ之ニ背クノ權アルニ非レバ其道德ノ自由ハ無用ノ長物無益ノ賜ナリ神ハ人ニ公義ナル律法ヲ與ヘ且之ニ遵フベシト命シタリ其律法ハ公義ニシテ人ハ若シ之ニ遵ハント欲セバ之ニ遵フノ權アリシ也故ニ其罪ヲ犯シタルハ全ク彼レ自ラノ過失ニシテ神ノ過失ニハ非ル也

第二 又曰聖經ニモ神ハ人ヲ試ムトアルニ非ズヤ譬ヘバ創世記二十二ノ一ニ曰此事ノ後アブラハムヲ試ムトアルガ如シト答テ曰此ハ神ガアブラハムヲ惑ハシメタルニ非ズ惟其信仰ヲ試ミタル耳雅各一ノ三ニ曰汝等ノ受ル信仰ノ試ハ汝曹ヲシテ忍耐ヲ生ゼシムト(同書一ノ十三、十四參考)

第三 論者又曰聖經中ニ神ハ故意ニ人ニ罪ヲ犯サシムトアリ譬ヘバ出埃及記九ノ十二ニエホババロノ心ヲ剛愎ニストアルガ如シト答テ曰バロモ亦自ラ其心ヲ剛愎ニセリトアリ(出埃及記八ノ三十二參考)夫レ罪人ノ心ヲ剛愎ニスルノ道ニアリ或ハ神ソノ罪人ノ心ヲ從順ナラシムル所ノ

恩惠ヲ施ス事ヲ停止シ而シテ其心増ス神ニ背キテ剛愎ニナルコトアリ或ハ罪人ヲ罰セン爲ニ之ヲ惡魔ノ誘惑ニ任セ給フコトアリ然レモ孰レニ於テモ其結果ハ即チ一ナリ神ハ公義ニ循テ孰レニモ行フコトヲ得ル也何トナレバ神ハ何ノ罪人ニ對シテモ救ノ恩惠ヲ施スノ義務ナケレバ也夫レ罪人ノ増ス罪惡ニ沈淪セザル所以ノ者ハ惟神ノ恩惠アリテ之ヲ拘束スレバ也然リ而シテ神ハ此拘束ノ恩惠ヲ反逆ノ罪人ヨリ奪フトモ更ニ不義アラザル也是レ惟其情願ニ任セタル耳神ハ其僕モ一セヲバロニ遣シテ其命ヲ傳ヘシメタルニバロハ其命ヲ奉ゼズ故ニ神之ヲ罰シタル也茲ニ又一ノ注意スベキ事アリ即チ人罪ヲ犯ス時ハ之ガ爲ニ其

心腐敗シ而シテ遂ニハ義人ノ爲ニハ善行ノ源トナル可キ所ノ神ノ賜モ惡人ノ爲ニハ罪惡ノ源トナルコトアリ夫レ神ハバロニ國王ノ威光ヲ與ヘ之ニ加フルニ凡テヘブライ人ノ勞力ニ由テ得タル所ノ財寶ヲ以テセリ此等ノ賜ハ則チ善キ賜ナリ然ト雖モバロハ惡王ナルガ故ニ之ガ爲ニ却テ其心ヲ剛愎ニナセリ若シ彼ヲシテ聖善ノ國王タラシメバ必ズ爲ニ神ニ感謝シ且神ニ服從シタルナルベシ

第六章 神ノ公義

神ガ受造物ヲ待遇シ給フ際ニ於テ其聖德ノ顯ハル、之ヲ神ノ公義ト云フ是レ前ニモ言ヘルガ如シ或ハ之ヲ神ガ自己ニ對シ又其諸ノ受造物ニ對シテ凡テ正當ナル所ヲ行ス

ノ性徳ト解スル者アリ

蓋人トシテ多少公義ノ思念ナキ者ナシ然ト雖モ凡テ人間ノ公義ナル者ハ唯神ノ固有至上永遠ナル公義ノ微カナル反照ノミ我儕ガ神ハ公義ナリト云フ時ハ即チ一切ノ不義ハ其成全ノ性ニ反對スルコトヲ含ム也

第一 此事ハ舊新兩約共ニ明文アリ○創世十八ノ二十五ニ曰天下ヲ鞠ク者豈公義ヲ行ハザランヤ○復傳三十二ノ四ニ曰彼レハ磐石ナリ其道ハ全ク凡テ其行フ所ハ義シ眞實ノ神ニシテ毫モ罪愆ナシ彼ハ乃チ公義彼ハ乃チ端然○約百紀四ノ十七ニ曰死スベキ人ニシテ神ヨリモ義ナラン乎人ハ其造者ヨリ潔カラシ乎○以賽亞四十五ノ二十一ニ

曰我ノ外他ナシ我ハ即チ公義施救ノ神ナリ○約翰十七ノ二十五ニ曰義キ父ヨ世ハ汝ヲ知ラズ我ハ汝ヲ知ル○希伯來六ノ十二ニ曰神ハ汝等ガ先ニ聖徒ニ專ヘ今モ尙之ニ事フル其功勞ト聖名ノ爲ニ顯ハシ、其愛ヲ忘ル、不義ナル者ニ非ズ

第二 神ハ自ラ公義ニシテ凡テ公義ヲ愛ス○詩篇十一ノ七ニ曰義ナルエホバハ義ヲ愛ス其面ハ常ニ義人ヲ觀ル第三 神ハ凡テ其行爲ニ於テ公義也○詩篇十八ノ三十二ニ曰神ノ途ハ全シエホバノ言ハ聖シ○默示十五ノ三ニ曰主全能ノ神ヨ汝ノ行爲ハ大ナル哉妙ナル哉萬民ノ主ヨ汝ノ道ハ義ナル哉誠ナル哉

第四 神ハ其政治ニ於テ公義ナリ
 其一 凡テ其政道ニ於テ公義ナリ○詩篇八十九ノ十四ニ
 曰義ト鞫トハ汝ノ位ノ居所タリ
 其二 其智慧アル受造物ニ對スル政治ニ於テ公義ナリ之
 ヲ名ケテ神ノ德政ト云フ
 立法者トシテ神ノ律法ハ公義也○詩篇十九ノ七ヨリ九ニ
 曰エホバノ律法ハ全シテ靈ヲ活カシメエホバノ證詞ハ確
 クシテ愚者ヲ智カラシムエホバノ典型ハ直クシテ人ノ心
 ヲ悅バシメエホバノ誠命ハ潔クシテ人ノ目ヲ明カナラシ
 ムエホバノ途ハ潔クシテ永遠ニ存スエホバノ鞫ハ眞實ニ
 シテ盡ク正シ○雅各四ノ十二ニ曰律法ヲ立テ人ヲ議スル

者ハ惟一人ナリ彼ハ救フコト滅スコトヲ爲得ル也
 其三 神ハ天地ノ主宰トシテ公義也審判者トシテ賞罰ヲ
 行フニ於テモ亦然リ○耶利米十七ノ十二曰我エホバハ心
 腹ヲ察リ腎腸ヲ試ミ其途ニ循ヒ其行爲ノ果ニ由テ各人ニ
 報ユベシ○羅馬二ノ六ヨリ十一ニ曰神ハ人ノ行ニ循ヒテ
 各人ニ其報ヲ爲ス可シ耐忍テ善ヲ行ヒ榮光ト尊貴ト不朽
 壞トヲ求ル者ニハ永生ヲ以テ報ヒ然レモ爭鬪ヲ爲シ眞
 理ニ順ハズ不義ニ就ク者ニハ報ユルニ忿ト怒ト患難辛苦
 ヲ以テス此ハユダヤ人ヲ始メギリシヤ人凡テ惡ヲ行フ人
 ニ及ブナリユダヤ人ヲ始メギリシヤ人凡テ善ヲ行フ人ニ
 ハ榮光ト尊貴ト平康トヲ以テ報ユベシ是レ神ニハ偏視ナ

ケレバ也○後哥林五ノ十二曰ソハ我儕必ズ皆キリストノ
 臺前ニ出テ善ニモアレ惡ニモアレ各身ニ居テ爲シ、所ノ
 事ニ循ヒ其報ヲ受クベキ者ナレバ也ト蓋神ノ公義ハ其律
 法ヲ讀ム者ニハ顯明ナリ且道理ニ由テモ我儕ノ聖善ナル
 造物者又主宰タル者ハ凡テ其受造物ヲ待遇スルニ於テ其
 聖徳ヲ顯ハサマルヲ得ザルコトヲ知ル然リ而シテ神ノ聖
 徳ノ顯表ハ即チ是レ其公義也
 神ハ必ズ聖經ニ宣ラル、如ク罪ヲ罰スルコトヲ信ズルニ
 困ム者少カラザレバ我儕ハ是ヨリ特別ニ神ガ罪ヲ罰スル
 ノ公義ナル事ヲ論ゼント欲ス
 夫レ神ハ成全無缺永遠不易ノ聖徳ヲ具フルガ故ニ其聖ナ

ル律法ヲ犯ス者アレバ之ヲ罰セザルヲ得ズ亦必ズ之ヲ罰
 スル也

第一 聖經ハ屢々神ハ必ズ罪ヲ罰スル事ヲ明言ス○創世
 二ノ十七ニ曰汝之ヲ食フノ日必ズ死セン○詩篇十六ノ四
 ニ曰他神ニ從フ者ハ必ズ憂多シ○馬太二十五ノ四十六ニ
 曰此等ノ者ハ刑罰ニ入り義キ者ハ窮ナキ生命ニ入ルベシ
 ○加拉三ノ十二曰律法ノ書ニ載タル凡ノ事ヲ恒ニ行ハザ
 ル者ハ詛ハルベシ

第二 聖經ハ又罪人ハ當ニ罰セラルベキ者ナルコトヲ明
 言ス○羅馬一ノ三十二ニ曰凡テ此等ヲ行フ者ハ死罪ニ當
 ルベキ神ノ判定ヲ知テ云々○希伯來十ノ二十八ヨリ三十

一ニ曰モ―セノ律法ヲ廢ル者若シ二三ノ證アラバ恤マ
 ル、コトナクシテ死スベシ況シテ神ノ子ヲ蹂躪ケ自ラ潔
 メラレシ契約ノ血ヲ尋常ノ物トナシ又恩ヲ施ス靈ヲ侮ル
 者ノ受ベキ其罰ノ重キコト幾何ト意フ乎主曰仇ヲ報ユル
 ハ我ニアリ我報ユベシ又曰主其民ヲ鞠カン如此言ヘル者
 ヲ我儕ハ知ル活ル神ノ手ニ陷ルハ畏ルベキ事ナリ

第三 聖經ハ又神ガ罪人ヲ罰スルハ公義ナリト明言ス○
 尼希九ノ三十三ニ曰然レモ我儕ノ遭フ所ノ者ハ汝ニ於テ
 公義ナリ蓋汝ノ行フ所ハ義ニシ我儕ノ行フ所ハ不義ナリ
 ○羅馬三ノ五ニ曰怒ヲ加フル神ハ不義ナル乎○後帖撒一
 ノ六ト七ニ曰蓋汝等ニ患難ヲ加フル者ニハ患難ヲ以テ報

ユルハ神ノ公義ナレバ也

第四 神ハ墮落シタル天使ヲ罰ス○馬太二十五ノ四十一
 ニ曰遂ニ左ニ居ル者ニ曰ン罰セラレベキ者ヨ我ヲ離レテ
 惡魔ト其使者ノ爲ニ備タル熄ザル火ニ入レヨ○後彼得二
 ノ四ニ曰神先ニ罪ヲ犯シ、天使ヲ免サズ之ヲ地獄ニ投入
 レ之ヲ幽穴ニ置キ之ヲ禁錮シ彼等ヲシテ審判ノ時ヲ待タ
 シメ給ヘリ

第五 神ノ慈悲ニ由テ罪ノ刑罰ハ未來ノ世ニ至ル迄ハ全
 ク加ヘラレズト雖然レモ聖經ハ此世ニ於テモ神ハ幾何カ
 罰ヲ加ルコトヲ明言ス○復傳九ノ五ニ曰乃チ此諸國ノ惡
 ノ爲ニ汝ノ神エホバ之ヲ騙テ汝ノ前チ離レシム○約百紀

二十一ノ十七ニ曰夫レ惡人ノ燈滅シ其敗壞之ニ臨ミ神怒ノ時ニ於テ之ヲ散スニ酸楚ヲ以テス幾何次ナラズヤ○行傳五ノ一ヨリ十二記セルアナニアトサツピラガ罰セラレタル事ヲモ參考スベシ

第六 神ハ時アツテ信者ヲシテ神ニ歸リ而シテ愛敬奉事セシメン爲ニ其罪ヲ罰スル事アリ神ガダビデ王ノ罪ヲ罰シタルガ如キハ乃チ其一例也後撒母二十四ノ十三ヨリ十五ヲ見ヨ○前哥林十一ノ三十二ニ曰然レド今罰セラルハ主ノ我儕ヲ懲シメ給フ也是レ我儕ヲシテ世ノ人ト同ニ罰ヲ蒙ルコト無ナカラシメン爲也

第七 神ハ成全無缺永遠不易ノ聖徳ヲ具フルガ故ニ罪ヲ

罰セザルヲ得ザルコトハ其之ヲ極テ嫌惡スルコトニ由テ顯ハル試ニ舊新兩約ニ於テ此事ニ就テ用井タル言語ヲ考察スベシ○復傳二十五ノ十六ニ曰盖凡テ是事ヲ行フ者ト不義ヲ爲ス者ハ悉ク汝ノ神エホバノ憎ム所タリ○士師記二ノ十三十四ニ曰斯民エホバヲ棄テバアル及ピアシテロスニ事フエホバノ烈怒イスラエルニ及ブ○詩篇七ノ十一ニ曰神ハ義キ審判者ニシテ日々ニ怒レリ○以賽亞六十六ノ十四十五ニ曰エホバノ手ハ將ニ其諸僕ノ知ル所トナリ其怒ハ將ニ其諸敵ノ知ル所トナラン視ヨエホバハ將ニ火ヲ以テ臨ミ其車ハ旋風ノ如ク來リ而シテ震怒ヲ以テ其怒ヲ發シ火焰ヲ以テ其譴責ヲ致サントスレバナリ○約翰三

ノ三十六ニ日子ニ從ハザル者ハ生命ヲ受ルコトヲ得シ且
 神ノ怒。其上ニ留ラン○羅馬一ノ十八ニ曰夫レ神ノ怒ハ不
 義ヲ以テ眞理ヲ抑ユル人々ノ凡ノ不虔不義ニ向フテ天ヨ
 リ顯ハル○後帖撒一ノ七ヨリ九ニ曰此事ハ主イエス火焰
 ノ中ニテ其能アル諸使ト偕ニ天ヨリ顯ハレン時ニアリ即
 チ神ヲ識ラザル者及ビ我儕ノ主イエスキリストノ福音ニ
 服ハザル者ニ報ヲ予フ彼等主ノ面ト其勢ノ榮光ヨリ離レ
 テ窮ナク亡ブル罪ヲ受ン○黙示録十六ノ十九ニ曰神大ナ
 ルバビロンヲ憶起シテ之ニ己ノ劇キ怒ノ酒ヲ盛タル杯ヲ
 予ヘ給ヘリ○此等ノ激烈ナル言語ハ即チ神ガ罪惡ヲ惡ミ
 給フノ甚シキコト、其必ズ之ヲ罰スルノ意アルコトヲ示

サング爲ニ人ノ憤怒ニ比シタル者也

第八 聖經ハ亦罪人ノ罰ハ其罪ノ大小ニ因テ輕重アルコ
 トヲ明言ス○以賽亞五十九ノ十八ニ曰其作爲ニ循テ之ヲ
 報ヘン即チ怒ヲ以テ其諸仇ニ報ヒ償ヲ以テ其諸敵ニ報ヒ
 ン○路加十二ノ四十七四十八ニ曰僕主人ノ心ヲ知ナガラ
 預備セズ亦其心ニ從ハザル者ハ仆ル、コト多カラシ知ラ
 ズシテ仆ルベキ事ヲ爲シ、者ハ仆ル、コトモ少カラシ多
 ク予ヘラル、者ハ多ク求メラルベシ多ク托クレバ之ヨリ
 多ク求ムベシ

第九 盖神ガ罪ヲ罰スルノ公義ナルコトヲ顯ハス所ノ者
 鮮少ナラズト雖モ其己ノ子ノ上ニ怒ヲ灌キ給ヘルコトヨ

リ確明ナル證據ハアラズ父ノ愛子ト稱セラレ、所ノ神ノ子ガ罪アル人類ニ代リ且之ヲ無窮ノ刑罰ヨリ救ハンガ爲ニ之ニ代リテ其罪ヲ負ヒ給ヒシ也設シ神ノ成全ナル性德ニ因テ神ハ罪ヲ罰セザルヲ得ザル所以ナシトセバ父ナル神ハ其子キリストニ無用ノ苦難ヲ負セタル也然レモ決シテ此事アル可ラズ故ニゲスセマ子及ビカルバリニ於ケルキリストノ苦痛ハ惟ニ其大愛ノ記年碑タル耳ナラズ亦神ノ公義ノ記念碑ト稱スベキ也○以賽亞五十三ノ六ニ曰我儕悉ク羊ノ如ク路ニ迷ヒ各轉ジテ己ノ道ニ向ヘリ而シテニホバハ我衆ノ愆ヲ以テ彼ガ身ニ任セタリ○羅馬三ノ二十五、二十六ニ曰神ハ忍ビテ已往ノ罪ヲ寛容ニ爲シ給ヒ

シカド其義ヲ彰ハサントテイエスヲ立テ挽回ノ祭物ト爲セリ即チ其血ヲ信ズル者ノ挽回ノ祭物タル也神ハイエスヲ信ズル者ヲ義トスルトモ尙自ヲ義タラン爲ニ今其義ヲ彰ハサントス凡テ神ガ罪ヲ罰シ給フノ公義タルコトニ就テ聖經ニ教ユル所ハ道理ニ照シテ許多ノ證據アリ第一 夫レ神ハ其性永遠不易ナル者也故ニ聖善ノ理ニ於テ變易アルベカラズ且其人ヲ待遇スル時ニ顯ハル、所ノ聖善ハ人ノ性情ニ關係ナキコト能ハズ蓋神ハ善ヲ嘉シ惡ヲ惡マザルヲ得ズ然レモ其惡ヲ惡ム心ノ發顯ハ即チ其刑罰也是レ辨論ヲ俟タザル事也何トナレバ公義ナル主治者

ハ必ズ罪ヲ罰スベキコトハ深ク萬國民ノ心ニ根抵スレバ也故ニ天下ニ公義及ビ刑罰ノ意ヲ彰ハス詞ナキ國語ハ未ダ之レアラザル也

第二 人ノ良心モ亦神ガ罪ヲ罰スルノ公義ナルコトヲ證ス何トナレバ人惡ヲ行ヒ而シテ之ガ爲患難ニ逢ヘバ則チ其良心ニ於テ已其患難ニ逢フノ咎アルコトヲ覺ユレバ也且惡人ノ刑ニ處セラル、キハ善人ハ皆其良心ニ於テ之ヲ喜ブ也然レモ若シ如何カシテ其受クベキ刑罰ヲ受ケザル事アレバ良心ハ必ズ其不正ヲ咎ムベシ

第三 罪ノ性質ニ由テモ亦神ガ之ヲ罰シ給フノ公義ナルコトヲ知ルベシ抑神ノ律法トハ人類ニ關スル神ノ心意ノ

人心若クハ聖經ニ錄セラレタル者也然リ而シテ此無限公義ナル律法ヲ犯ス之ヲ罪ト云フ也是故ニ罪ハ限ナキ大惡ニシテ限ナキ刑罰ヲ受クベキ者也試ニ思ヘ此世ノ主治者ガ國法ヲ犯ス者アレバ之ヲ罰スルハ何ノ故ゾヤ是惟其罪人ヲ教化セン爲ナル乎果シテ然ラバ人ヲ故殺シタル者モ金一圓ヲ竊盜シタルモノモ同一様ノ刑ニ處スベキ場合アラシ何トナレバ金錢ヲ竊盜スル者ヲ教化スルニハ故殺人ヲ教化スルヨリモ許多ノ日子ヲ要スルコトナキヲ保スベカラズ或ハ惟他人ヲシテ國法ヲ犯ス事無ラシメン爲ナル乎秩序ヲ維持セン爲ナル乎否尙更ニ深重ナル故アル也固ヨリ此等ノ事モ刑罰ノ結果ノ一部分ナリトス然レモ畢竟

スルニ社會ニ此事アルハ國法ヲ犯ス者ハ當ニ刑罰ヲ受クベキ實事アルニ因ル也語ヲ更ヘテ之ヲ言ヘバ罪ヲ罰スルハ即チ公義ナレバ也然レバ天下ノ主治者ガ罪人ヲ罰スルノ公義ナル所以ハ即チ罪人ハ當ニ罰セラレベキ理アレバ也

第四 又罪人ノ上ニ及ブ所ノ罪ノ結果モ無限ナリ夫レ人ハ原ト神ヨリ受タル所ノ神ノ像ヲ失ヒタル耳ナラズ自己ノ事ニ關スル限りハ神ヲ廢シ自ラ其位ニ即テ權ヲ弄セント欲スル者也即チ神ノ大旨ヲ奉セズ自己ノ意ニ任セテ萬事ヲ行ハント欲スル者也罪人ハ一旦正路ヲ失ヒ而シテ増ス邪路ニ迷入スル耳ニシテ自己ノ力ニ由テハ其元ニ還ル

コト能ハザル也其既ニ起程セル方向ヲ自ラ轉ズルコト能ハザル也而シテ此道ハ必ズ終ニ限ナキ神ノ恩寵ヲ離ル、事ト神ガ罪ノ罰トシテ啓示シタル所ノ凡ノ患難トニ達スル也固ヨリ神ハ之ヲ止メ而メキリストノ爲ニ罪人ヲ已ニ歸依セシムルノ權能アリ然レニ縱令之ヲ爲サズトモ神ニ於テ秋毫モ不義ハ之ナキ也

反對說ニ答フ

第一 或ハ曰夫レ神ハ愛ナリ慈悲アリ故ニ縱令人其罪ヲ悔改セズトモ聖經ニ教ユル如ク之ニ無窮ノ罰ヲ加ルコト能ハザル可シト○答テ曰誠ニ神ハ愛ナリ慈悲アルノ神ナリ故ニ神ハ罪人ノ爲ニ救ノ道ヲ立テ而シテ主イエスキリ

ストヲ信シテ救ヲ得ヨト招キ給フ也然レモ人此招ヲ受ザ
ルガ故ニ神其罪ヲ罰セバ如何之ニ因テ神ハ無慈悲ノ神ナ
リト云フベキ乎神ハ不潔ナル者及ビ罪アル者ガ天ノ和平
ヲ妨グ其目前ヲ汚スコトヲ禁ゼリトテ神ハ愛ニ非ズト云
フベキ乎否決シテ然ラザル也神ハ愛ナレバコソ惡人ノ爲
ニ天國ノ門ヲ閉ル也○詩篇百三十六ノ十、十五、十七等ニ曰
神ハバロ及ビ其軍ヲ紅海ニ擲テリ是レ其矜恤永遠ナレバ
也云々

第二 或ハ曰神ハ罪人ヲ罰スト信ズルハ神ノ徳ヲ汚シ神
ヲシテ人ノ父ニモ劣レル者タラシムル也何トナレバ人ノ
父ハ其意ニ循ヒテ我子ノ罪ヲ赦スコトヲ得又現ニ其罪ヲ

赦ス也ト答テ曰慈愛ヲ施スベキ理由アルキニ之ヲ施スハ
乃チ智者ノ所爲也是ノ如ク神モ公義ナル神トシテ其要求
ヲ満足セシムルノ理由アレバ即チ慈悲ヲ施ス也然リ而シ
テ其理由ハ即チ神ノ子イエスキリストノ犠牲ト死ニ於テ
存スル也

加之論者ガ取ル所ノ比例適當セズ何トナレバ人ニ對シテ
犯シタル罪ト神ニ對シテ犯シタル罪トハ同日ノ論ニ非ズ
過失多キ人類ガ他人ノ罪ヲ赦スコトヲ得又之ヲ赦スベキ
道理アルヲ以テ至聖ナル神ノ標準ト爲スベカス
且神ハ常ニ慈悲ヲ施シテ其子輩ノ罪ヲ赦ス也但救主イエ
スキリストヲ信ズルコトニ由テ神ノ家族ニ義子タルノ福

ナ享タルモノニ非ザレハ其子輩ニ非ズ世界ニ二種ノ家族
 アリーハ即チ所謂婦ノ裔即チキリストト凡テ信仰ニ由テ
 キリストニ合シタル者一ハ即チ所謂蛇ノ裔ナリ(創世記三
 ノ十五ヲ見ヨ)是故ニキリストハ不信ノユダヤ人ニ向テ汝
 等ハ已ガ父ナル惡魔ヨリ出ルト告ゲ給ヘリ(約翰八ノ四十
 四)凡テ神ニ服セザル者ハ即チサタンニ服従スル者也(以弗
 二ノ一ヨリ十)神ハ已ノ子輩ニハ慈悲愛憐ヲ加ヘ其罪ヲ赦
 スト雖モ已ニ從フ事ヲ拒ミ又キリストヲ信ズルコトヲ拒
 ム者ハ之ヲ赦シ給ハザル也此輩ハ遂ニ神ノ公義ニ由テ罰
 セラレザルヲ得ザル者也
 神學者ハ此教理ノ甚ダ緊要ナルヲ感ズ蓋此教理ハ能ク人

ヲシテ神ヲ畏ル、心ヲ起サシメ以テ人ノ罪ヲ制シ且人ヲ
 シテ増ス神ヲ篤信セシムル也何トナレバ神ガキリストノ
 贖罪ヲ受ル者ヲ赦シ給フハ即チ其永遠完全ノ公義ニ基ケ
 バ也

第七章 神ノ善

夫レ神ハ自ラ限ナク成全ナル者ニシテ凡テ其受造物トノ
 關係ニ於テ亦限ナク善ナル者也且神ハ凡テ智慧アル受造
 物ノ最モ愛スベキ者ニシテ又凡テ彼等ガ有スル所ノ善ノ
 本源ナリ○詩篇百十九ノ六十八ニ曰汝ハ善シ又善ヲ行ヒ
 給フ○路加十八ノ十九ニ曰イエス彼ニ曰ケルハ何ゾ我ヲ
 善シト曰フヤ一ノ外ニ善者ハナシ即チ神也

神ハ凡テ智慧アル者ノ最モ愛スベキ者也神ハ己ヲ愛ス又
 凡テ智慧アル受造物モ之ヲ愛スベキ也
 第一 神ハ己ヲ愛ス何トナレバ神ハ萬有ノ最善者ニシテ
 又最大無上ノ智慧ヲ有スレバ也然レモ神ガ己ヲ愛スルト
 人ガ己ヲ愛スルトハ大ニ相異ナルコトヲ忘ルベカラズ蓋
 人ハ成全ナル者ニ非ズ人ガ己ヲ愛スルハ不成全ナル者ヲ
 愛スル也故ニ其愛ニ於テ善ナラザル所ノ者アリ隨テ其形
 ニ顯ハル、ヤ或ハ私慾トナリ或ハ他ニ對シテ有害ノ情ト
 ナルコトアリ然レドモ神ガ己ヲ愛スルハ萬有ノ最善者即
 チ無限成全ナル者ヲ愛スル也是故ニ此愛ノ顯ハル、ヤ必
 義且善ニシテ其受造物ニ對シテハ仁愛ノ行爲トナル也神

ガ己ヲ愛スルハ即チ至聖至義ナル者ヲ愛スル也神ハ己ヨ
 リ高キ者ヲ愛スルコト能ハズ何トナレバ神ヨリ高キ者ナ
 ケレバ也神ハ乃チ天地ノ主宰也故ニ凡テ智慧アル受造物
 ガ己ヲ崇拜スルコトヲ要メ且他者ヲ崇拜スルコトヲ禁ゼザ
 ルヲ得ザル也聖經ニエホバハ嫉妬ム神ナリトアルハ即チ
 此謂也○出埃及記三十四ノ十四ニ曰ク汝ハ他ノ神ヲ拜ム
 ベカラズソハエホバハ其名ヲ嫉妬ト言テ嫉妬ム神ナレバ
 也○以賽亞四十二ノ八ニ曰我ハ乃チエホバ、エホバハ乃チ
 我名也我榮ハ我必ズ之ヲ他人ニ付セズ我ノ頌美ハ我必ズ
 之ヲ彫刻ノ偶像ニ付セズ
 第二 凡テ智慧アル受造物ハ之ヲ愛スベキ也○馬太二十

二ノ三十七ヨリ四十ニ曰イエス答ケルハ汝心ヲ盡シ精神
 ヲ盡シ意ヲ盡シ主ナル汝ノ神ヲ愛スベシ是レ第一ニシテ
 大ナル誠ナリ第二モ亦之ニ同シ已ノ如ク汝ノ隣ヲ愛スベ
 シ凡テ律法ト預言者ハ此二ノ誠ニ因レリ
 其一 神ハ其受造物ノ有スル萬善ノ本源ナリ○出埃及記
 三十四ノ六ニ曰エホバモ―セノ前ヲ過テ宣給ハクエホバ
 エホバ慈悲アリ鴻恩アリ怒ル事ノ遅ク恩惠ト眞實ノ大ナ
 ル神ト
 其二 神ハ其善ヲ其子輩ニ顯ハス○詩篇三十一ノ十九ニ
 曰汝ヲ畏ル、者ノ爲ニ汝ガ備ヘ又汝ニ頼ムノ者ノ爲ニ人
 ノ嗣ノ前ニ汝ガ爲シ給ル汝ノ善ハ如何ニ大ナル哉○詩篇

八十四ノ十一ニ曰エホバハ恩ト榮ヲ與ヘン正キニ歩ム者
 ニハ善ヲ拒ムマシ○馬太七ノ十一ニ曰然ラバ汝惡キ者ナ
 ガラ善賜ヲ其子ニ與フルヲ知ルマシテ天ニ在ス汝等ノ父
 ハ求ル者ニ善物ヲ與ヘザランヤ○羅馬八ノ三十二ニ曰已
 ノ子ヲ惜マズシテ我儕衆ノ爲ニ之ヲ付セル者ハ豈彼ニ從
 テ萬物ヲモ我儕ニ賜ハザランヤ○第一約翰三ノ一ニ曰汝
 見ヨ我儕稱ヘラレテ神ノ子タル事ヲ得是レ父ノ我儕ニ賜
 フ何等ノ愛ツ
 其三 神ハ不義者ニモ其善ヲ施ス○馬太五ノ四十五ニ曰
 夫レ天ノ父ハ其日ヲ善者ニモ惡キ者ニモ照シ雨ヲ義キ者
 ニモ義シカラザル者ニモ降シ給ヘリ○路加六ノ三十五ニ

曰夫レ高キ者ハ恩ヲ忘ル、者及ビ惡者ニマデ慈愛ヲ施セ
バ也

其四 神ノ善ハ其罪人ヲ救フ事ヲ好ムニ由テ顯ハル○詩
篇八十六ノ五ニ曰主ヨ汝ハ善且恕ナリ凡テ汝ヲ呼フ所ノ
者ニハ豐カニ恩ヲ施シ給リ○羅馬二ノ四ニ曰汝神ノ豐厚
ナル仁愛ト寛容ナルト忍ビ給フヲ藐視スル乎其仁慈ハ汝
ヲ悔改ニ導クナルヲ知ザル乎

其五 神ノ善ハ特ニ其子ヲ世ニ遣シタル事ニ由テ顯ハル
○第一約翰四ノ九ト十ニ曰神ハ其生ミ給ヘル獨子ヲ世ニ
遣シ我儕ヲシテ彼ニ由テ生ヲ得セシム是ニ由テ神ノ愛我
儕ニ顯ハレタリ我儕神ヲ愛スルニ非ズ神我儕ヲ愛シ我儕

ノ罪ノ爲ニ其子ヲ遣シテ挽回ノ祭物トセリ是レ即チ愛也
此等ノ本文ニ於テハ有罪且患難ナル者ニ施サル、神ノ善
ハ之ヲ矜恤ト稱シ叛逆者ニ對スル時ニハ之ヲ耐忍ト稱シ
之ヲ受ル功ナキ者ニ施サル、時ハ之ヲ恩惠ト稱ス或ハ亦
之ヲ慈悲ト稱ス故ニ凡テ之ヲ受ル所ノ者ノ情態ト需用ト
ニ依テ其名稱同シカラズ○詩篇三十三ノ五ニ曰地ハ普ク
エホバノ慈悲ニ充サル○同百四十五ノ九ニ曰エホバハ凡
ノ者ニ向テ善クス又其矜恤ハ其凡ノ所ニ上レリ
第三 縱令聖經ニ由ラズトモ以テ神ノ善ヲ證スベキ者一
ニシテ足ラズ
其一 神ノ善ト愛トハ創造ノ行爲ニ於テ顯ハル蓋神ガ宇

宙ヲ創造シタルハ旨意アリテ之ヲ爲シタルナリ若シ旨意
 ナシト言ハ、是レ神ヲ愚者トナス也何トナレバ智者ノ大
 事ヲ爲スヤ必ズ先ヅ意ニ決シテ而シテ後ニ之ヲ爲セバ也
 然リ而シテ其旨意タルヤ利己ノ心ニ出デザルコト明白ナ
 リ何トナレバ神ハ無限成全ナル者ナレバ自ラ不足スル所
 ナシ神ハ一物ヲ造ラズトモ無限無窮ニ樂ムコトヲ得ル也
 然レモ若シ其旨意ハ利己心ニ出ズトセバ利他ノ心ニ出ザ
 ルヲ得ズ是レ即チ我儕ガ宇内萬物ニ於テ其慈善ノ徵證ヲ
 見ル所以ナリ
 其二 神ノ善ハ亦其我儕人類ニ快樂ヲ與ヘ且我儕ノ需用
 ヲ供給セン爲ニ設ケタル所ノ者ニ於テ顯ハル、ナリ蓋耳

目ヲ始メ凡テ人ノ官能ハ即チ快樂ノ通路ナリ思想ノ才力
 モ亦然リ而シテ神ハ凡テ此等ノ爲ニ無數ノ物體ヲ造リ之ニ
 就テ其官能及ビ才力ヲ用ヒテ以テ快樂ト利益ヲ得セシメ
 給フ也
 其三 神ノ人類ヲ造ルヤ之ニ賦スルニ愛情ヲ以テセリ而
 シテ人ハ此愛情ニ於テ無上ノ歡樂ヲ覺ユル耳ナラズ又人
 生最大ノ一須要ヲ満足セシムル也此事タルヤ特ニ人類ニ
 止ラズ禽獸ノ如キモ亦愛ニ於テ歡樂ヲ覺ユル者也蓋何ノ
 動物モ其子ヲ愛セザルハナク又獸類中ニハ其飼主ヲ愛ス
 ル者少シトセズ夫レ愛ハ凡テ智慧アル者ノ天性ナリ然レ
 凡人ニ於テハ是レ惟其天性ナル耳ナラズ其智慧ニ由テ能

ク制止誘導スベキ所ノ能力ナリ故ニ罪アル人ガ福音ノ道ヲ聽且之ヲ信シ而シテ神ノ慈愛ヲ感ズル時ハ更ニ其神ト人トヲ愛スルノ能力ヲ増進スルナリ若シ受造物ニ於テ此ノ如キ善ノ徵證アラバ是レ即チ造物主ノ善ナル證據ニ非ズシテ何ゾヤ

其四 天地萬物ノ靈妙ナル措置配合モ亦已ニ論シタル如ク神ノ大智ノ徵證ナル耳ナラズ其善ノ徵證ナリトス但此事ハ此ニ其例ヲ舉ルニ及ハザルベシ人自カラ之ヲ起憶スベシ凡ソ神ノ存在ノ證據トナル者ハ皆幾分カ其善ノ證據トナル也

其五 我儕ノ受クベキ所ノ患難モ吾ガ惡ヲ制スル限ハ神

ノ善ノ證據也

其六 凡テ此等ノ事ノミナラズ己ノ子ヲ降シテ救主トナシ以テ人ヲ凡ノ患難罪惡ヨリ救ヒ出スノ道ヲ開キ且其聖靈ヲ降シテ以テ人ノ心ニ寄り之ヲ教ヘ之ヲ慰メ而ソ遂ニ天ニ於テ已ト偕ニ永存セシムルノ備ヲ爲シタルハ即チ神ノ善ナル證據ナリ余ガ此ニ之ヲ舉ル所以ハ惟其聖經ニ啓示セラレタルガ故ニ非ズ億兆人民ノ實驗シタル所ナルガ故ナリ人ハ聖徳ニ進ムニ隨ヒテ愈神ノ善ナルコトヲ實驗覺知スル也是レ即チ世界ノ歴史ニ著名ナル實事ニシテ宜ク神ノ善ナル一證ト爲スベキ也

論者或ハ曰ン神ハ世界ニ罪惡患難アルヲ禁ゼズ故ニ善ナ

ルコト能ハズト神ノ聖ニ對シテモ之ニ等シキ議論アリ我
 儕ハ神ノ聖ヲ論ズル時ニ既ニ其議論ニ答ヘタリ然レモ彼
 處及ビ有神論ニ於テ辨シタル事ノ外ニ尙此一事ヲ加フベ
 シ神ハ始祖原罪ノ後直ニ其罪ヲ制止シ且ツ之ニ救主降世
 ノ約束ヲ爲シテ其善ヲ人ニ顯ハセリ而シテ數千年來凡テ
 イエスキリストノ贖罪ニ由テ神ヲ信シタル者ハ悉ク之ヲ
 救ヒタリ

固ヨリ廣キ宇内ニハ信者モ未ダ善トシテ悟リ難キ事ナキ
 ヲ保スベカラズ然レモ信者ハ將來必ズ其善ノ明白ナラン
 事ヲ信ズ不信者ガ惟黑暗ヲ見ル所ニモ信者ハ神ノ約束ア
 ルガ故ニ能ク光明ヲ見ルコトヲ得ル也

第八章 神ノ眞實

神ノ眞實トハ即チ其ノ眞ヲ愛シ僞ヲ惡ミ給フノ性ヲ云フ
 也○箴言十二ノ二十二ニ曰「謊ル唇ハエホバニ惡マレ眞ヲ
 行フ者ハ彼ニ悅バル○箴言十九ノ九ニ曰「妄ノ證者ハ罰ヲ
 免レズ謊リヲ吐ク者ハ滅ブベシ（黙示二十一ノ八參考）

第一 聖經ハ神ハ常ニ眞實ニシテ變ルコトナシト明言ス
 ○民數記二十三ノ十九ニ曰「神ハ謊アル人ニ非ズ神ハ悔ア
 ル人ノ子ニ非ズ其己ニ言シ者行ハレザルアラン乎其己ニ
 語リシ者應ゼザルアラン乎○詩篇百十九ノ九十ニ曰「汝ノ
 眞實ハ世々ニ存ス○同百十九ノ百六十二ニ曰「汝ノ言ハ原ヨ
 リ眞ナリ凡テ汝ノ義キ鞫ハ永遠ニ至ラン○後提摩二ノ十

三ニ曰我儕信ゼズトモ彼ハ誠ナリ彼ハ已ニ違フコト能ハザル也

第二 神ノ言ハ眞實ナリ○詩篇百十九ノ百三十八ニ曰汝最モ正シキ誠ヲ以テ證詞ヲ命ジ給ヘリ○同百十九ノ百四十二ニ曰汝ノ法ハ眞ナリ○以賽亞二十五ノ一ニ曰汝ガ古ヨリノ議ハ乃チ眞乃チ誠ナリ

第三 神ノ眞實ナルコトハ其日々人ニ物ヲ賜ハルコトニ由テ明カ也○詩篇十九ノ二ニ曰此日語ヲ彼ノ日ニ布キ此夜語ヲ彼夜ニ施ス○哀歌三ノ廿三ニ曰矜憫日新誠實無涯
第四 神ハ眞理ヲ以テ信者ヲ潔ルノ具ト定メタリ○約翰十七ノ十七ニ曰汝ノ眞實ヲ以テ彼等ヲ潔メ給ヘ○後提摩

三ノ十六十七ニ曰聖書ハ皆神ノ默示ニシテ教誨ト督責又人ヲシテ道ニ歸セシメ又義シキヲ學ハシムルニ益アリ是レ神ノ人ノ完全ヲ得テ諸ノ善事ヲ行フニ缺ナカラシムル爲ナリ(詩篇百十九參考)

第五 神ノ眞實ハ其人民ノ患難ニ於テモ顯ハル○詩篇百十九ノ六十七ニ曰我苦メル前ニ迷タリ然レド今我汝ノ言ヲ守ル○同百十九ノ七十五ニ曰エホバヨ我汝ノ鞠ハ義キコトヲ知ル汝眞實ヲ以テ我ヲ苦メタリ○希伯十二ノ六ニ曰ソハ主ハ其愛スル者ヲ懲ラシメ又凡テ其納ル所ノ子ヲ鞭テリ

第六 神ノ眞實ハ殊ニ其人民ト結ベル約束ヲ必ズ成就ス

ルコトニ由テ顯ハル○復傳七ノ九ニ曰汝當ニ知ルベシ汝ノ神エホバハ乃チ神ナリ眞實ノ神ナリ之ヲ愛シ而シテ其誠ヲ守ル者ノ爲ニハ必ズ約ヲ踐ミ矜恤ヲ施シ千代ニ至ル也○後哥林一ノ二十ニ曰凡テ神ノ約束ハ彼ノ中ニ是トナリ又彼ノ中ニア―メントナリ我儕ニ由テ神ノ榮ノ顯ハル、ニ及ブ○希伯六ノ十七、十八ニ曰然レバ神ハ約束ヲ嗣者ニ其旨ノ易ハラザルヲ愈表ハサントシテ約束ノ上ニ亦誓ヲ立給ヘリ神ノ謊ルコト能ハザル此二ノ易ナキ事(即チ約束ト誓ヲ指ス)ハ前ニ立ツ所ノ望ヲ執ラントテ怒ヲ避タル我儕ヲ慰メン爲ナリ

上ニ舉タル如ク聖經ニ明言スル所ノ神ノ眞實ハ凡テ其他

ノ性徳ニ由テ證ス可シ此眞實ハ神ノ性徳ノ成全ニ須臾モ欠ク可ラザレバナリ譬ヘバ神ノ知識ハ眞ナリ即チ其知識ハ一切萬物ニ通達シテ毫モ誤謬ナシ其智慧ハ眞ナリ何トナレバ其智慧ハ無限ニ成全眞實ナル知識ニ本ケバ也其公義仁惠モ亦然リ何トナレバ此等ハ人ノ公義仁惠ヲ壞ル所ノ過失ニ由リ感染セラル、コト更ニアラザレバ也

凡テ神ハ自ラニ關スル事ニ於テモ其受造物ニ關スル事ニ於テモ全ク眞ナリ神ハ惟眞ナル者ナル耳ナラズ乃チ眞自ラナリキリスト曰我ハ眞ナリト(約翰十六ノ六)

神ノ眞實ハ亦人ノ通情ニ由テ證スベシ夫レ人ハ自然ニ人ハ互ニ眞實ナルベキ者ト思想スル也而シテ若シ其眞實ヲ欠

ク者アレバ直ニ之ヲ不正ト爲スハ人ノ通情也若シ人々相互ニ人ノ眞實ヲ信用スルニ非ザレバ人間社會ハ一日モ維持スルコト能ハザルベシ然ラバ則チ是ノ如キ性情ノ本原タル者ハ理ニ於テ自ラ眞實ナラザルヲ得ザル也蓋此教理ハ我儕ガ神ト人トヲ信シ又自然ノ法ヲ信ズルノ基礎ナレバ甚タ重要ノ教理ナリ神ニシテ不信不正ナラバ宇宙ハ恐懼ト疑惑ヲ以テ充滿スベシ然レモ亦此ニ反對説アリ今之ヲ辨ゼン第一論者或ハ曰神ハ昔時必ズ罰ヲ加ヘント威嚇シ而シテ遂ニ威嚇ヲ實踐セザルコトアリ譬ヘバ約拿三ノ四ニ曰乃チ呼テ曰猶四十日ヲ待タバニ子ベハ必ズ傾圮セシト同

十節ニ曰是ニ於テ神其行爲ヲ監ミ其轉ジテ惡途ヲ離レタルヲ知り而シテ將ニ彼等ニ災ヲ降サント言ヒシコトヲ自ラ悔イテ遂ニ之ヲ降サズト答テ曰神ノ約束或ハ威嚇ニシテ將來人類ノ所爲ニ關セザル者ハ必ズ其言ノ如ク應ズル也然レモ神ノ約束威嚇ハ大抵人ノ順逆ニ循テ實踐セララル者也或時ハ明白ニ其意ヲ顯ハシ或時ハ惟暗ニ其意ヲ含ムコトアリ即チ此ニ子バ滅亡ノ威嚇ノ如シ若シ其悔ルト悔ザルトニ拘ラズシテ之ヲ滅スノ意ナラバ何ゾ之ニ預言者ヨナヲ遣スヲ用ヒンヤ神ハ自ラ其規矩ヲ明言セリ(耶利米十八ノ七八)曰我ハ急ニ民或ハ國ヲ拔クベシ敗ルベシ滅スベシト言フコトアランニ若シ我ガ言シ所ノ國其惡ヲ離レナ

パ我之ニ災ヲ降サント思シコトヲ悔ント
 第二 論者又曰神ハ偽ノ預言者ガ世人ヲ惑スコトヲ禁ゼ
 ザルハ如何譬ヘバ謊ル靈ガアハブ王ノ預言者ニ偽ノ預言
 ヲ爲サシメテ王ヲ欺クヲ禁ゼザリシガ如シ答テ曰神ハ時
 アリテ惡人ヨリ之ヲ管束スル所ノ恩惠ヲ奪ヒ以テ其惡事
 ヲ行フニ任スルコトアリ是レ惟彼等ノ意ニ任セテ行ハシ
 ムル耳故ニ聖經ニモ神ハ黑暗ヲ造ルト云ヘリ然レモ是レ
 惟其光明ヲ取去ルノミ又其感能ヲ取去ルキハ神ハ人ノ心
 ヲ剛愎ニスト云ヒ又人ガ己ノ邪欲ニ由テ心ヲ朦マスルニ
 任スルキハ神人ヲ惑スト云ヘリ是ノ如ク必ズ惡ヲ行ハシ
 ト決シタル惡魔ニ向ヒテハ行キテ汝ノ意ヲ遂ゲヨト命ズ

ル也然レモ此ニ我儕ノ大ニ注意スベキ一事アリ即チ謊ル
 靈ガアハブ王ノ預言者ヲシテ偽ノ預言ヲ爲スヲ禁ゼザル
 キニモ神ハ己レノ預言者ヲ遣シテ王ノ預言者ノ預言スル
 所ハ偽ナレバ之ニ從フベカラズト告ゲシメタル事是也
 第三 論者又曰神ハ凡人ヲ招キテキリストヲ信シ而シテ
 救ハルベシト云フ然レモ悉ク之ヲ救フハ其旨意ニ非ルハ
 如何其レ然リ然レモ神ハ全ク誠實ナリ夫レ神ハ其救ヲ求
 ルト求メザルトニ拘ラズ強テ凡ノ罪人ヲ救フノ義務ナキ
 ナリ神ハ誰ニテモ若シ救ハレント欲セバ則チ救ヲ得ルノ
 道ヲ立テ眞實ニ凡ノ人ニ來リテ救ヲ得ヨト命ズル也而シテ
 罪人自ラノ不願ノ外ニハ一トシテ其命ニ從フコトヲ妨ル者

アラザル也其罪ヲ悔改シ且福音ヲ信ズル者ニハ神ノ救ノ
 約束ハ全ク成就シテ其榮光モ亦大ナラン然レモ其罪ヲ悔
 ズ且信セザル者ニハ其刑罰ノ威嚇全ク成就シテ誤ナキコ
 トト猶救ノ約束ノ違ハザルガ如クナラン
 今此議論ノ結局ニ臨ミテ我儕ハ宜ク始ニ述タル所ヲ記臆
 スベシ夫レ我儕ハ今神ヲ周知スル事能ハズ然ト雖モ我儕
 ノ得テ知ルベキ所モ亦多シトス我儕ハ已ニ神ハ獨一無二
 ナル事、全靈無質ナル事、無所不在ナル事、無始無終、絶對成全
 獨立自主萬古不易ナル事ヲ知レリ又神ハ全知全能ニシテ
 天地萬物ノ主宰タル事又其聖、義、善、眞皆共ニ無限無窮ナル
 事ヲ知レリ此等ノ性徳ハ如何ニ大且美ナルヤ我儕ハ今之

ヲ全ク悟ルコト能ハズ何トナレバ我心荏弱ニシテ此等ノ思
 想ヲ包括スルコト能ハザレバ也然レモ此等ノ性徳ニハ一
 切ノ欠ナクシテ無限成全ナルコトヲ知ル也我儕若シ年月
 ヲ累ルニ隨テ聖善ノ道ニ進マバ神性ノ榮光ヲ見ルコト愈多
 カラン今ハ惟其一分ヲ知ルノミ然リト雖モ他日必ズ之ヲ
 通曉スルノ時アル可シ○前哥林十三ノ十二ニ曰我儕今鏡
 ヲ以テ見ル如ク見ル所昏然ナリ然ト彼ノ時ニハ面ヲ對セ
 テ相見シ我今知ル所全カラズ然レト彼ノ時ニハ我ガ知ラ
 ル、如ク我知ラン○第一約翰三ノ二ニ曰愛スル者ヨ我儕
 今神ノ子タリ後如何未ダ露ハレズ其現レン時ニハ必ズ神
 ニ肖ンコトヲ知ルソハ我儕其眞狀ヲ見ルベケレバ也

是故ニ余ハ今使徒ユダガ其簡短ナル書信ヲ畢タル語ヲ借
リテ以テ此論ヲ畢ラントス其語ニ曰我儕ノ救主ナル獨一
ノ神即チ汝等ヲシテ躓カセシト保リ汝等ヲシテ汚ナク歡
ビテ其榮光ノ前ニ立ツコトヲ得セシムル者ハ世ノ始ノ前
ヨリ今又後モ世々永遠我儕ノ主イエスキリストニ由テ榮
ト威光ト大能ト權ヲ有チ給フ也アーメン

...

第三篇上 神ノ存在ノ有様ヲ論ズ

我儕ハ既ニ聖經及ビ人間固有ノ理性ニ由テ惟一ノ神アル
事ヲ知り且其性徳如何ヲ知レリ然レバ是ヨリ其存在ノ有
様ヲ考究スベシ而シテ進ムニ隨ツテ縱令我儕ハ全ク神ノ存
在ノ有様ヲ理會スル事能ハザルモ此事ニ就テ聖經ニ啓示
セラレタル所ハ即チ神ガ永遠ヨリ永遠ニ至ル迄能ク其性
徳ヲ具有シ且之ヲ使用シ給フ所以ヲ解明スルニ足レル事
並ニ神ノ存在ノ此不思議ナル有様ハ天地ノ實事及ビ人ノ
理性ト相合スル事ヲ發明ス可シ
聖經ノ教ニ依レバ此惟一不易ノ神ハ三「ベルソナ」即チ三ノ
殊別ナル行爲者トシテ存在スル也之ヲ名ケテ父ト子ト聖

靈ト云フ父モ神子モ神聖靈モ神也然レモ三神アルニ非ズ
 惟一ノ神アル耳ウ非ストミンステル略問答ニハ神ニ三ア
 リ即チ父ト子ト聖靈是也此三ハ其本質同シク其能モ榮モ
 均シクシテ惟一ノ神ナリトアリ父ト子ト聖靈ハ同「ベルソ
 ナ」ヲ指ス所ノ三ノ異名ニ非ズ惟一無形ナル神體中ニアル
 所ノ三「ベルソナ」ノ殊別ナル存在ノ有様ヲ指ス也此區別ハ
 神ノ成全ニ關スル者ニ非ズ何トナレバ此三者ハ同一體チ
 レバ也又其存在シ始メタル時ニ關スル區別ニ非ズ何トナ
 レバ子モ聖靈モ父ト偕ニ無始ヨリ存在スル者ナレバ也又
 其威光ニ關スル區別ニモ非ズ何トナレバ此三者ハ其尊威
 榮光ニ於テ差別ナケレバ也惟其存在ノ有様ニ關スル區別

ナル耳此三「ベルソナ」ハ各自ノ意識アリ特別ノ性質アリ然
 リ而シテ之ニ由テ此「ベルソナ」ノ區別アル也果シテ然ラズ
 ンバ此區別ハ有名無實ノ區別ト云フベキ耳加之ナラズ聖
 經ノ教ニ依レバ此三「ベルソナ」ハ贖世ノ方略ニ於テ各自特
 別ノ行爲アル也故ニ人此教理ヲ知ラザレバ贖世ノ方略ヲ
 悟ルコト能ハザル也
 我儕ハ先ヅ第一ニ此事ニ關スル聖經ノ教ヲ明示シ然ル後
 ニ我儕ノ所論ヲ彰明確定スベキ所ノ事ヲ考察スベシ
 聖經ノ教ヲ明示スルニハ左ノ如ク之ヲ排列スベシ
 第一 聖經ハ惟神ニ「ベルソナ」以上アル事ヲ教フル耳ナ
 ラズ即チ三「ベルソナ」アル事ヲ教フ

第二 聖經ハ神ノ子イエスキリストハ一個ノ殊別ナル「ペ
ルソナ」ニシテ而モ眞ニ神タル事ヲ教フ

第三 聖經ハ聖靈ハ一個ノ殊別ナル「ペルソナ」ニシテ而モ
眞ニ神タル事ヲ教フ

第四 聖經ハ此ノ「三」ペルソナノ性質及ビ相互ノ關係ヲ教
フ

第一章 聖經ハ惟神ニ「一」ペルソナ以上アル事ヲ
教フル耳ナラズ即チ「三」ペルソナアル事ヲ教フ

我儕ハ先ヅ舊約書ノ本文ヲ引キ然ル後ニ新約書ノ本文ヲ
引カン

第一 舊約書ノ本文

舊約書ニ於テハ「三」ペルソナノ教ハ新約ニ於ケル如ク甚々
明白ナラズ然レモ當時ノ信徒モ幾分カ此教ヲ知リシ事明
白也蓋舊約書ノ旨意ハ「ミツシヤ」ト其人民ニ係ハル約束ヲ
示シ且「ミツシヤ」ノ降臨ト神ノ約束ノ成就トニ關スル事件
ヲ録スニ在レバ也

一 へブライ語ニ於テ神ノ名ヲ複數ニ記シタル本文アリ
創世記一ノ「エロヒム」同十七ノ「シヤダイ」同十五ノ「ア
ドナイ」等は也

二 神モ自ラ已チ一ヨリ多クノ者トシテ語給フ所ノ本文
アリ○創世一ノ二十六ニ曰我儕ニ象リ我儕ノ像ノ如クニ
人ヲ作ラン○創世記三ノ二十二ニ曰エホバ神曰給ヒケル

ハ視ヨ夫ノ人我。儕ノ一ノ如クナリテ善惡ヲ知ル。○創世記
 十一ノ七ニ曰イザ我。儕降テ彼處ニ彼等ノ言語ヲ淆シ互ニ
 言語ヲ通スルコトヲ得ザラシメント人或ハ曰是レ惟神ガ
 天使ト相謀リタル耳ト然レモ天使ハ神ヨリ劣レルコト限
 ナキ者ナレバ此ノ如キ事アリトハ思ハレズ實ニ聖經ニ於
 テ其然ラザル明文アリ。○以賽亞四ノ十四ニ曰彼ハ嘗テ誰
 ト相謀リシ乎誰カ曾テ彼ニ誨シ乎或ハ之ニ教フルニ義鞠
 ノ徑ヲ以テシ或ハ之ニ訓フルニ知識ヲ以テシ或ハ之ニ示
 スニ明哲ノ道ヲ以テセシ乎ト
 三 神ノ名ヲ反覆シ而シテ之テ區別スル處アリ例ヘバ○
 詩篇四十五ノ七ニ曰汝義ヲ好デ惡ヲ惡ム故ニ神即チ汝ノ

神ハ汝ニ膏スルニ歡樂ノ膏ヲ以テシ汝ノ伴侶ニ勝レリ。○
 詩篇百十ノ一ニ曰エホバ我主ニ謂テ曰云々

四 子ト聖靈ノ名ヲ明白ニ舉タル所アリ。○詩篇二ノ七ニ
 曰我必ズ其命ヲ宣ベンエホバ曾テ我ニ諭シテ曰汝ハ即チ
 我が子ナリ我今日汝ヲ生メリ。○以賽亞四十八ノ十六ニ曰
 汝等宜ク我ニ就テ之ヲ聽ケ我ハ始ヨリ以來隱ニ語リタル
 コトナシ其事始メテ之アルノ時我已ニ在リ今主エホバト
 其靈我ヲ遣ハセリ。○箴言三十ノ四及ビ以賽亞六十一ノ一
 参考

五 三ベルソナヲ明白ニ區別シ或ハ之ヲ明白ニ神トシテ
 云フ所アリ。○民數記六ノ二十四ヨリ二十六ニ曰願クハエ

ホバ汝ヲ祝福シ汝ヲ保佑セヨ願クハエホバ其面ノ光ヲ以テ汝ヲ照シ恩ヲ以テ汝ニ施セヨ願クハエホバ面ヲ舉テ汝ニ向ヒ汝ニ平康ヲ賜ヘ○以賽亞四十八ノ十六ニ曰汝等宜ク我ニ就テ之ヲ聽ケ我ハ始ヨリ以來隱ニ語りタルコトナシ其事始メテ之アルノ時我已ニ在リ今主エホバト其靈我ヲ遣ハセリト

第二 新約書ノ明文

新約書ニ於テハ三聖「ペルソナ」ヲ指シテ各神ト稱セリ實ニ贖罪ノ教ハ全ク此眞理ニ倚リテ立ツ者也

一 「三」ペルソナ「ヲ皆共ニ舉ケタル本文○馬太三ノ十六、十七ニ曰イエスバプテスマヲ受テ水ヨリ上ル時天忽チ之ガ

爲ニ開ケ神ノ靈鶴ノ如ク降テ其上ニ來ルヲ見ル又天ヨリ聲アリテ此ハ我心ニ適フ我ガ愛子ナリト云ヘリ之ヲ觀ルニ父ノ神ハ天ヨリ語り肉ト成リタル子ノ神ハバプテスマヲ受ケ聖靈ノ神ハ鶴ノ如ク子ノ上ニ降り給ヒシナリ○馬太二十八ノ十九ニ曰是故ニ汝等往テ萬國ノ民ニバプテスマヲ施シ之ヲ父ト子ト聖靈ノ名ニ入レテ弟子トセヨ○後哥林十三ノ十四ニ曰願クハ主イエスキリストノ恩ト神ノ愛ト聖靈ノ交際汝等衆ト偕ニナラン事ヲ

第二章 聖經ハ神ノ子イエスキリストハ即チ一個ノ殊別ナル「ペルソナ」ニシテ而モ眞ニ神タル事ヲ教フ

我儕ハ先ヅ第一ニイエスキリストハ神ノ子タル事ヲ論シ
第二ニ其一個ノ殊別ノ「ベルソナ」ナル事ヲ論シ第三ニハ其
神ナル事ヲ論ゼン

第一 イエスキリストハ神ノ子ナリ

父ノ神ハイエスタ己ノ子ト認メ給フ、詩篇二ノ七ニ曰汝
ハ我が子也我今日汝ヲ生メリ○馬太十七ノ五ニ曰此ハ我
心ニ適フ我が愛子ナリ汝等之ニ聽ク可シ

キリストモ又自ラ神ノ子ト稱ス、約翰五ノ十七、十八ニ曰
イエス彼等ニ答ケルハ我が父ハ今ニ至ルマデ働キ給フ我
モ亦働クナリ此ニ因リテユダヤ人愈イエスヲ殺サント謀
ルツハ安息日ヲ犯ス耳ナラズ神ヲ己ガ父ト言ヒ已テ神ト

齊クスレバナリ○約翰十七ノ一ニ曰イエス此言ヲ語畢テ
天ヲ仰キ曰ケルハ父ヨ時至リヌ汝ノ子汝ノ榮ヲ顯サンガ
爲ニ汝ノ子ノ榮ヲ顯ハシ給ヘ
使徒及ビ其他ノ人モ亦キリストヲ神ノ子ト呼ベリ、約翰
二十ノ三十一ニ曰此書ヲ錄セルハ汝等ヲシテイエスノ神
ノ子キリストナル事ヲ信シ其名ニ因テ生命ヲ得サセンガ
爲ナリ○加拉太四ノ四ニ曰然レ期己ニ至ルニ及ンデ神其
子ヲ遣ハシ給ヘリ彼ハ女ヨリ生レ且律法ノ下ニ服シタリ
○希伯來一ノ一、二ニ曰神昔日ハ多クノ別ヲ爲シ多クノ方
ヲ以テ預言者ニヨリ列祖ニ告ゲ給ヒシガ此末日ニハ其子
ニ託シテ我儕ニ告ゲ給ヘリ

キリストハ神ノ愛子。神ノ生ミ給ヘル獨子。神ノ己ノ子ト稱セラル、馬太三ノ十七ニ曰此ハ我が愛子ナリ○哥羅一ノ十三ニ曰彼ハ暗ノ權威ヨリ我儕ヲ救出シテ其愛子ノ國ニ遷シ給ヘリ○約翰三ノ十六ニ曰夫レ神ハ其生ミ給ヘル獨子ヲ賜フ程ニ世ノ人ヲ愛シ給ヘリ○羅馬八ノ三十二ニ曰己ノ子ヲ惜マズシテ我儕衆ノ爲ニ之ヲ付セル者ハ豈彼ニ添テ萬物ヲモ我儕ニ賜ハザラン乎

キリストハ天地創造ノ先ヨリ既ニ神ノ子タリ、約翰十七ノ五ニ曰父ヨ今我ヲシテ汝ト偕ニ榮ヲ得サセ給ヘ即チ世ノ元始ヨリ先ニ汝ト偕ニ有シ所ノ榮ヲ得サセ給ヘ○希伯來一ノ二ニ曰且彼ヲ立テ諸ノ世界ヲ造リタリ

反對說ニ答フ

其一 或人ハ路加傳一ノ三十五ヲ引テキリストガ神ノ子ト稱セラル、ハ惟其受胎ノ奇跡ニ屬スルガ故ナリト云フ其本文ニ曰天使答テ曰ケルハ聖靈汝ニ來ル至上者ノ大能汝ヲ蔽ハシ是故ニ汝ガ生ム所ノ者ハ神ノ子ト稱ヘラルベシト然レモ此靈異ナル受胎ハ其ノ神ノ子タル原因ニハ非ズ其徵證ナリ即チキリストハ靈異ニシテ孕マレタルガ故ニ神ノ子ナルニ非ズ神ノ子ナルガ故ニ靈異ニシテ孕マレタル也キリストハ孕マル、ノ其先ヨリ既ニ神ノ子タリシ也

其二 或ハ曰キリストモ一ノ受造物ニ過キズ其說ニ曰キ

リストハ凡ノ受造物中ニ在テ最モ尊ク且勝レタル者ニシ
 テ凡ノ受造物ニ先テ存在セリト雖然レモ一ノ受造物ニシ
 テ神ニハ非ル也ト然レモキリスト自ラ曰我ト父トハ一ナ
 リ(約翰十ノ三十)又曰父ハ自ラ生命ヲ有リ其ノ如ク子ニモ
 賜ヒテ自ラ生命ヲ有シメ給ヘリ(約翰五ノ二十六)然レモ神
 ハ無始ヨリ自ラ生命ヲ有ツ者ナリ然ラバ子モ亦無始ヨリ
 自ラ生命ヲ有ツ也

其三 或ハ曰使徒パウロハキリストノ甦生ニ就テ詩篇二
 ノ七ヲ引用シタリ即チ曰我儕モ嘉ノ音ヲ汝等ニ告グ神ハ
 イエスヲ甦ラセテ先祖等ニ立給ヒシ約束ヲ其子孫タル我
 儕ニ成シ給ヘリ即チ詩ノ第二篇ニ汝ハ我ノ子ナリ我今日

汝ヲ生メリト録サレタルガ如シ(行傳十三ノ三十二、三十三)
 或ハ又曰キリストガ神ノ子ト稱ヘラル、ハ其民ノ祭司長
 ノ職アルニ因ルト此說ヲ稱フル人ハ希伯來五ノ五ヲ引テ
 證據ト爲ス其本文ニ曰此ノ如クキリストモ自ラ尊ビテ祭
 司ノ長トハ爲ラザリキ汝ハ我ガ子ナリ我今日汝ヲ生メリ
 ト言シ者彼ヲ尊ビテ然ナセリト然レモ甦生ハキリストヲ
 神ノ子ト爲サズ又祭司長トモ爲サマリシ也但キリストハ
 神ノ子ナルガ故ニ能ク甦リ又神ノ子ナルガ故ニ其民ノ大
 祭司ト爲タル也約翰傳第十章ヲ觀ルニキリストハ我ハ神
 ノ子ナリト明言シ而シテ其眞實ヲ證サンガ爲ニ己ノ死ト
 甦生ヲ預言シタリ(約翰十ノ十四ヨリ十八參考)又羅馬一ノ

三四ニハ彼ハ肉ニ由レバダビデノ裔ヨリ生レ聖善ノ靈性
 ニ由レバ甦リシ事ニ由ツテ明カニ神ノ子タルコト顯ハレ
 然リトアリ
 第三ニキリストハ一個ノ殊別ナル「ヘルソナ」ナリ
 此事ハ新約書中ニ明白ニ顯ハル、ガ故ニ今更ニ其明文ヲ
 引クニモ及バザルベシ
 第四ニキリストハ己ヲ指シテ常ニ人稱代名詞ヲ用ヒ給フ即チ己
 ヲ指テハ我ト云ヒ父ニ向ヒテハ汝ト云ヒ聖靈ニ就テハ彼
 ト云ヒ自ラト父トヲ指テハ我等ト云給フ(約翰十五ノ二十
 六、十七ノ二十二等參考)
 第五ニキリストハ父ヨリ遣ハサレ給フ也、加拉太四ノ四ニ曰神

其子ヲ遣シ給ヘリ
 キリストハ父ヨリ出テ而シテ復父ニ歸リ給フ也、約翰十六
 ノ二十八ニ曰我父ヨリ出テ世ニ來リ復世ヲ離レテ父ニ往
 カントス
 キリストハ父ヨリ誠ヲ受ケ給フ也、約翰十ノ十八ニ曰我
 ガ父ヨリ此命令ヲ受タリ
 父ヲ愛シ且父ニ愛セラレ給フ也、約翰三ノ三十五ニ曰父
 ハ子ヲ愛シテ萬物ヲ其手ニ授ケタリ○約翰十四ノ三十一
 ニ曰我之ヲ爲スハ我ノ父ヲ愛スル事ヲ世ニ知ラシメン爲
 ナリ
 キリストハ父ニ祈リ給フ、馬太二十六ノ三十九ニ曰少シ

進往ギテ跪伏シ祈リ言ケルハ我父ヨ若シ合ハ、此杯ヲ我ヨリ離チ給ヘ然ト我心ノマ、ヲ爲ナサントスルニ非ズ聖旨ニ任セ給ヘ(約翰十一ノ四十一、四十二並十七章參考)

キリストハ聖靈ヲ其民ニ遣リ給フ、約翰十五ノ二十六ニ曰我慰ル者ヲ父ヨリ遣サン即チ父ヨリ出ル真ノ靈ナリ其來ル時我ガ爲ニ證ヲナスベシ

キリストハ我儕ノ贖主又中保タル事ハ其一個ノ殊別ナル「ベルソナ」タル一證ナリ、加拉太四ノ四五ニ日期己ニ至ルニ及ビテ神其子ヲ遣シ給ヘリコレ律法ノ下ニアル者ヲ贖ヒ我儕ヲシテ子タルコトヲ得セシメンガ爲ナリ○前提摩三ノ五ニ曰夫レ神ハ一也又神ト人トノ間ニ一ノ中保アリ

即チ人ナルイエスキリストナリト夫レ中保タル者ハ其中保ヲ納ル所ノ者トハ殊別ノ「ベルソナ」タラザルヲ得ザル也

第三 キリストハ神ナリ

此眞理ハキリスト教信仰ノ基礎ニシテキリスト教ヤ理ノ生命ナリ新約書中章句トシテ之ヲ明言シ或ハ之ヲ包含セザルナシ然ルニ古ヨリ今ニ至ル迄此眞理ヲ烈シク排撃スル者アリ偕此議論ハ左ノ如ク略述スルヲ得ベシ夫レ神ノ名稱、性徳、行爲及ビ特尊ヲ歸セラル、所ノ者ハ即チ神ナリ然レモ此等ノ者ハ皆キリストニ歸セラル故ニキリストハ即チ神ナリ

一 聖經ハキリストニ神ノ名稱ヲ歸ス、以賽亞九ノ六ニ

曰我儕ノ爲ニ一嬰生レ我儕ノ爲ニ一子賜ハル而シテ政事
ハ其肩ノ負フ所ト爲リ其名稱ハ奇妙ト曰策士ト曰全能ノ
神ト曰永在ノ父ト曰平和ノ君ト曰ハン○約翰一ノ一ニ曰
元始ニ言アリ言ハ父ト惜ニ在リ言ハ即チ神ナリ○行傳二
十ノ二十八ニ曰主ガ已ノ血ヲ以テ買ヒ給ヒシ所ノ教會ヲ
牧フベシ○希伯來一ノ八ニ曰其子ニ曰ケルハ神ヨ汝ノ位
ハ世々ニ及ビ汝ノ國ノ杖ハ正シキ杖ナリ(詩篇四十五ノ六
七、馬拉基三ノ一、前提摩三ノ十六、提多二ノ十三、第一約翰五
ノ二十以下參考)

二 聖經ハキリストニ神ノ性徳ヲ歸ス

永遠無窮、米迦五ノ二ニ曰汝ベツレヘムエフラダヨ汝ハ

ユダヤノ諸邑中ニ在テ小ナル者ナリト雖モ然レモイスラ
エルノ君タラントスル者必ズ汝ノ中ヨリ出テントス其出
ルヤ乃チ往古ヨリ永遠ニ至ルナリ○約翰八ノ五十八ニ曰
イエス彼等ニ曰ケルハ誠ニ誠ニ汝等ニ告ゲン我ハアブラ
ハムノ在ラザル先ヨリ在ル者ナリ

自主獨立、默示錄一ノ八ニ曰主タル神曰給ヘリ我ハ「アル
バ」ナリ「オメガ」ナリ始ナリ終ナリ今アリ昔アリ後アル全能
ノ者ナリ

無限成全、哥羅二ノ九ニ曰夫レ神ノ充足レル徳ハ悉ク形
體ヲナシテキリストニ住リ(約翰十七ノ五、腓立二ノ六參考)
永遠不易、希伯來十三ノ八ニ曰イエスキリストハ昨日モ

今日モ永遠變ルコトナシ(希伯來一ノ十一、十二參考)
 無所不在、馬太十八ノ二十ニ曰我名ノ爲ニ二三人ノ集ル
 處ニハ我モ亦其中ニ在レバ也○馬太二十八ノ二十二ニ曰視
 ヲ我ハ世末マデ常ニ汝曹ト惜ニ在ルナリ
 無所不知、約翰二十一ノ十七ニ曰主知ラザル所ナシ○同
 二ノ二十四、二十五ニ曰イエスハ自己ヲ彼等ニ托セズソハ
 凡ノ人ヲ知ル又人ノ心ノ中ヲ知ルガ故ニ人ニ就テ證ヲ立
 ル者ヲ求メザレハ也
 無所不能、馬太二十八ノ十八ニ曰天ノ中、地ノ上、凡ノ權ヲ
 我ニ賜ハレリ○希伯來一ノ三ニ曰己ノ權威ノ言ヲ以テ萬
 物ヲ扶持チ(腓立三ノ二十一參考)

三 聖經ハキリストニ神ノ行爲ヲ歸ス、約翰五ノ十七、十
 八ニ曰イエス彼等ニ曰ケルハ我父ハ今ニ至マデ働キ給フ
 故ニ我モ亦働クナリ此ニ因テユダヤ人愈イエスヲ殺サン
 ト謀ルソハ安息日ヲ犯スノミナラズ神ヲ已ガ父ト云ヒ已
 ヲ神ト齊シクスレバ也
 萬物創造ノ行爲ヲキリストニ歸ス、約翰一ノ三ニ曰萬物
 之ニ由テ造ラル造ラレタル者一トシテ之ニ由ラデ造ラレ
 シハ無シ○哥羅一ノ十六、十七ニ曰ソハ萬物ハ彼ニ由テ造
 ラレタリ天ニ在ル者地ノ上ニアル者人ノ見ルコトヲ得ル
 者見ルコトヲ得ザル者或ハ位アル者或ハ主タル者或ハ政
 チ執ル者或ハ權威アル者萬物彼ニ由テ造ラレタリ且其造

ラレタルハ彼ガ爲ナリ彼ハ萬物ヨリ先ニアリ萬物彼ニ由
 テ存フコトヲ得ル也(希伯來一ノ三ト十參考)
 保存及ビ保護、約翰十ノ二十八ニ曰我彼等ニ永生ヲ與フ
 彼等何時マデモ亡ビス亦之ヲ我ガ手ヨリ奪フ者ナシ○希
 伯來一ノ三ニ曰其權威ノ言ヲ以テ萬物ヲ扶持チ云々
 奇跡、約翰二ノ十一ニ曰此事ヲイエスガガリヤノカナ
 ニテ爲セルハ休徵ノ始ニシテ其榮ヲ顯セリ○行傳二ノ二十
 二ニ曰ナザレノイエスハ汝等ノ知ル如ク神彼ニ託リテ汝
 等ノ中ニ行ヒシ妙ナル能力ト奇跡ト休徵トヲ以テ汝等ニ
 證シ給ヘル所ノ人ナリ○約翰五ノ廿一ニ曰ソハ父ノ死シ
 者ヲ甦ラセ生シムル如ク子モ己ノ意ニ從ヒテ人ヲ生シム

可シ(馬太四ノ廿四約翰十ノ十七十八腓立三ノ廿一參考)

キリストハ即チ恩惠ノ本源ニシテ又之ヲ人ニ與フキリスト
 ハ預言者ヲ感動シタリ、前彼得一ノ十一ニ曰即チ彼等其
 衷ニ居ルキリストノ靈キリストノ受ケントスル苦難ト其
 後受ケントスル榮光ヲ預メ證シタル此ハ何ノ日如何ナル
 時ヲ示セルト推究タリ

キリストハ聖靈ヲ遣ル、約翰十六ノ十七ニ曰我若シ往カ
 ズバ慰ル者汝等ニ來ラシ若シ往カバ彼ヲ汝等ニ遣ラン
 キリストハ聖禮典ヲ設立ス、馬太二十八ノ十九ニ曰是故
 ニ汝等往キテ萬國ノ民ニ「バプテスマ」ヲ施シ之ヲ父ト子ト
 聖靈ノ名ニ入レテ弟子トセヨ○前哥林十一ノ二十三ヨリ

二十六ニ曰我が汝等ニ傳シハ主ヨリ授ラレタルナリ即チ主イエス賣ラル、夜パンヲ取り祝シテ之ヲ擘キ曰ケルハ取テ食セヨ此ハ汝等ノ爲ニ擘カル、我が體ナリ汝等モ如此行ヒテ我ヲ憶ヘヨ食シテ後又杯ヲ取り前ノ如クシテ曰ケルハ此杯ハ我血ニシテ立ル所ノ新約ナリ汝曹モ如此行ヒテ飲ムゴトニ我ヲ憶ヘヨ汝等此パンヲ食シ此杯ヲ飲ムゴトニ主ノ死ヲ表シテ其來ル時迄ニ及ブナリ

キリストハ靈生永生及ビ聖潔ノ本源也、以弗所二ノ十二日即チ我儕ヲシテ善事ヲ行ハセントテ預メ備ヘ給ヒシ所ナリ○約翰十五ノ五ニ曰我ハ葡萄樹汝等ハ其枝ナリ人若シ我ニ居リ我若シ彼ニ居ラバ多ノ實ヲ結フベシソハ若シ

汝等我ヲ離ル、時ハ何事ヲモ行フ丁能ハザレバ也○約翰十ノ二十八ニ曰汝等ニ永生ヲ與フ○以弗所五ノ二十五ヨリ二十七ニ曰夫タル者ヨキリストノ教會ヲ愛シ其爲ニ己ヲ捨給ヒシ如ク汝等モ妻ヲ愛スベシ彼己ヲ捨テシハ水ノ洗ヲ以テ言ニ由テ教會ヲ潔メ之ヲ靈ナル者トセン爲ナリ又黥汚ナク凡テ此如キ皺ナク聖ニソ瑕ナキ榮ナル教會ヲ自ラ己ノ前ニ立テン爲ナリト、

キリストハ罪ヲ赦ス、馬太九ノ二ニ曰イエス彼等ガ信ズルヲ見テ癱瘋ノ者ニ曰ケルハ子ヨ心安カレ汝ノ罪赦サレタリ(同六節參考)

キリストハ恩惠ト平和ヲ與フ、羅馬一ノ七ニ曰汝等願ク

ハ我儕ノ父ナル神及ビイエスキリストヨリ恩惠ト平康ヲ受ヨ(約翰十四ノ二十七參考)

又キリストハ世界ノ審判者ナリ、約翰五ノ二十二、二十三ニ曰ソハ父ハ誰ヲモ審判セズ審判ハ凡テ子ニ委子タリ是レ凡ノ人ヲシテ父ヲ敬フ如ク子ヲモ敬ハシメンガ爲ナリ
○後哥林五ノ十二曰ソハ我儕必ズ皆キリストノ臺前ニ出テ善ニモアレ惡ニモアレ各身ニ居テ爲シ所ノ事ニ循ヒ其報ヲ受ベキ者ナレバナリ

四 聖經ハキリストヲ神トシテ崇拜スベキ事ヲ教フ、腓立二ノ九ヨリ十一ニ曰是故ニ甚ダシク彼ヲ崇メテ諸ノ名ニ超ル名ヲ之ニ予ヘ給ヘリ此ハ天ニアル者地ニアル者及

ビ地ノ下ニ在ル者ヲシテ悉クイエスノ名ニ由テ膝ヲ屈メシメ且諸ノ舌ヲシテ悉クイエスキリストハ主ナリト言顯ハシテ父ナル神ニ榮ヲ歸セシメン爲ナリ(約翰五ノ二十三、希伯來一ノ六、默示五ノ十一ヨリ十四參考)

キリストハ其人民ノ信仰及ビ冀望ノ目的ナリ、約翰十四ノ一ニ曰汝等神ヲ信シ又我ヲ信ズベシ○前哥林十五ノ十九ニ曰若シキリストニ由レル我儕ノ望惟此世ノミナラバ凡ノ人ノ中ニテ我儕ハ最モ憐ムベキモノナリ

信徒ガ「バプテスマ」ヲ受ル時ハ即チキリストノ名ニ入ラル(馬太二十八ノ十九ヲ見ヨ)

信徒ハ最後ニ臨ミ其靈魂ヲキリストニ委ヌ、行傳七ノ五

十九ニ曰彼等ガ石ヲ以テステバノヲ撃テル時彼祈リテ曰ケルハ主イエスヨ我ガ靈魂ヲ受ケ給ヘ
 前ニモ言シ如クキリストノ神タル事ハ實ニキリスト教ノ基礎タル眞理ナリ若シ聖經ヨリ此眞理ヲ除ケバ罪アル人類ノ救ハルベキ望ハ絶タリト謂フ可シキリスト信徒ノ爲ニハ其造物主ハ即チ贖罪主ニシテ其救主ハ即チ全能ノ神タル事ハ最モ榮アル事ナリトス

第三章 聖經ハ聖靈ハ一個ノ殊別ナル「ベルソナ」ニシテ而モ眞ニ神タル事ヲ教フ

我儕ハ先ヅ第一聖經中ニ用ヒラレタル靈字ノ意義ヲ考究シ第二ニ聖靈ハ一個ノ殊別ナル「ベルソナ」タル事第三ニ聖

靈ハ即チ神タル事ヲ論スベシ

第一 聖經中ニ用ヒラレタル靈字ノ意義

此字ハ素ト風或ハ息氣ノ義ナリ而シテ凡テ無形ノ者見ル可ラザル者ヲ指シテ用ヒタリ

- 一 神ヲ指シテ用ユ、約翰四ノ二十四ニ曰神ハ靈ナリ
- 二 天使ヲ指シテ用ユ、希伯來一ノ七ト十四ニ曰其使者等ヲ風トナシ凡テ天ノ使ハ救ヲ嗣ントスル者ニ事ントスル爲ニ遣ハサル、靈ニ非ズヤ
- 三 人ノ靈魂ヲ指シテ用ユ、傳道書十二ノ七ニ曰而シテ塵ハ必ズ其元屬セシ所ノ土ニ歸リ靈ハ必ズ之ヲ賜ヒシ所ノ神ニ歸ラン○行傳七ノ五十九ニ曰彼等石ヲ以テステバ

ソヲ撃テル時彼祈テ曰ケルハ主イエスヨ我靈魂(即チ靈也)ヲ受ケ給ヘ

四 神ノ三「ヘルソナ」ヲ指シテ之ヲ用ユ、馬太二十八ノ十九ニ曰父ト子ト聖靈ノ名ニ入レテ「バプテスマ」ヲ施シ云ヤ
五 聖靈ノ賜即チ聖靈ガ信徒ノ心ヲ感化スル結果ヲ指シテ之ヲ用ユ、詩篇五十一ノ十一ニ曰聖靈ヲ我ヨリ奪フ莫レ○前帖撒五ノ十九ニ曰靈ヲ熄スコト勿レ

第二 聖靈ハ一個ノ殊別ナル「ヘルソナ」ナリ
聖靈ヲ指シテ人稱代名詞ヲ用ヒ且之ニ種ヤノ行爲ヲ歸ス或ハ之ヲ遣スト云ヒ或ハ人ヲ教フト云ヒ或ハ起憶シムルト云ヒ或ハ留ルト云フ○約翰十四ノ十六十七及ビ二十六

ニ曰我父ニ求メン父必ズ別ニ慰ル者ヲ汝等ニ賜ヒテ窮ナク汝等ト偕ニ在ラシム可シ是ハ即チ眞理ノ靈ナリ世之ヲ受ルコト能ハズソハ之ヲ見ズ且ツ知ラザルニ由ル然レド汝等之ヲ識ルソハ彼等ト偕ニ居リ且汝等ノ衷ニ居レバ也我ガ名ニ託リテ父ノ遣ハサントスル慰ル者即チ聖靈ハ凡ノ事ヲ汝等ニ教ヘ亦我ガ凡テ汝等ニ云ヒシ事ヲ汝等ニ憶起サシムベシ
又聖靈ハ出ルト云ヒ證ヲ立ツト云フ、約翰十五ノ二十六ニ曰我慰ル者ヲ父ヨリ遣ラン即チ父ヨリ出ル眞理ノ靈ナリ其來ル時我ガ爲ニ證ヲ爲スベシ
又聖靈ハ來ルト云ヒ導クト云ヒ聞クト云ヒ語ルト云ヒ崇

ルト云ヒ人ニ罪アル事ヲ悟ラシムト云ヒ父ノ事ヲ人ニ示
 スト云フ、約翰十六ノ八ト十三、十四ニ曰彼來ラン時罪ニ
 付義ニ付審判ニ付世ヲシテ罪アリト悟ラシメン然レド彼
 即チ眞理ノ靈ノ來ラン時汝等ヲ導キテ凡ノ眞理ヲ知ラシ
 ムベシソハ彼已ニ由テ語ルニ非ズ其聞シ所ノ事ヲ汝等ニ
 云ヒ又來ラントスルコトヲ汝等ニ示セバナリ
 又人ヲ助クト云ヒ執成スト云フ、羅馬八ノ二十六ニ曰聖
 靈モ又我儕ノ弱キヲ助ク我儕ハ祈ルベキ所ヲ知ラザレト
 聖靈自ラ言難キノ慨歎ヲ以テ我儕ノ爲ニ祈リヌ
 又凡ノ事ヲ探リ神ノ事ヲ知ルト云フ、前哥林二ノ十一
 ニ曰然レド神ハ其靈ヲ以テ之ヲ我儕ニ顯ハセリ靈ハ萬事

ヲ究^シ子知リ又神ノ深キ事ヲモ究子知ルナリ(中略)此ノ如ク
 神ノ情^トハ神ノ靈ノ外ニ知ル者ナシ
 又己ノ意ニ循ヒテ各人ニ賜ヲ配與スト云フ、前哥林十二
 ノ十一ニ曰然レド凡テ此等ノ事ヲ行フ者ハ同ク一靈ナリ
 彼其心ノマ、ニ各人ニ頒チ與フル也
 又憂フルコトアリ、以弗所四ノ三十二曰神ノ聖靈ヲシテ
 憂ヘシムルコト勿レ
 又聖靈ハ人ヲ潔ム、羅馬十五ノ十六ニ曰聖靈ニ由テ潔マ
 ラシメ云々
 或ハ聖靈トハ惟父タル神ノ別稱ナリト云ヒ或ハ惟神ノ精
 カチ指スト云フ此說ハ聖經ノ教ニ背レル事明白ナリ聖經

ニ謂フ所ノ聖靈ナル者ハ一個ノ殊別ナル「ベルソナ」トシテ存在スルニ非ザレバ存在スルコト能ハザル者ナリ人若シ何故ニ之ヲ聖ト稱スルカト問ハ是レ其父及ビ子ノ神ヨリモ聖ナルガ故ニハ非ズ惟其凡テ人ニ在ル聖善ノ本源タルガ故ナリト我儕ハ答フル也

蓋聖靈ノ職ニ由テモ亦其一個ノ殊別ナル「ベルソナ」タルコトヲ知ルベシ夫レ神ノ子ハ贖罪ノ血ヲ以テ罪ニ墮タル人類ノ爲ニ救拯ヲ買ヒ聖靈ハ其救拯ヲ正シク人ニ受シムルナリ又聖靈ハ預言者及ビ聖經ヲ著ハシタル使徒等ヲ感動シ教會ヲ教ヘ潔メ又前ニモ言ヒシ如クキリストノ事ヲ我儕ニ示シ且我儕ニ凡ノ真理ヲ顯ハス也然レ此處此事ハ後篇

ニ於テ詳説スベシ

第三 聖靈ハ即チ神ナリ、此事ヲ證スル議論ハ前ニキリストノ神タル事ヲ證スル時ニ用ヒタル者ト同種ノ議論ナリ即チ神ノ名稱性德行爲及ビ特尊ノ歸セラル、所ノ者ハ即チ神ナリ然レ此等ノ者ハ皆聖靈ニ歸セラル故ニ聖靈ハ即チ神ナリ

一 聖經ハ聖靈ニ神ノ名稱ヲ歸ス、耶利米三十一ノ三十三ニ曰然レド彼ノ日ノ後ニ我ガイשראלノ家ニ立ン所ノ契約ハ是レ也即チ我が律ヲ彼等ノ衷ニ置キ其心ノ上ニ録サン我ハ彼等ノ神トナリ彼等ハ我が民トナル可シトエホバ言給フ希伯來十ノ十五十六ニ曰聖靈又我儕ニ之ヲ證

スソハ此日ノ後我彼等ト立ントスル契約ハ是也ト言ヘル
 後ニ主言給ハク我が律ヲ其心ニ置キ其衷ニ録シ云々是ニ
 由テ之ヲ觀レバ預言者エレミヤハエホバ即チ神之ヲ言フ
 ト曰ヒ希伯來書著者ハ聖靈之ヲ言フト曰フ也然レバ聖靈
 ハ即チ神ナリト知ラル(利未記十六ノ二、希伯來九ノ七、八比
 較、出埃及記十七ノ七、希伯來三ノ七ヨリ九比較)行傳五ノ三、
 四ニ曰ベテロ云ケルハアナニアヨ何故ニ汝ノ心サタンニ
 滿サレ聖靈ニ對テ偽リシヤ(中畧)汝人ニ對シテ偽レルニ非
 ズ神ニ對シテ偽レル也○前哥林三ノ十六ニ曰汝等ハ神ノ
 殿ニシテ神ノ靈汝等ノ中ニ在スユトヲ知ラザル乎
 三 聖經ハ聖靈ニ神ノ性徳ヲ歸ス

創造、約百紀三十三ノ四ニ曰神ノ靈我ヲ造リ全能者ノ氣
 我ヲ生カシメタリ○詩篇百四ノ三十二曰汝ノ靈ヲ遣レバ
 則チ彼造ラル(創世記一ノ二、約百紀二十六ノ十三、詩篇三十
 三ノ六參考)
 奇跡、馬太十二ノ二十八ニ曰若シ我神ノ靈ニ由テ鬼ヲ逐
 出シ、ナラバ神ノ國ハ最早汝等ニ至レリ○前哥林十二ノ
 八ヨリ十二曰或ハ靈ニ由テ智慧ノ言ヲ賜ハリ(中略)或ハ異
 能ヲ行フ(中畧)然ド凡テ此等ノ事ヲ行フ者ハ同シク一靈ナ
 リ彼其心ノマ、ニ各人ニ頒ケ與フル也(羅馬八ノ十一參考)
 三 聖經ニ於テ聖靈ハ凡テ神ノ恩惠ガ神ノ人民ノ心ニ行
 フ所ノ根源ト認メラル

聖靈ハ能ク人ヲ重生セシム、約翰三ノ五ニ曰人若シ水ト
 靈トニ由テ生レザレバ神ノ國ニ入ルコト能ハズ
 又人ヲ義トシ且之ヲ潔ム、前哥林六ノ十一ニ曰主イエス
 ノ名ニ由リ且我儕ヲ神ノ靈ニ由テ洗ヒ又潔マリ又義トナ
 ルコトヲ得タリ
 人ノ祈禱ヲ助ク、羅馬八ノ二十六ニ曰聖靈モ亦我儕ノ荏
 弱ヲ助ク我儕ハ祈ルベキ所ヲ知ラザレモ聖靈自ラ言難キ
 ノ慨歎ヲ以テ我儕ノ爲ニ祈リヌ
 又人ニ勢力ト冀望ヲ與フ、以弗所三ノ十六ニ曰願クハ其
 榮ノ富ニ從ヒ其靈ヲ以テ汝等ノ衷ノ人ヲ剛健ニシ○羅馬
 十五ノ十三ニ曰冀望ヲ與フル神ノ汝等ヲ聖靈ノ力ニ由

リ其冀望ヲ大ニセンガ爲汝等ノ信仰ヨリ起ル凡ノ喜ト平
 康ヲ滿シメ給ハンコトヲ願ヘリ
 四 聖經ハ聖靈ヲ神トシテ崇拜スベキ事ヲ教フ
 信徒ノ身ヲ指シテ聖靈ノ殿ト稱ス、前哥林六ノ十九ニ曰
 汝等ノ身ハ聖靈ノ殿ナル事ヲ知ラザル乎ト預言者イザヤ
 ハ彼ノ聖キ異象ニ於テ萬軍ノ主ガ高キ位ニ坐シ而シ多ノ
 「セラヒム」ハ其周ニアリ之ヲ拜シ且相呼テ聖キ哉聖キ哉聖
 キ哉ト云フヲ見タリ而シ又此異象中ニ其主イザヤニ告テ
 曰(以賽六ノ九十)往テ斯民ニ言ヘ汝等宜ク聽クベシ惟悟ル
 ナカレ汝等宜ク見ルベシ惟覺ルナカレ云々ト云ヘリトア
 リ然レモ行傳二十八ノ二十五ヨリ二十七ヲ觀ルニ聖靈此

言ヲ預言者イザヤニ告ゲタリトパウロハ言ヘリ約翰十二ノ四十一ニイザヤが見且語シ所ノ榮ハ即チキリストノ榮ナリトアリ我儕若シ此三ヶ處ノ本文ヲ参考セバ神ニ三ニベルソナアル事又子モ聖靈モ神タル事ノ明證ヲ得ベシ何トナレバ此榮ハ特ニ父ノ榮ノミニ非ズ子及ビ聖靈ノ榮ニシテ即チ三一ナル神ノ榮ナレバナリ然レモ今我儕ノ特別ニ注意ヲ要スルハ預言者イザヤガ萬軍ノ主ト稱シ且其此ノ如キ者トシテ拜セラル、ヲ見又其此ノ如キ者トシテ語ルヲ聞タル所ノ者ハ即チ聖靈ナリトパウロガ明言スル事ナリ

キリストモ亦嘗テ聖靈ニ對シテ犯セル罪ハ赦スベカラザ

ル者アリト教ヘ給ヘリ○馬太十二ノ三十一ニ曰我汝等ニ告ゲン人ヤノ凡テ犯ス所ノ罪ト神ヲ瀆ス事ハ赦サレン然レド人ヤノ聖靈ヲ瀆スコトハ赦サルベカラス

又キリスト信徒ハ聖靈ノ名ニ入レテ「バプテスマ」ヲ受ク馬太二十八ノ十九ニ曰父ト子ト聖靈ノ名ニ入レテ「バプテスマ」ヲ施セ

凡テ此等ノ本文ヲ考フレバ聖靈ハ唯神ノ性徳或ハ精力ナリトノ説ノ眞ニ愚ナル事ヲ知ルベシ此等ノ本文ニ謂フ所ノ者ハ唯能ク生命アリ智慧アリテ且聖善ナル存在者ヲ指スコトヲ得ル耳決シテ惟其性徳或ハ精力ヲ指スコト能ハザルナリ是故ニ聖靈ハ一個ノ殊別ナル「ペルソナ」ナリ且神